

2025 年度 年間授業計画

Syllabus シラバス



はじめに

本冊子は 2025 年度のシラバスです。学年・教科・科目ごとに、授業の目標や内容などを示しています。私たち教員は、生徒のみなさんや保護者の方々に本校の教科の教育内容を公開して、理解して頂くことで、よりよい教育を目指したいと考えています。1 年間に学ぶ学習の内容を知ること、計画的に学習するための参考にしてください。また、6 年間の学習内容を見通すことで、将来の進路を考えるときに役立ててください。

各科目のシラバスは、1 科目 1 ページに収まるように、見やすく構成しています。また、各学年の扉ページには、授業風景や学校行事のようすなどを紹介しています。それぞれの学年の授業の一端に触れていただければと思います。扉の裏ページには、下記の内容のコラムを載せました。自分の学年だけでなく、是非、他の学年のページにも目を通してください。

1・2 年カリキュラム／特別活動とシティズンシップ（市民的素養）の育成

3・4 年カリキュラム／文科系か理科系か

5・6 年カリキュラム／SSH とカリキュラム

シラバスを見るときに留意してほしいのは、記載されている内容は、あくまで予定（展開例）だということです。私たち教員は「授業は生（なま）もの」ととらえています。いつも「旬のもの」を生徒たちに届けようとしています。ですから、目の前にいる生徒のみなさんに合わせて、順番を入れ替えたり、最新の話題の教材を使ったり、理解度をチェックしながら時間を余分にかけたりすることがあります。

したがって、1 年間が終わったときに、「シラバス通りでなかった」ということが起こるかもしれません。「おかしいな」と思うときには、遠慮なく担当の先生に尋ねてみてください。なぜ、シラバス通りでないのかを説明します。また、大学入学試験科目の変更や SSH などの諸事情で、学年によってカリキュラムが変わることがあります。後期課程の科目登録の際には、「履修科目選択の手引き」と合わせてじっくり考えてください。

2017 年度より、「65 分授業（5 コマ）」がスタートしました。これは、「じっくりと考えたり、なかまと協力したりして問題を解決することを通じて、学習の“質”を深める」ことをねらいとした新しい学習指導要領（国の目指す教育の指針）やそれにもとづく大学入試を意識したものです。また、90 分程度が主流の大学の授業へのスムーズな移行をめざしたものでもあります。授業での話し合いや実験、創作活動、表現活動の時間が増えたり、予習や復習を授業内で行ったり、授業で扱った内容を使ってさらに高度な課題に取り組んだり、この枠組みを生かした様々な授業が行われています。また、2021 年度の前期課程より、新しい教育課程が学年進行でスタートしました。シラバスも新しい教育課程にあわせて改編しています。授業を通してどのような能力を身につけてほしいのかを示しています。

この「65 分」という時間をプラスとするかマイナスにするかは、生徒のみなさんの授業への姿勢にもかかっています。授業回数が少ない分、一つ一つの授業の価値はいままで以上に大きくなっています。授業を「受け身」に受け取るのではなく、みなさん自身が「問い」を持ち深める姿勢を忘れずに、授業に取り組んでください。

2025 年 4 月

教科・科目一覧

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
国語	国語	国語	国語総合	現代の国語 言語文化	論理国語 古典探究	論理国語 古典探究(文) 古典探究(理) 文学探究
社会	社会 (地理的分野)	社会 (歴史的分野)	社会 (公民的分野) 地歴総合 I	地歴総合 II 公共	公共 日本史探究 世界史探究 地理探究	日本史探究 世界史探究 地理探究 倫理 政治・経済 日本史特講 世界史特講 ※地理特講
数学	代数 I 幾何 I	代数 II 幾何 II	解析入門 代数・幾何入門	解析 I 代数・幾何 I	解析 II 代数・幾何 II	解析 III 代数・幾何 III 数学演習 数学特講
理科	理科 1 理科 2	理科 1 理科 2	理科総合 化学入門	物理入門 生物入門	物理 化学基礎・化学 生物	物理 化学 生物 ※物理演習 化学演習 生物演習
体育	保健体育	体育 保健	体育 保健	体育 保健	体育	体育
創作	技術 家庭 音楽 美術	技術 家庭 音楽 美術	技術 家庭・家庭基礎 音楽 美術	家庭基礎 音楽 I 美術 I 工芸 I		音楽 II 美術 II
英語	英語	英語	Topic Studies I Writing I	Topic Studies II Writing II	Topic Studies III Writing III	Topic Studies IV Writing IV 英語探究
総合など	探究入門 道徳	探究入門 II (情報と表現) (情報と科学) 道徳	探究基礎 道徳	基盤探究 I 統計入門 AG	基盤探究 II (コロキウム) (科学探究) (社会貢献) (PICASO) AG	基盤探究 III (科学探究) (社会貢献) (PICASO)

※ 2025 年度は開講されません AG は別途説明会があります

シラバスの見方

学 年	1	科目名	国語			使用 教科書 主教材	
理系・文系 共通		必修・必修選択・自由選択				副教材	
		コマ数		単位数			

※種別…必修、必修選択、自由選択

- ・必修：卒業するために必ず修得しなければならない科目
- ・必修選択：複数の科目の中から指定された単位数を選択し、必ず修得しなければならない科目
- ・自由選択：各自の進路や希望に応じて、自由に選択できる科目

目 標				
育 て たい 力	知識・技能	思考力・判断力・ 表現力等	学びに向かう力・ 人間性等	学びを活性化する力
学 習 方 法				
評 価		%		
		%		
		%		

※各科目の目標と、さらに各教科で定めている育てたい力を4つの観点に分けて、示しています。

※目標に基づいて、学習方法と評価の方法について説明しています。

	学習内容	ねらい
1 学 期		
2 学 期		
3 学 期		

※上の表は、1年間の学習計画です。教科・科目によっては、題材や順序が変わることがあります。定期考査の範囲も授業の進度により、変更される場合があります。

備考	
----	--

学年	1	科目名	国語			使用教科書 主教材	国語 1 (光村図書) 中学書写 (光村図書)
理系・文系		必修	・必修選択・自由選択			副教材	学習漢字ノート 1 光村図書版 (浜島書店) 国語の学習 1 光村図書版 (浜島書店)
共通		コマ数	2.5	単位数			

目標	将来の社会生活・言語生活を円滑に、また豊かに送るための基盤となる漢字や語彙をきちんと身につける。基礎的な読解力、言葉による表現力と聴解力を養い、言語文化に対する興味関心を持つ。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	基礎的語彙の理解と定着とともに、基本的な言語運用能力。 言語文化に対する基礎的な理解。	文章に応じた読解の手順を身につけ、自分の伝えたいことを、様々な表現手段に応じて伝えられる力。	身につけたものの見方や考え方を言語生活に役立てる姿勢。他者との交流に対する意欲。 言語文化への興味。	テキストの多様性を知る力。交流を通じて他者の考え方の特徴や良い点を知る姿勢。
学習方法	教科書教材を丹念に読むことを中心に学習する。その中で、話し合いや文章表現などの言語活動を取り入れる。扱う教材に応じて、映像や関連教材も扱う。ICT 活用も積極的に行う。			
評価	知識・技能	40 %	授業態度・学習意欲・定期考査・小テスト・提出物などを総合的に評価する。	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1 学期	・詩「朝のリレー」「野原はうたう」等 ・物語「はじまりの風」「星の花が降るころに」等 ・説明文「ダイコンは大きな根?」「ちょっと立ち止まって」等 ・古典、歴史的仮名遣い、百人一首等 ・漢字 1、語彙	・教科書にある様々なジャンルの文章を読み、様々なものの見方や考え方に触れ、読む力を身につけるとともに自分の考えを表現する力を養う。また、話し合いの活動を通じて他者の考え方の特徴を知る。 ・歴史的仮名遣い、漢字や語彙を学ぶことによって、言語文化に興味を持つ。
2 学期	・物語「大人になれなかった弟たちに・・・」等 ・記録文「言葉をもつ鳥、シジュウカラ」等 ・意見文「不便」の価値を見つめ直す」等 ・古典「蓬萊の玉の枝」等 ・文法への扉 1.2・漢字 2 ・書写「いろはうた」	・伝えたい内容をわかりやすく表現するための、資料の使い方や引用の仕方を学ぶ。 ・情景や行動の描写を通して登場人物の心情を読み取り、物語の構成や場面の工夫をとらえる。 ・古典の面白さを知り、古典世界に親しむ。
3 学期	・小説「少年の日の思い出」等 ・古典「今に生きる言葉」等 ・文法への扉 3・漢字 3、語彙 ・書写「楷書と行書」	・比較的長い小説を読むことで、ストーリー展開の工夫や人物の心情の変化をとらえる。 ・故事成語を知ること、古典の面白さを知る。 ・普段使用する文字の形やことばのきまりに興味を持つ。 ・行書の基礎的な書き方を理解する。

備考	時間割に提示される「国語 1」「国語 2」を総合して記しています
----	----------------------------------

学年	1	科目名	社会（地理的分野）			使用教科書 主教材	『社会科 中学生の地理』（帝国書院） 『中学校社会科地図』（帝国書院）
理系・文系		必修	・必修選択・自由選択			副教材	『アクティブ地理 総合』（浜島書店）
共通		コマ数	2.5	単位数			

目標	日本と世界について一般教養レベルの知識を獲得し、理解を深める。 資料活用能力を育成するとともに、自分の意見を表現する能力を養う。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	・地域構成と自然的・社会的環境に関する基本知識の理解 ・地図、表、グラフなどから地理情報を読み取り、まとめる技能	・諸資料を活用し、地理に関する事象の意味や意義等を考察する力 ・考察した内容を自らの意見もふまえて適切に表現する力	・知的好奇心を持って主体的に調べ、諸課題を意欲的に探究する力 ・世界の多様性について共感的に理解しようとする力 ・地理的諸課題の解決に主体的に関わる力	・他者と協働しつつ、自らの考えを再構築し、問題の所在、課題の立て方をとらえ直す力 ・歴史的・現代的な諸課題と教科の学びとをつなげて理解し、社会へと視野を広げる力
学習方法	教師の講義を中心としつつ、作業、生徒発表、生徒相互の討議等を取り入れることを心がける。また、基礎的な知識の獲得をめざすとともに、共感的理解が得られる方法も探る。			
評価	知識・技能	40 %	授業態度、定期考査、提出物、発表などを基に、総合的判断で評価する。	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1学期	1. 地図と防災 2. 地球と人間 3. 世界と日本の地形 4. 世界と日本の気候	・通学路における危険を GIS を取り入れた地理的な見方で学習し災害に備える。 ・行事との連携を視野に入れ、地形図の読図によって自然的・社会的環境についての認識を深める。 ・地理的広がり・地形について認識する。 ・気候と人間生活との関わりを深さを理解する。
2学期	5. 世界地誌 6. 日本地誌	・世界の諸地域の学習により、均衡のとれた国際感覚を身につけることをめざす。 ・系統的に学習活動を進めることで、日本地理の知識を整理する力と論理的思考力を身につける。
3学期	7. 世界から見た日本 8. 人類的課題と私たち	・日本が国際社会に果たすべき役割を考える。 ・現代日本の諸問題を世界と関連させて扱い、人類の生存のために何が大切かを考える。

備考	持ち物／教科書・地図帳・資料集・ノート・ファイル・色鉛筆 参考書等／各種地理関係の文献・紀行文などを授業で紹介する。
----	---

学年	1	科目名	代数Ⅰ			使用教材	教科書 主教材	未来へひろがる数学1（啓林館） システム数学1テキスト 4th Edition 代数編（啓林館）
理系・文系		必修	・必修選択・自由選択				副教材	システム数学1問題集 4th Edition 代数編（啓林館）
共通		コマ数	2	単位数				

目標	正・負の数や文字、方程式、比例などを用いて、いろいろな事象を数学的に表現することができる。 中学年・高学年へつながる基礎的な知識・技能や数学的な考え方等を身につける。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	正負の数、文字式の計算の意味やその方法を、これまでの数の四則計算と関連づけて理解することができる。	正負の数、文字式の計算や方程式を解くことができ、それらを用いて、いろいろな事象を表現できる。	数学の歴史を通じて、記述代数の巧みさと記号代数の簡潔さ、素晴らしさを感じることができる。	数学的活動において、自分の意見を主張したり、仲間の意見と比較したりして、検討・判断することができる。
学習方法	操作や実験活動も行いながら、代数計算に習熟するように学習する。この学習は、数学の基礎・基本をなすものであるから、ドリルの側面も重視した学習活動を行う。			
評価	知識・技能	40 %	授業態度・学習意欲・定期考査・小テスト・課題テスト・提出物・レポートなどを総合的に評価する。	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1学期	1. 正の数と負の数（中1） 正負の数，加法と減法 乗法と除法，課題学習 2. 文字を用いた式（中1・中2） 文字を使った式 文字式の計算，課題学習	- 負の数の意味を知り、正負の数に関する四則演算のきまりを理解し、これらの計算に習熟する。 - 文字の意味を理解し、さまざまな数量を文字で表すことができる。 - 文字式の計算のきまりを理解し、その計算に習熟する。 - 単項式、多項式などの用語の意味を理解し、多項式の四則計算の方法を理解し、その計算に習熟する。
2学期	3. 1元1次方程式（中1） 方程式 1次方程式の利用，課題学習 4. 連立2元1次方程式（中2） 連立方程式，連立方程式の利用，課題学習	- 式の値を求めることができる。 1元1次方程式と、その解の意味を理解する。 - 等式の性質を理解し、その性質を利用して1元1次方程式を解けるようになり、習熟する。 - 連立方程式を解くことができる。
3学期	5. 比例・反比例（中1） 関数とは，比例と反比例 比例・反比例の利用，課題学習	- 関数の意味を理解する。 - 負の数まで拡張し、比例・反比例の関係を理解する。 - 比例・反比例を利用して、具体的な事象を考察することができる。

備考	特になし
----	------

学年	1	科目名	幾何 I			使用教材	教科書 主教材	未来へひろがる数学 1 (啓林館) システム数学 1 テキスト 4th Edition 幾何・統計編 (啓林館)
理系・文系		必修	必修選択・自由選択				副教材	システム数学 1 問題集 4th Edition 幾何・統計編 (啓林館)
共通		コマ数	1.5	単位数				

目標	図形に関する基本的な知識・理解をもとに、証明の方法を習得して論理的に表現することができる。 中学年・高学年へつながる基礎的な知識・技能を身につける。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	操作的活動を通じて、平面図形や空間図形の基本的性質を理解することができる。	演繹的な推論の進め方や考え方を理解し、自ら展開することができる。	探究活動を通じて、図形の性質を見いだそうとする。初等幾何学の普遍性と論理性を味わうことができる。	数学的活動において、自分の意見を主張したり、仲間の意見と比較したりして、検討・判断することができる。
学習方法	主教材を中心に学習を進めていく。「1.予想→2.操作・実験→3.直観的に理解→4.論理的に説明・証明→5.拡張・一般化」の数学的活動を重視し、授業を展開する。実験や観察を通じた学びにより、知識・理解の定着を図ると共に、今後につながる主体的に学ぶ態度を育成する。			
評価	知識・技能	40 %	授業態度・学習意欲・定期考査等のテスト・提出物・レポート（課題学習を含む）などを総合的に評価する。	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1 学期	1. 空間図形を楽しむ 多面体とオイラーの定理 2. 平面図形（中 1・中 2） 直線と角、図形の移動 基本的な作図 円と扇形の計量	・折り紙やポリドロンで立体を作り、その美しさを感じる。 ・正多面体の種類数を体験的、直観的に考察する。 ・直線や角について、基礎となる事項を習得する。 ・具体的な課題を考え、基本的な作図方法を発見し、その方法を習得する。 ・円の基本的な性質を理解する。
2 学期	3. 空間図形（中 1） 直線や平面の位置関係 立体のいろいろな見方 柱体・錐体の表面積・体積 球の表面積・体積 立体の切断 4. 図形の合同（中 2） 角と平行線、多角形の角 三角形の合同条件	・空間における直線や平面の位置関係、空間の直線と平面のなす角について理解する。 ・面が動いて立体をなすこと、回転体について理解する。 ・立体のいろいろな表し方（投影図や展開図等）を理解する。 ・実験や展開図から、柱体・錐体・球などの表面積や体積の公式を導き、求められる。 ・四角形の内角の和を、様々な方法で求められる。 ・三角形の合同条件を導き、それを利用して三角形の合同を証明できるようになる。
3 学期	二等辺三角形の性質 直角三角形の合同条件	・合同条件を使って、二等辺三角形の性質が証明できるようになる。 ・直角三角形の合同条件を導き、合同の証明をすることができるようになる。

備考	特になし
----	------

学年	1	科目名	理科Ⅰ			使用教科書 主教材	「未来にひろがるサイエンスⅠ」啓林館
理系・文系		必修	・必修選択・自由選択			副教材	「実験ハンドブック」本校作成教材 「サイエンスワークⅠ」啓林館
共通		コマ数	1.5	単位数			

目標	身の回りの自然の事物・現象に多く触れさせ、科学的な概念形成の基礎を作る。また、基本的な実験操作や観察方法を習得させる。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	経験に基づいて自然科学の知識を習得し、基本的な実験操作や観察方法を身につける。	身の回りの自然現象について、比較・分類や論理的な思考をしたりすることができる。	身の回りの自然現象に関心を持ち、それを探究しようとする態度。	身の回りのさまざまな自然現象について、自らの経験に基づいて、議論や説明ができる。
学習方法	授業は観察や実験を多く取り入れている。自然現象に関心を持ち、観察、実験から得られた結果から議論や説明できるようになること。必要に応じて、話し合いなどの活動も取り入れる。復習は、教科書を読むことを中心に学習する。副教材の問題集は自学に活用すること。			
評価	知識・技能	40 %	「知識・技能」、「思考・判断・表現」は主に定期考査・レポート・実験観察技能などで評価する。「主体的に学習に取り組む態度」は主に授業態度・課題の提出・出席状況などで評価する。	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1学期	身のまわりの現象 1. 光の性質 2. 音の性質 3. 力のはたらき	- 光の反射や屈折、凸レンズの働き、音の性質などについて、実験を通してその規則性を理解する。 - 力は大きさと向きにより表されることを知る。 - 物体に力を働かせる実験から、力の働きの規則性や関係性を見いだして理解する。
2学期	大地の活動 1. 活動する地球 2. 自然との共生（災害） 3. 移り変わる地球	- マグマの性質の違い、火山岩と深成岩の組織の違いなどから、火山活動について理解する。 - 地震の伝わり方を理解し、震源地の特定を試みる。
3学期	4. 地球史の読み方 5. 地球と生命の進化	- 地表のゆっくりとした営みを実感することにより、地質学的な時間の流れが分かるようになる。 - 世代を重ねた生物の変化(生命の進化)について考える。

備考	ティーチングアシスタント(TA)を導入する。
----	------------------------

学年	1	科目名	理科 2				使用教材	教科書 主教材	「未来にひろがるサイエンス 1」 啓林館
理系・文系 共通	必修・必修選択・自由選択					副教材		「高等学校 地学基礎」 第一学習社 「実験ハンドブック」 本校作成教材 「サイエンスワーク 1」 啓林館	
	コマ数	1.5	単位数						

目標	身の回りの自然の事物・現象に多く触れさせ、科学的な概念形成の基礎を作る。また、基本的な実験操作や観察方法を習得させる。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	経験に基づいて自然科学の知識を習得し、基本的な実験操作や観察方法を身につける。	身の回りの自然現象について、比較・分類や論理的な思考をしたりすることができる。	身の回りの自然現象に関心を持ち、それを探究しようとする態度。	身の回りのさまざまな自然現象について、自らの経験に基づいて、議論や説明ができる。
学習方法	授業は観察や実験を多く取り入れている。自然現象に関心を持ち、観察、実験から得られた結果から議論や説明できるようになること。必要に応じて、話し合いなどの活動も取り入れる。復習は、教科書を読むことを中心に学習する。			
評価	知識・技能	40 %	「知識・技能」、「思考・判断・表現」は主に定期考査・レポート・実験観察技能などで評価する。「主体的に学習に取り組む態度」は主に授業態度・課題の提出・出席状況などで評価する。	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1 学期	いろいろな生物とその共通点 1. 生物の観察と分類のしかた 2. 植物の分類 3. 動物の分類	- 生物を観察するための基本スキルを身につける。 - 身の回りの動植物に親しみ、それらの共通点や相違点に気づき、分類の観点を理解する。
2 学期	身のまわりの物質 1. 物質の分類 2. 粒子のモデルと物質の性質	- 純物質にはそれぞれ固有の密度や融点・沸点があることを理解し、物質を特定することができる。 - 物質の溶解のしかたについて、粒子モデルを用いて説明できる。 - 溶解や再結晶を溶解度曲線から説明できる。
3 学期	3. 粒子のモデルと状態変化	- 気体の発生方法とその性質について理解する。 - 物質の状態変化を、粒子モデルから説明できる。 - 物質の融点・沸点の違いを利用して、混合物から純物質を単離できることを理解する。

備考	ティーチングアシスタント(TA)を導入する。
----	------------------------

学年	1	科目名	保健体育（男子）			使用教科書 主教材	「保健体育」（大修館書店）
理系・文系		必修	・必修選択・自由選択			副教材	特になし
共通		コマ数	2.5	単位数	3		

目標	基礎的な運動能力と体力の定着を図る。運動の楽しさや喜びを味わう。 学習活動を通して他者への気づきと思いやりを身につけ、集団作りを行う。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	運動を楽しむことができるような各種基本技能。自分と周囲の安全への配慮と理解。	他者への気づきと思いやりの思考と行動。集団内での適正な判断力。自己のからだを感じることができる力。	自ら進んで運動に親しむ、楽しむ能力や態度。「できない」ことを恐れずに挑戦しようとする姿勢。	「なかま」と協力してともにステップアップしようと行動する力。
学習方法	教師側からの指示に従って動けばよい場合（一斉指導）もあるが、「自ら考えて」動かなくてはならない場面も多く、積極的な取り組みを期待している。			
評価	知識・技能	40 %	授業態度・学習意欲・実技・出席状況・課題の到達度などを総合的に評価する。	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1学期	・体ほぐし、体づくり運動 ・ハンドゲーム ・スイミング	・各種運動やゲームを通し、これからの学校生活を共にする「なかま」との出会いを豊かにする。 ・各種運動の基礎となる「からだの動き」を身につける。 ・球技の基礎を簡単なゲームを楽しみながら学ぶ。 ・各種泳法の基礎を学ぶこと。水中での危険性を学び、自他の安全を確保する力を身につける。
2学期	・ダンス ・ジムナスティクス ・ハンドゲーム	・リズムに合わせて「表現する」楽しさを体感する。 ・自分のからだに相談しながら、「表現」することの面白さを体感する。 ・攻防の楽しさを理解しながら、なかまとともにゲームを楽しむ。
3学期	・ランニングスキル ・フットゲーム	・なめらかな動きで早く走ることや、ペースを守り一定の距離を走る力を身につける。 ・足でボールを扱うことの難しさと面白さを体験し、自らのからだの変化を体感する。
通年	・体育理論 ・保健	・運動の多様性に触れ、運動の楽しみ方や関わり方を学ぶ。 ・人との関わりの中で、自らの心身の発達における課題を見つけ、健康を保つための適切な運動や行動を身に付ける。

備考	特になし
----	------

学年	1	科目名	保健体育（女子）			使用教科書 主教材	「保健体育」（大修館書店）
理系・文系 共通		必修	・必修選択・自由選択			副教材	特になし
		コマ数	2.5	単位数	3		

目標	基礎的な運動能力と体力の定着を図る。運動の楽しさや喜びを味わう。 学習活動を通して他者への気づきと思いやりを身につけ、集団作りを行う。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	運動を楽しむことができるような各種基本技能。自分と周囲の安全への配慮と理解。	他者への気づきと思いやりの思考と行動。集団内での適正な判断力。自己のからだを感じることができる力。	自ら進んで運動に親しむ、楽しむ能力や態度。「できない」ことを恐れずに挑戦しようとする姿勢。	「なかま」と協力してともにステップアップしようとする力。
学習方法	教師側からの指示に従って動けばよい場合（一斉指導）もあるが、「自ら考えて」動かなくてはならない場面も多く、積極的な取り組みを期待している。			
評価	知識・技能	40 %	授業態度・学習意欲・実技・出席状況・課題の到達度などを総合的に評価する。	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1学期	・体ほぐし、体づくり運動 ・ハンドゲーム ・スイミング	・各種運動やゲームを通し、これからの学校生活を共にする「なかま」との出会いを豊かにする。 ・各種運動の基礎となる「からだの動き」を身につける。 ・球技の基礎を簡単なゲームを楽しみながら学ぶ。 ・各種泳法の基礎を学ぶこと。水中での危険性を学び、自他の安全を確保する力を身につける。
2学期	・ダンス ・ジムナスティクス ・ハンドゲーム	・リズムに合わせて「表現する」楽しさを体感する。 ・自分のからだに相談しながら、「表現」することの面白さを体感する。 ・攻防の楽しさを理解しながら、なかまとともにゲームを楽しむ。
3学期	・ランニングスキル ・フットゲーム	・なめらかな動きで早く走ることや、ペースを守り一定の距離を走る力を身につける。 ・足でボールを扱うことの難しさと面白さを体験し、自らのからだの変化を体感する。
通年	・体育理論 ・保健	・運動の多様性に触れ、運動の楽しみ方や関わり方を学ぶ。 ・人との関わりの中で、自らの心身の発達における課題を見つけ、健康を保つための適切な運動や行動を身に付ける。

備考	特になし
----	------

学年	1	科目名	技術			使用教科書 主教材	「技術・家庭 技術分野」(開隆堂)
理系・文系 共通		必修・必修選択・自由選択 コマ数	0.75	単位数		副教材	「情報モラル」(数研出版)

目標	科学・技術への興味・関心を高め、生活を向上させる主体的な姿勢と技能を身につける。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	材料・工具、生物育成に関する基礎的知識と技能の獲得。	製作の中で問題と向き合い、考え、技能を活かし、評価・改善し、解決する力の獲得。	ものづくりや生物育成を通じ、科学・技術への意欲と態度の育成。	ものに対する興味・関心を製作・育成意欲に結びつける力の育成。
学習方法	素材に触れることを重視し、材の性質を学ぶ。基本的な工具については実技指導を行い、安全な使用と効率的に作業を進めるコツを学び、自分の課題に向き合い製作実習に取り組む。			
評価	知識・技能	40 %	授業態度・学習意欲・定期考査・提出物・実技・自己評価	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
通年	- 材の性質 木材・金属・プラスチックなどの身近な材料について特徴を学ぶ。 - 工具の使用 鉋・鋸・玄翁などの基本的な工具について、使用方法を学ぶ。 - 製作実習 木材を用いた課題制作を行う。 - 生物育成 夏野菜の栽培や芝生の育成について学ぶ。 - 情報モラル 著作権や個人情報などについて学ぶ。	- 材の特徴を知り、社会の中でその材料が使用されるとき活かし方や環境問題などの関連を知る。 - 製作を行うときに適した材料を選択し、加工できる力をつける。 - 基本的な工具について安全かつ効率的な使用技能を習得する。 - 工具の中に活かされている工夫を科学的な視点から理解することができる。 - 設計から製作、検査、改善といった製作の流れを経験し、プロジェクトの進め方を学ぶ。 - 自身の利用方法に応じた独自の工夫や仕上げなど、作品としての表現を行う。 - 植物の手入れの技能や知識を習得する。 - 育成環境と環境問題について考える力をつける。 - 情報社会の中で適切な行動を選択する力をつける。

備考	技術・家庭の授業のうち、技術と半分ずつの時間を学習する。
----	------------------------------

学年	1	科目名	家庭			使用教科書 主教材	技術・家庭 家庭分野（開隆堂）
理系・文系		必修	必修選択・自由選択			副教材	自作プリント 裁縫道具を準備してください。
共通		コマ数	0.75	単位数			

目標	家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣生活について、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につける。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	家族・家庭の基本的な機能、地域との関わりについての理解 衣服の機能、選択と手入れ、製作についての基礎的な知識と技能	家庭生活や地域社会の中から課題を見だし、考え解決する力 衣生活についての課題を見だし、考え解決する力	家族・家庭や地域と関わり、家庭生活をよりよくしようとする実践的な態度 衣生活を工夫し生活の中で実践する態度	学びを応用させて、家庭生活や衣生活に生きる力
学習方法	座学と被服実習を組み合わせ、家族と家庭生活や衣生活の内容を中心に学習する。 被服実習については被服教室で学習する。実習では、各自裁縫道具を用意し、取り扱いに注意する。 また安全に留意し、事故のないように使用方法を守って実習する。			
評価	知識・技能	40 %	授業態度・学習意欲・提出物・レポート・発表・出席状況・実技・作品の技能・定期考査など	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
学年	- 家族・家庭生活 - 衣服の機能 - 衣服と社会生活 - 被服製作の基礎・基本と応用 裁縫道具・ミシンの使い方 被服作品製作など - 被服材料の種類と特徴 - 被服管理と環境 - 衣服の計画的な活用と選択 - これからの衣生活	- 家族の一員としての自覚をもって、家庭の仕事に協力する姿勢を養い、生活的自立を図り、創意工夫する態度を身につける。 - 衣服の社会生活上のはたらきがわかる。 自分らしい着方を工夫することができる。 - 被服製作に必要な用具の基本的な操作技術を学ぶ。 - 簡単な被服作品を製作し、基礎・基本的な縫い方を学ぶ。 創造する喜びや達成感を体験する。 - 被服材料の種類や特徴、被服管理の方法を学び、被服の選択・購入・着装・手入れに応用できる力を身につける。

備考	技術・家庭の授業のうち、技術と半分ずつの時間を学習する。
----	------------------------------

学年	1	科目名	音楽			使用教科書 主教材	「中学生の音楽 1」(教育芸術社) 「中学生の器楽」(教育芸術社)
理系・文系		必修	・必修選択・自由選択			副教材	ギター、教材プリント、(鍵盤ハーモニカ)
共通		コマ数	1	単位数			

目標	音楽の基礎知識・技能を習得する。自己の感性を育み、また他者の感性を認める。 多様な価値に触れ、表現の喜びを得る。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	音楽の構造や歴史的背景等から多面的に楽曲を理解する。歌唱や器楽表現における基礎技能を習得する。	適切な楽曲理解を基に、根拠を持って独自の表現を考えることができる。自発的な感性に基づいて音楽表現を工夫できる。	楽曲のよさや美しさを味わい、人に伝えることができる。多様な感じ方を認めることができる。	音や音楽に関心を持ち主体的に音楽表現や鑑賞を楽しむ力。音楽理解と基礎技能を自己の表現力へと結びつける力。
学習方法	多様な表現に触れる。表現の独自性を探究する。 器楽や歌唱表現では、模倣ではなく独自の表現の確立を目指す。 随時小編成のアンサンブルを行い、表現の工夫について互いに話し合う活動を行う。			
評価	知識・技能	40 %	授業態度、学習意欲、発表・実技テスト、ワークシート、その他提出物等	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1学期	1.発声の仕組みと身体 2.曲のまとまりと構成、旋律線を活かした表現の工夫 《浜辺の歌》《夏の思い出》等 3.ギター基礎演奏 (音階・メロディ演奏)	・息と声、身体の使い方などを知り、無理のない発声を目指す。 ・曲の構造をもとに曲想を感じ取り、表現を工夫する力を身につける。鑑賞を通して曲の特徴をとらえ、音楽のよさや美しさを味わう力を身につける。 ・フレーズの特徴をとらえ、音楽表現の基礎的な技能を身につける。 ・楽器の特性を知り、基礎から学び個々の技術を高める。
2学期	4.二部合唱による表現の工夫 《Believe》《Forever》等 5.ギターコード演奏 (コード演奏 C,G7 を中心に) 6.歌詞内容と曲想 《赤とんぼ》《主人は冷たい土の中に》等	・クラスで一つの音楽表現を作り上げる過程で、互いの個性や感性を認め合いながら、高い協調性に裏付けされた表現を目指す。 ・基本コード C,G7 を用いて伴奏にチャレンジし、息づかいやタイミングを合わせることを学び、アンサンブルを楽しむ。 ・歌詞の内容、時代背景などを手掛かりに、より深い音楽表現を行う。また歌詞と音との結びつきを感じ、丁寧な歌唱を身につける。
3学期	7.創作とリズムアンサンブル 《クラッピングカルテット》等 8.鑑賞(声種と多様な表現) 《魔王》等	・拍子やリズム、記譜法など楽典基礎を理解し、正確なリズム打ちができる。創作活動を行い、グループで表現を工夫し協調性を養う。 ・歌曲について学び、歌詞の世界観と音楽の結びつきを理解し、様々な歌手を聴き比べながら表現の多様性を味わう。
通年	・クラシック音楽の歴史と発展 ・発声法、器楽奏法 ・楽典基礎 ・写譜	・教養としての音楽史を学び、音楽への興味関心を高める。 ・思いや意図を適切に音に反映させる基礎的技能を身につける。 ・表現や鑑賞の基礎知識として各学習を通じて学ぶ。 ・写譜を通して楽譜と丁寧に向き合い、楽譜の構造を知る。

備考	特になし
----	------

学年	1	科目名	美術			使用教科書 主教材	「美術 1 美術との出会い」(日文)
理系・文系		必修	・必修選択・自由選択			副教材	「美術資料」(秀学社)
共通		コマ数	1	単位数			

目標	美術の基本的な知識・技能を習得し、美術に親しむ態度を身につける。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	素材や技法を通じた体験や発見を大切にし、自らの表現に活かす。	観察や構成の基礎的知識を身につけることによって視覚の客観性について学ぶ。	作品制作において、創意工夫を重ね、自分自身の好みやオリジナリティを理解する。	主題について理解し、作品制作を主体的に捉え、向上心を持って取り組む。
学習方法	○様々な素材や技法を使い、主題に基づいた作品制作を行う。 ○習得した知識や技能を活用し、自らの考えや思いを作品に反映させられるよう取り組む。 ○主題が類似した過去の美術作品を鑑賞し、作品制作に必要な教養を身につける。			
評価	知識・技能	40 %	授業態度・課題プリント及び作品の提出	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1 学期	平面表現 (鉛筆描写・作図) ○様々な遠近表現 ○遠近法/透視図法の理解・作図 ○鑑賞「遠近法の発明」 ○遠近法を活用した制作 ○Adobe Illustrator/Photoshop の使用法	◇透視図法について理解し正確な作図ができる。 ◇「見え方」や「見方」について考える。
2 学期	平面表現 (色彩構成) ○色はなぜ見えるのか ○色相環・補色のはたらき ○色の三属性【色相・明度・彩度】 ○色の組み合わせによる視覚イメージの変化 ○三原色の理解と混色方法 ○暖色寒色に関する制作	◇絵の具の素材・材料の特性を理解する。 ◇色の持つ性質やはたらきを理解する。 ◇色の構成力を養う。 ◇アクリルガッシュ絵の具の素材や技法について知る。 ◇アクリルガッシュ絵の具の混色方法を習得する。
3 学期	平面表現 (色彩構成) ○暖色寒色に関する制作	◇2 学期に同じ

備考	特になし
----	------

学年	1	科目名	英語				使用教材	教科書 主教材	Here We Go! 1（光村図書） Active phonics（正進社）
理系・文系 共通	必修・必修選択・自由選択					副教材		徹底演習テキスト英語 中1（受験研究社） ジュニアクラウン中学英和・和英辞典（三省堂） 自作プリント	
	コマ数	3.5	単位数						

目標	英語の音声的特徴を理解し、標準的な発音を身につける。 英語特有の統語構造を理解・活用し創造的な言語使用を行う。 英語の定型表現や基本的語彙を使って、相手の意見を聴き取ったり、自分の意見を話したりする。 学習方法を意識し、基礎的な学習習慣をつける。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	日常生活の身近な話題についての学習を通して、言語の働きや運用についての知識を身につけ、コミュニケーションで活用することができる。	目的・場面・状況等に応じて、身近な話題について、必要な情報を選択・整理するとともに、初歩的な英語やジェスチャーなどの非言語的手段を用いて、情報や考えなどを表現し伝え合うことができる。	異なる言語やその背景にある文化に関心を持ち、理解し尊重しようとする。協力して言語活動に積極的に取り組もうとする。	ペア・ワークやグループ・ワークに積極的に参加し、集団の中で英語を学ぼうとする。自己の学習態度を振り返り、自ら学習する習慣を身に着ける。
学習方法	授業は主に英語を用いて進められ、英語で聞き、英語で応答することを目指す。 授業中はペアやグループで英語を用いた活動を行う。 英語学習の基礎基本となる語句については、小テストで確認する。			
評価	知識・技能	50 %	定期考査・発表・小テスト・長期休業後課題確認テスト・提出物・授業参加	
	思考・判断・表現	30 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1学期	phonics アルファベット 辞書の使い方 ローマ字 数字 名詞 (単数・複数) 指示代名詞 be 動詞と一般動詞 (一・二人称) 形容詞 頻度を表す副詞 can	文字を正しく読めるようになる。 使える語彙を増やす。 日常生活の場面で英語を使う力を身につける。 自分のことについて伝える力を身につける。
2学期	be 動詞と一般動詞 (三人称) 3単現 疑問詞 代名詞 命令文	身近な人のことについて伝える力を身につける。 使える語彙を増やす。
3学期	接続詞 過去形 (be 動詞と一般動詞) 現在進行形 look+形容詞	さまざまな話題や形式の文に触れ、言葉の使用場面と意味、形や規則を整理し、適切に使えるようになる。自分や日常生活についてまとまりのある内容を伝え合うことができる。過去の出来事や感想を伝える力を身につける。

備考	上に書かれた教材の他にプリントが配布される。ファイルに綴じて管理すること。
----	---------------------------------------

学年	1	科目名	探究入門 (情報と表現)			使用 教材	教科書 主教材	特になし
理系・文系 共通		必修	・必修選択・自由選択				副教材	自作プリントなど
		コマ数	0.5	単位数				

目標	身近なメディアの表現の工夫に気づきながら、自分が調査したことや、感じたこと・考えたことなどを他者に分かりやすく伝えるための表現力と技能を身につける。コンピュータやタブレットの基礎的な使用方法を学び、簡単な文書やポスターなどを作成できるようになる。			
	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
育てたい力	語彙を増やし、適切な表現力を身につける。メディア・リテラシーについて受信・発信に関わる基礎的な知識と技能を身につけている。	伝える場面、相手や目的に応じた表現を工夫し、文書を作成する力を養う。	他者意識を持って表現を工夫し、他者に自分の意見をわかりやすく伝えるという意識を持つ。	実際の新聞記事や書籍などに触れる。他者の発表を聞く。基礎的なコンピュータ操作ができる。
学習方法	コンピュータやタブレット型端末を用いて、これからの社会に必要なコンピュータスキルの習得や、メディアに関する知識の習得を目指す。一斉授業、グループ活動、個人活動、発表など、多様な学習方法を用いる。			
評価	授業態度・学習意欲・提出物・レポートなど			

	学習内容	ねらい
1 学期	①「自分新聞」(自己紹介文)を扱う ②国語の授業のレポート課題について、手書きのものをタイピングしながらタイピングの練習をする。 ③読書ボード作成の方法を学ぶ(夏休み課題)	①初めて会った人に伝わりやすい文章を書く方法を考える。写真やイラストなども用いた効果的な表現について知る。 ②MS Wordなどの基本的な使い方を知る。タイピングの基本的な技能を習得する ③既に本校で作られた読書ボードを見て、その表現の工夫を学ぶ。
2 学期	④夏休みに製作した読書ボードをデジタルコンテンツに作り直す。 ⑤SNSにおけるメディア・リテラシーについて学ぶとともに、使い方について考えを深める。	④文字入力やフォント選択、写真の貼り付け、段組などの基礎的な編集技術を学ぶ。 ⑤情報の発信と受信を簡易に行うことができ、生徒にとってもなじみのあるSNSにおける利点と欠点を理解し、適切な使い方について考える。
3 学期	⑥事実と根拠を明確にししながら、自身の意見を他者に伝えるためのプレゼンテーションを作成する。	⑥他者に伝えることを意識した表現力を養う。自身の意見を主張する際に、意見と根拠をきちんと区別し、筋道だてて説明することができる。

備考	特になし
----	------

学年	1	科目名	探究入門 (情報と科学)			使用 教材	教科書 主教材	自作テキスト等
理系・文系		必修	・必修選択・自由選択				副教材	自作テキスト等
共通		コマ数	0.5	単位数				

目標	表の整理やグラフの作成、情報の収集や検索など、コンピュータやインターネットを効果的に活用するための科学的な考え方や方法を習得する。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	ヒストグラムや代表値の必要性和意味を理解することができる。 資料を収集し、コンピュータを用いて処理できる。	ヒストグラムや代表値を用いて資料の傾向を考察することができ、さらに表やグラフで表現することができる。	目的に応じて資料を収集し、代表値などを用いてその資料の傾向を読み取ろうとする。	実際のデータをもとに、コンピュータでの処理ができ、それを発表し、他者が発表を聞くことができる。
方法	実験やグループ活動、コンピュータ実習を取り入れた授業を行う。			
評価	授業態度・学習意欲・定期考査・提出物・レポート			

	学習内容	ねらい
1 学期	1. コンピュータの使い方 情報の収集や検索	・コンピュータを使用していく上での基礎的な操作方法を習得する。 ・必要な情報を収集し、分析することができる。
2 学期	2. 資料の散らばりと代表値（中1） ヒストグラムと代表値 さまざまなグラフとその特徴 四分位数、箱ひげ図	・目的に応じて資料を収集し、その資料の傾向を読み取ることができる。 ・ヒストグラムや代表値の必要性和意味を理解する。 ・箱ひげ図を用いて資料の傾向を読み取ることができる。 ・表計算ソフトを用いて、データを整理・加工する方法を学ぶ。 ・データに応じて適切なグラフを選択し、活用することができる。
3 学期	3. 場合の数と確率（中1・中2） 確率の意味 確率の求め方	・具体的な試行を通して、確率の意味を理解する。 ・樹形図などを利用して、確率を求めることができる。

備考	数学の授業と組み合わせて行う。
----	-----------------

学年	1	科目名	探究入門			使用教科書 主教材	特になし
理系・文系		必修	・必修選択・自由選択			副教材	特になし
共通		コマ数		単位数			

目標	文化、歴史、自然環境など多様な側面から郷土奈良を知り、世界遺産に登録された奈良の文化財を次世代に伝えることの意義や課題を考察して、他者に伝える表現力を育成する。フィールドワークを中心とした観察・考察などの調査活動を重視し、その活動の中で探究活動の学び方の基礎を学び、他者に伝えるための表現技法の習得を目指す。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解する力	身近なところから問いを見出だし、自分で課題を建て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現する力	主体的・協働的に取り組み、互いのよさを活かしながら積極的に社会に参画しようとする力	自身の興味・関心を教科等の枠を超えて横断的・総合的に捉え、考えを広げ深めようとする力
学習方法	短期集中講座で、フィールドワークを中心としたグループでの協働学習を行う。 教員はサポート役として、適宜アドバイスや指導をする。 フィールドワーク・調査・発表			
評価	フィールドワークや調査の記録・考察、発表、自己評価、他者評価、その他課題への取組・出席状況などを総合的に判断して評価する。			

	学習内容	ねらい
9月	①世界遺産としての奈良の文化的意義について学ぶ。 ②各自および各グループが設定したテーマについて調べ、実際に現地を訪れて調査する。 ③フィールドワークやその後の調査で得られた内容について、多角的に考察し、その成果を発表する。	○フィールドワークを中心としたグループでの協働学習を通して、探究活動に求められる基本的な資質・能力の習得・育成を目指す。 ・フィールドワークや他の調査活動に求められる基礎的・基本的な姿勢・技能 ・与えられたテーマ・領域の中から自分(たち)なりの疑問や問いを持ち、その疑問・問いに関連した情報を収集する力 ・調査活動を通じて得られた情報を考察し、表現する力を ・課題に対して、主体的かつ協働的に取り組む力 ○「探究入門（情報と表現、情報と科学）」で学んだ情報収集や検索、表の整理やグラフの作成、プレゼンテーションなどのスキルを活用しながら活動を展開する。

備考	9月の短期集中期間に活動を行う。
----	------------------

学年	1	科目名	道徳			使用教科書 主教材	「中学道徳 あすを生きる 1」 (日本文教出版)
理系・文系		必修	・必修選択・自由選択			副教材	特になし
共通		コマ数	1	単位数			

目標	自立した人間として他者と共によりよく生きるために、物事をさまざまな方向からとらえ、議論することを通して、自分の生き方や他者、社会との関わり方を深く考え、行動することができる。 【1年生の重点目標】 個性を尊重し、主に利己心と利他心の理解と相克について考えることを重点目標とする。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	集団や社会におけるきまりやマナー、権利や義務について理解し、自分の関わり方を深く考えることができる。	主張が対立する諸価値について考え、議論し、自分ならどうするかを判断する力を養う。	身近な問題をテーマに授業を展開し、主体的に学ぶ力や道徳的心情を豊かに育み、良好な人間関係の尊さについて深く考えることができる。	他者の意見を「聴く」とと、自分の意見を「語る」ことを通じて、周囲と協働して学び合う力を育む。
学習方法	グループで議論したり、自分の考えを文章にしたりしながら、考えを深めていく。ただし、学習内容に記載した教材や授業方法については、学年の行事とのかかわりや学校生活の状況等を踏まえて変更することがある。			
評価	授業者による評価、自己評価、他者評価等を総合的に判断し、文章による評価を行う。			

	学習内容	ねらい
1学期	自己紹介、「やりたいことリスト」 教科書「サッカーの漫画を描きたい」を読む 教科書「疾走、自転車ライダー」を読む 教科書「近くにいた友」を読む 教科書「私らしさって」を読む	・自分自身に関することについて考え、話し合うことで、考えを深める。また、文章で表現する。身の回りの情報に興味・関心をもつ。 ・相手の立場を尊重し他者を思いやり、その場にふさわしい言動をとろうとする態度を育てる。 (キーワード: 自主・自立・自由と責任、節度・節制、向上心、希望と勇気、真理の探究など)
2学期	教科書「さかなのなみだ」を読む 教科書「富士山から変えていく」を読む 教科書「違いを乗り越えて」を読む 教科書「ふれあい直売所」を読む 教科書「花火に込めた平和への願い」を読む	・人として、また集団や社会とのかかわりに関することについて、他者との対話を大切に、議論や意見交換に積極的に参加する。自分の考え方の変化を振り返る。 (キーワード: 公德心、公平・公正、社会参画、集団生活の充実など)
3学期	教科書「あふれる愛」を読む 教科書「挫折から希望へ」を読む 教科書「木の声を聴く」を読む	・生命や自然、崇高なものとかかわりに関することについて、複数の視点から情報を分析して考察する。 (キーワード: 生命の尊さ、自然愛護、畏敬の念、よりよく生きる喜びなど)

備考	特になし
----	------

学年	2	科目名	国語		使用教科書 主教材	「国語 2」光村図書 「中学書写 1・2・3 年」光村図書
理系・文系		必修	・必修選択・自由選択		副教材	「国語の学習 2」浜島書店 「学習漢字ノート 2」浜島書店
共通		コマ数	2.5	単位数		

目標	1 年次に育んだ基本的な読解力をもとに多様な文章と触れ合うなかで、より幅広い読解力とともに、表現力と聴解力を養い、自国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	基本的な語彙を習得したうえで、相手に伝えることを意識した言語運用をすることができる。	段落に注意して文章を構造的に把握するとともに、目的に応じた適切な表現方法を選定することができる。	学びを日常に活かそうとする姿勢をもち、言葉を通して社会や歴史などをとらえようとする態度。	複数のテキストを関連付けて読み、他者の意見を吟味し、自身の意見に活かすことができる。
学習方法	教科書教材を丹念に読むことを中心に学習する。その中で、話し合いや文章表現などの言語活動を取り入れる。扱う教材に応じて、映像や関連教材も扱う。ICT 活用も積極的に行う。			
評価	知識・技能	40 %	学習意欲・授業態度・小テスト・定期考査・提出物を総合的に加味する。	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1 学期	- 小説「アイスプラネット」椎名誠 - 古文「枕草子」清少納言 - 古文「仁和寺にある法師」『徒然草』 - 短歌・解説「短歌に親しむ」栗木京子 - 書写「行書」点画の省略 - 漢字 1・文法への扉 1	- 登場人物の心情を注意して読み、人物どうしの関係やそれぞれの考え方を読み取ることができる。 - 古典を読むことで、作者のものの見方や感じ方に触れ、現代との共通点や相違点を考えながら鑑賞する。 - 他者との意見交流により多様な感じ考えた方に触れる。 - 漢字や語彙、書写を学ぶことによって、言語文化に興味を持つ。
2 学期	- 随筆「字のない葉書」向田邦子 - 適切な根拠を選んで書こう - 評論「君は最後の晩餐を知っているか」布施英利 - 書写「筆順の変化」「行書に調和する仮名」 - 漢字 2・漢字 3・文法への扉 2	- 随筆の特徴を理解し、筆者の想いを読み取るとともに、それを参考に自身の想いも適切に表現できる。 - 他者の意見を傾聴し、自身の考えを適切に表現するうえで、適切な根拠を選定することができる。 - 文章の構成における具体と抽象を理解する。 - 行書の特徴を理解しながら書くことができる。
3 学期	- 古文『平家物語』 - 漢詩・解説「漢詩の風景」 - 小説「走れメロス」太宰治 - 書写「楷書と行書の使い分け」 - 文法への扉 3	- 音読を通して、和漢混合文の独特な調子や古典特有の文章表現に触れるなかで、作品について理解を深める。 - 語句や表現の効果などに着目し、作品の魅力を考えるとともに、表現することができる。 - 漢字や語彙、ことばのきまりに興味を持つ。

備考	時間割に提示される「国語 1」「国語 2」を総合して記している。
----	----------------------------------

学年	2	科目名	社会（歴史的分野）			使用教科書 主教材	『中学歴史 日本と世界』（山川出版社） 『詳述歴史総合』（実教出版）
理系・文系		必修	・必修選択・自由選択			副教材	自作プリントなど
共通		コマ数	3	単位数			

目標	20世紀初頭までの日本と世界の歴史を扱い、基礎的な知識を得るとともに、資料の読解・活用を通じて論理的・歴史的な思考力を養う。			
	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
育てたい力	- 日本の歴史と世界の歴史に関する基本知識の理解。 - 歴史に関する情報を文字資料や図像資料などから読み取り、まとめる力。	諸資料を活用し、歴史事象とその背景、および因果関係について多面的・多角的に思考し、考察し、その内容について、自分なりの考えを整理し、表現する力。	歴史上の諸事象や身近な地域の歴史、世界の多様な文化や生活について知的好奇心を持って主体的に調べ、諸課題を意欲的に探究する力。	他者と協働し、他者の意見もふまえながら自らの考えを再構築し、問題の所在、課題の立て方をとらえ直す力。
学習方法	講義によって基礎的な知識の獲得と歴史の変化に関わる事象の相互の関連についての把握をめざす。諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、その成果をもとに意見交換や議論を行うようなペアワークやグループワーク時間を設ける。			
評価	知識・技能	40 %	定期考査・各種提出物、授業への積極的参加などをもとに、総合的判断で評価する。	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1学期	古代までの日本と世界 <日本> ・日本列島における国家成立～律令国家の形成 ・律令国家の発展と変容（武士の登場） <世界> ・世界の古代文明、各文明圏の統一	日本が世界史の中で存在感を発揮するようになるまでの歴史について、日本の諸事象だけでなく、世界史のうち容を充実させることで、社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、知識相互がつながり関連付けられながら理解する。
2学期	中世から近代までの日本と世界 <日本> ・武家政治の展開と変容（鎌倉幕府～室町幕府～織豊政権～江戸幕府） <世界> ・世界の一体化 ・欧米の市民革命と国民国家の形成	- 時代の転換の様子や各時代の特色を多面的・多角的に考察し、歴史に見られる諸課題について、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する。 - 諸資料を読み解きながら、目的に応じて必要な情報を見出し、情報を基に深く理解して自分の考えをまとめたり、多様な他者と協働しながら、答えのない課題に対して納得解を見出したりすることができるようにする。
3学期	近代の日本と世界 ・アジアの変容と日本の近代化（新政府の成立と諸改革～立憲国家の成立） ・帝国主義の時代（日清戦争～日露戦争～辛亥革命）	

備考	2名の教員で担当し、通史学習と主題学習と組み合わせながら進める。
----	----------------------------------

学年	2	科目名	代数Ⅱ			使用教材	教科書 主教材	これからの数学 2（数研出版） 未来へひろがる 数学 3（啓林館） 体系数学 1,2 代数編（数研出版）
理系・文系		必修・必修選択・自由選択					副教材	体系数学 1,2 代数編【発展】（数研出版）
共通		コマ数	1.5	単位数				

目標	正・負の数や平方根、文字、方程式・不等式を用いて、さまざまな事象を数学的に表現して、解決することができる。伴って変わる 2 つの数量間の関係を表や式で調べ、関数の意味を理解できる。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	文字式、方程式・不等式を用いて、いろいろな事象を簡潔かつ明瞭に表現でき、正確かつ能率的な計算を行える。	文字の役割を説明することができ、「働き」としての関数、「変数」としての文字を理解し表現することができる。	数的計算から文字式の計算へと拡張すること、計算記述代数の巧みさと記号代数の簡潔さ・素晴らしさを知る。	数学的活動において、自分の意見を主張したり、仲間の意見と比較したりして、検討・判断することができる。
学習方法	実験活動やグループ活動も行いながら、代数計算に習熟することを目指す。 この力は、数学の基礎をなすものになるため、ドリル的な側面も重視した学習活動を行っていく。			
評価	知識・技能	40 %	授業態度・学習意欲・定期考査・小テスト・課題テスト・提出物・レポートなど	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1 学期	1. 不等式 (数学Ⅰ) 不等式 不等式の利用 連立 1 次不等式とその利用 課題学習	- 不等式の性質について理解する。 1 次不等式や連立不等式を正確に解くことができる。 - 具体的な事象の考察に 1 次不等式や連立不等式を活用できる。
2 学期	2. 1 次関数 (中 2) 1 次関数 1 次関数と方程式 課題学習 3. 数と式 (中 3) 式の展開と因数分解 式の計算の利用 課題学習	- 変化の割合とグラフの傾きとの関係を関連づけられる。 2 元 1 次方程式のグラフを解の集合ととらえることにより、連立方程式の解と関連づけられる。 - 乗法公式を用いて展開ができる。 - 多項式の因数分解ができる。 - 式の展開や因数分解を利用して、数や図形に関する問題を解決できる。
3 学期	4. 平方根 (中 3, 数学Ⅰ) 平方根、根号をふくむ式の計算 有理数と無理数 課題学習	- 根号を用いた数の表し方や、計算方法について理解する。 - 有理数と無理数について理解し、実数の概念を理解することができる。

備考	特になし
----	------

学年	2	科目名	幾何Ⅱ			使用教材	教科書 主教材	これからの数学 2（数研出版） 未来へひろがる 数学 3（啓林館） 体系数学 2 幾何編（数研出版）
理系・文系		必修・必修選択・自由選択					副教材	体系数学 2 幾何編【発展】（数研出版）
共通		コマ数	1.5	単位数				

目標	図形に関する基本的な知識・理解をもとに、証明の方法を習得して論理的に表現することができる。 中学年・高学年へつながる基礎的な知識・技能を身につける。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	操作的活動を通じて、平面図形や空間図形の基本的性質を理解することができる。	演繹的な推論の進め方や考え方を理解し、自ら展開することができる。	探究活動を通じて、図形の性質を見いだそうとする。	数学的活動において、自分の意見を主張したり、仲間の意見と比較したりして、検討・判断することができる。
学習方法	主教材や自作プリントを中心に学習を進めていく。「1.実験→2.予想→3.証明→4.拡張・一般化」の数学的活動を重視し、授業を展開する。なお、1.においては、コンピュータ実習やグループ活動を取り入れる。			
評価	知識・技能	40 %	授業態度・学習意欲・定期考査・小テスト・課題テスト・提出物・レポートなど	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1 学期	1. 平行四辺形（中 2） 平行四辺形の性質 平行四辺形になるための条件 特別な平行四辺形 2. 図形の相似（中 3） 相似な図形、三角形の相似条件	・ 四角形の内角の和を、様々な方法で求められる。 ・ 平行四辺形の性質について、理解する。 ・ 平行四辺形の成立条件について、論証できる。 ・ いろいろな四角形の関係・性質を理解する。 ・ 相似条件を合同条件と対比しながら理解する。
2 学期	相似な図形の面積比・体積比 3. 平行線の性質（中 3，数学 A） 平行線と線分の比 中点連結定理、角の二等分線の性質 等積変形、メネラウスの定理	・ 相似比を用いて、面積・体積の計算ができる。 ・ 平行線の性質や角の二等分線の性質を理解する。 ・ 平行線や三角形を利用して、等積変形の作図ができる。
3 学期	4. 三角形の五心（数学 A） 三角形の五心 チェバの定理	・ 三角形の五心の性質を理解する。

備考	「探究入門Ⅱ」の授業と組み合わせて行うこともある。
----	---------------------------

学年	2	科目名	理科 I			使用教科書 主教材	「未来へひろがるサイエンス 2」 啓林館
理系・文系		必修	・必修選択・自由選択			副教材	「中学の理科 第1分野」教育開発出版 「実験ハンドブック」本校作成教材
共通		コマ数	1.5	単位数			

目標	身の回りの自然の事物・現象に多く触れさせ、科学的な概念形成の基礎を作る。また、基本的な実験操作や観察方法を習得させる。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	経験に基づいて自然科学の知識を習得し、基本的な実験操作や観察方法を身につける。	身の回りの自然現象について、比較・分類や論理的な思考をしたりすることができる。	身の回りの自然現象に関心を持ち、それを探究しようとする態度。	身の回りのさまざまな自然現象について、自らの経験に基づいて、議論や説明ができる。
学習方法	授業は観察や実験を多く取り入れている。自然現象に関心を持ち、観察、実験から得られた結果から議論や説明できるようになること。必要に応じて、話し合いなどの活動も取り入れる。復習は、教科書を読むことを中心に学習する。副教材の問題集は自学に活用すること。			
評価	知識・技能	40 %	「知識・技能」、「思考・判断・表現」は主に定期考査・レポート・実験観察技能などで評価する。「主体的に学習に取り組む態度」は主に授業態度・課題の提出・出席状況などで評価する。	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1 学期	化学変化と原子・分子 1. 水溶液の性質 2. 物質のなりたち	・ いろいろな水溶液の特徴や性質を知る。 ・ 粒子モデルと関連付け、水溶液の特徴や性質を理解する。 ・ 身のまわりの物質を作っている成分について理解する。
2 学期	3. 物質を表す記号 4. さまざまな化学変化 電気の世界 1. 静電気と電流 2. 電流の性質	・ 物質は原子や分子からできていることを理解する。 ・ 原子や分子のモデルによって化学変化を説明できること、化学式・化学反応式によって、物質の組成や化学変化が簡潔に記述できることを理解する。 ・ 静電気のはたらきから、電気の間にはたらく力は2種類あることとともに、電気の符号について理解する。 ・ 電流の正体は電子の流れであることを理解する。 ・ 電気回路の仕組みと電流、電圧のはたらきについて理解する。
3 学期	電流と磁界	・ コイルの回りに磁界ができることを知る。 ・ 磁石とコイルを用いた実験から、磁界中の電流が受ける力や電磁誘導と発電について理解する。

備考	学習内容ごとに実験を実施する。レポートによる考察を重視する。
----	--------------------------------

学年	2	科目名	理科 2			使用教科書 主教材	「未来へひろがるサイエンス 2」 啓林館
理系・文系		必修	・必修選択・自由選択			副教材	「高等学校 地学基礎」 第一学習社 「実験ハンドブック」 本校作成教材
共通		コマ数	1.5	単位数			

目標	身の回りの自然の事物・現象に多く触れさせ、科学的な概念形成の基礎を作る。また、基本的な実験操作や観察方法を習得させる。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	経験に基づいて自然科学の知識を習得し、基本的な実験操作や観察方法を身につける。	身の回りの自然現象について、比較・分類や論理的な思考をしたりすることができる。	身の回りの自然現象に関心を持ち、それを探究しようとする態度。	身の回りのさまざまな自然現象について、自らの経験に基づいて、議論や説明ができる。
学習方法	授業は観察や実験を多く取り入れている。自然現象に関心を持ち、観察、実験から得られた結果から議論や説明できるようになること。必要に応じて、話し合いなどの活動も取り入れる。復習は、教科書を読むことを中心に学習する。副教材の問題集は自学に活用すること。			
評価	知識・技能	40 %	「知識・技能」、「思考・判断・表現」は主に定期考査・レポート・実験観察技能などで評価する。「主体的に学習に取り組む態度」は主に授業態度・課題の提出・出席状況などで評価する。	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1 学期	生物の体のつくりとはたらき 1. 生物と細胞 2. 植物のからだのつくりとはたらき 3. 動物のつくりとはたらき	・生物の単位が細胞であることを理解する。 ・根・茎・葉のつくりと働きを水分と栄養の移動を中心に理解し、光合成のはたらきについても学ぶ。 ・各器官の基本的なはたらきについて学び、個体としての生命維持の仕組みを理解する。
2 学期	(続き) 3. 動物のつくりとはたらき 天気とその変化 1. 気象要素の変化と天気	・主に脊椎動物の刺激と反応について学び、運動の仕組みについて理解する。 ・気象観測を通して、天気要素について学ぶ。
3 学期	2. 空気中の水蒸気 3. 前線と高気圧、低気圧 4. 四季の天気	・露点や湿度について学び、雲の発生条件について理解する。 ・大気の大循環、そして海水の循環について学び、天気の変化の仕組みを理解する。 ・日本の天気について理解する。

備考	学習内容ごとに実験を実施する。レポートによる考察を重視する。
----	--------------------------------

学年	2	科目名	体育（男子）			使用教科書 主教材	「保健体育」（大修館書店）
理系・文系		必修	・必修選択・自由選択			副教材	特になし
共通		コマ数	2	単位数			

目標	基礎的な運動能力と体力の定着を図る。仲間と協力して活動することで、運動の楽しさや喜びを味わう。学習活動を通して他者への気づきと思いやりを身につけ、集団作りを行う。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	効果的な練習の方法を理解し、実践する力。様々な運動の特性に応じた基礎的な技能。	自己の身体への関心と集団内での適切な判断力・行動力。議論する力。	様々な運動に関心を持ち、進んで運動に取り組む力。	仲間と協力して、共に上達しようと行動する力。
学習方法	教師側からの指示に従って動けば良い場合（一斉指導）もあるが、自ら考えて動かなくてはならない場面も多く、積極的な取り組みを期待している。			
評価	知識・技能	40 %	授業態度・学習意欲・実技・出席状況・課題の到達度などを総合的に評価する。	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1学期	・体づくり運動 ・ハンドゲーム(ベース型) ・スイミング	・自分のからだへの気づきを大切にしながら各種運動の基礎技能、仲間と協力して取り組む態度を身につける。 ・スローイングスキルおよびキャッチングスキルの習得を目指し、仲間と共にゲームを楽しむことができるスキルや思考を身につける。 ・基礎的な泳法を身につけるとともに、自他の安全を確保する力を身につける。
2学期	・剣道 ・ハンドゲーム(ネット型)	・伝統的な礼法及び基本的技能を習得し、武道の特性を理解する。 ・ボールと自分のからだとの関係を意識しながら、ボールを扱うことを楽しみ、仲間とともにゲームを楽しむためのスキルや思考を身につける。
3学期	・ランニングスキル ・フットゲーム	・仲間と助け合いながら、走ることの楽しさ、意義を理解する。 ・仲間と協力しながら基礎的な戦術を理解し、それを実現するためのスキルを身につける。
通年	・体育理論	・運動の多様性に触れ、自分に適した運動の意義や効果、安全な行い方、学び方を身に付ける。

備考	特になし
----	------

学年	2	科目名	体育（女子）			使用教科書 主教材	「保健体育」（大修館書店）
理系・文系		必修	・必修選択・自由選択			副教材	特になし
共通		コマ数	2	単位数			

目標	基礎的な運動能力と体力の定着を図る。仲間と協力して活動することで、運動の楽しさや喜びを味わう。学習活動を通して他者への気づきと思いやりを身につけ、集団作りを行うこと。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	効果的な練習の方法を理解し、実践する力。様々な運動の特性に応じた基礎的な技能。	自己の身体への関心と集団内での適切な判断力・行動力。議論する力。	様々な運動に関心を持ち、進んで運動に取り組む力。	「なかま」と協力してともにステップアップしようと行動する力。
学習方法	教師側からの指示に従って動けばよい場合（一斉指導）もあるが、「自ら考えて」動かなくてはならない場面も多く、積極的な取り組みを期待している。			
評価	知識・技能	40 %	授業態度・学習意欲・実技・出席状況・課題の到達度などを総合的に評価する。	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1学期	・体づくり運動 ・ハンドゲーム（ネット型） ・スイミング	・自分のからだへの気づきを大切にしながら各種運動の基礎技能、仲間と協力して取り組む態度を身につける。 ・バレーボールの特性を理解し、基本的技能を習得し、ゲームを楽しむ力と態度を養う。 ・各種泳法の基礎を学び、泳ぐ楽しみを味わう。水中での危険性を学び、安全を確保する力を養う。
2学期	・ハンドゲーム（スロー・キャッチ） ・ハンドゲーム（ベース型）	・「投げる・捕る」動作における自分の身体の動き、動かし方について理解を深め、基本的技能を養う。 ・ソフトボールの特性を理解し、ゲームを楽しむための技能と態度を養う。
3学期	・剣道 ・ランニングスキル ・フットゲーム	・伝統的な礼法及び基本的技能を習得し、対人技能としての剣道の特性を理解する。 ・自分の力に応じて長い距離を走り、体力を向上させる。 ・足でのボール操作に慣れ、ゲームを楽しむための技能と態度を養う。
通年	・体育理論	・運動の多様性に触れ、自分に適した運動の意義や効果、安全な行い方、学び方を身に付ける。

備考	特になし
----	------

学年	2	科目名	保健			使用教科書 主教材	「保健体育」(大修館書店)
理系・文系		必修	・必修選択・自由選択			副教材	特になし
共通		コマ数	0.5	単位数			

目標	すこやかに生きる力の育成。 自分自身のからだや心の変化について学び、健康な生活を送るための基礎的な思考を育む。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	健康な生活を送るための必要な知識、自分のこととからだの発育発達について正しく理解する力。	健康に関する問題点や課題について思考し、行動に移す力。学んだことや自分の意見、考えを自分の言葉で表現する力。	自己の心身の発育発達に関心を持ち、健康な生活を営もうとする姿勢。	自分への理解を深めるとともに、他者について理解しようとする態度。違いを認め、受け止める力。
学習方法	日常生活に即した実践的な内容を意識しつつ、対話型・グループ学習を重視し、協同的な学びを進める。他者との対話によって自己の思考を広げ、深めていくことを期待している。			
評価	知識・技能	40 %	学習意欲や態度・定期考査・出席状況・課題の到達度	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1学期	心身の発達と心の健康 ・からだのはたらきの発達	・からだと心のはたらきや発達について学び、自分と他者それぞれの個性を認め、他者への理解を促す。特に男女の違いについて知り、理解を深める
2学期	心身の発達と心の健康 ・心のはたらきの発達 ・心の健康	・心身のはたらきは相互に影響し合うことを学び、欲求不満やストレスに適切に対処する力をつける。
3学期	けがの防止 ・けがとその防止 ・応急手当	・日常生活でのけがの発生原因について知り、その予防について学ぶ。また、基本的な応急処置の方法について学ぶ。

備考	特になし
----	------

学年	2	科目名	技術			使用教科書 主教材	「技術・家庭 技術分野」(開隆堂)
理系・文系		必修	・必修選択・自由選択			副教材	「情報モラル」(数研出版)
共通		コマ数	0.75	単位数			

目標	科学・技術への興味・関心を高め、生活を向上させる主体的な姿勢と技能を身につける。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	製図法についての知識と技能の獲得及びプログラムの基礎的な理解。	立体を平面で表す手法を学び、自ら意図したものを表現する能力の獲得。	手順を追って正確に粘り強く創造する意欲と態度の育成。	表現できる力を設計から製作へと展開する能力へと結びつける力の育成。
学習方法	製図(CADを含む)を行うことで、立体を図面に表す意義と技法を学ぶ。プログラミングの考え方を学ぶ。			
評価	知識・技能	40 %	授業態度・学習意欲・提出物・実技・自己評価	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1学期	- 製作図の基礎 ものの基準と概念 - CADソフトの利用 - プログラムの役割 プログラミングのはたらき フローチャートの活用 基本的なプログラミング	- 構想の全体像を把握しながら、製図を描く意義を意識し、基本的な製図法を習得する。 - 表したいものに適した図法を選択し、表現できる能力を身につける。 - コンピュータを用いて設計をおこなう基本的な技能を習得する。 - フローチャートの書き方を学び、情報処理の手順を考え、プログラミングへの活かし方を知る。 - プログラミングの基本構造となる「順次」「繰り返し」「分岐」について学び、基本的なプログラミング技能を身につける。

備考	技術・家庭の授業のうち、家庭と半分ずつの時間を学習する。
----	------------------------------

学年	2	科目名	家庭				使用教材	教科書 主教材	技術・家庭 家庭分野（開隆堂）
理系・文系 共通	必修・必修選択・自由選択					副教材		自作プリント	
	コマ数	0.75	単位数		調理実習にはエプロン・三角巾を用意してください。				

目標	家庭生活への関心を深め、食生活や消費生活と環境問題についての基礎的な知識と技能を取得し、生活の自立を図る力を身につける。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	食生活の役割・栄養などの基本的知識 日常食の調理と伝統的な食文化についての基礎的な知識と技能 消費生活についての基礎知識	食生活についての課題を見いだし、自ら考え解決する力 消費生活と環境についての課題を見いだし、自ら考え解決する力	毎日の食生活に関心をもち、工夫し実践しようとする態度 消費生活と環境について工夫し創造しようとする実践的な態度	学びを発展させて、実生活での食生活や消費生活に応用する力
学習方法	座学と実験・実習とを組み合わせ、食生活や消費生活との環境問題の内容を中心に学習する。調理実験・実習については調理教室を使用する。実験・実習の器具の使用上の注意を理解し、実習を行う。実習においては衛生的な取り扱いや、刃物などの安全な取り扱いが出来るように行う。			
評価	知識・技能	40 %	授業態度・学習意欲・提出物・レポート・発表・出席状況・実技・作品の技能・定期考査など	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
学年	食生活 ・ 食事の役割と食習慣 ・ 栄養と食事 ・ 栄養素と食品群 ・ 食品の選択 ・ 調理の基礎・基本 家庭生活 ・ 消費生活と環境問題 ・ 環境に配慮した家庭生活	・ 生活の中で食事が果たす役割について理解し、毎日の食生活に関心をもち、健康によい食習慣を学ぶ、規則正しく食事をとることの重要性を理解する。 ・ 身の回りの食品についての関心を深め、適切な食品の選択ができる知識や態度を身につける。 ・ 簡単な日常食の調理ができる技術を習得し、自ら作ることの喜びや達成感を学び、それを生かして身近な人へ作る気持ちを養う。 ・ 家庭生活と環境との関連について関心をもち、環境に配慮したライフスタイルを選択し、実践する態度を養う。

備考	技術・家庭の授業のうち、技術と半分ずつの時間を学習する。
----	------------------------------

学年	2	科目名	音楽			使用教科書 主教材	「中学生の音楽 2・3 上」(教育芸術社) 「中学生の器楽」(教育芸術社)
理系・文系 共通		必修・必修選択・自由選択				副教材	教材プリント、鍵盤ハーモニカ
		コマ数	1	単位数			

目標	音楽の基礎技能を用い、自己と他者の感性の調和を図ることができる。音楽理論の概要を理解し、創造の喜びを得る。音楽を通して独自の感性を表現する能力を身につける。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	歌唱や器楽の基礎的技能の習得。楽曲の構造を理論的に解釈することができる。	自発的な感性に基づいて音楽表現を工夫できる力。楽曲に相応しい表現を工夫する力。	楽曲のよさや美しさを味わい、人に伝えることができる。多様な感じ方を認めることができる。	アンサンブル活動等により自己と他者の感性の調和を図り、協力して新たな表現の可能性を模索することができる。
学習方法	器楽や歌唱表現では、模倣ではなく独自の表現の確立を目指す。鑑賞では聴き比べを多く行い、出来るだけ多様な表現に触れる。随時小編成のアンサンブルを行い、多様な感性の調和を図るべくグループで話し合う機会を多く設ける。			
評価	知識・技能	40 %	授業態度、学習意欲、発表・実技テスト、ワークシート、その他提出物等	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1 学期	1.旋律と歌詞の関連性 《夢の世界へ》《学友の歌》等 2.世界の諸民族の音楽 3.曲の特徴を生かした歌唱 《Santa Lucia》《o sole mio》等	・歌詞内容と曲想との関係を理解して表現を工夫する。 ・身近なアジア地域を含めた世界の音楽について、日本の民謡や郷土芸能と比較しながら、多様な文化価値を認め尊重する姿勢を身につける。また、諸外国の歌曲に触れ、また速度、強弱の変化を工夫しながら独唱する力を身につける。
2 学期	4.旋律・楽曲創作 カノン進行に基づく楽曲づくり等 5.歌唱（心の歌）《荒城の月》等 6.器楽演奏（鍵盤ハーモニカ） 《Happy Birthday》《交響曲「新世界」》等	・リズム創作で学習したことを元に、感性を作品として表現できる。 ・歌詞の内容、時代背景などを手掛かりに、より深い音楽表現を行う。また歌詞と音との結びつきを感じ、丁寧な歌唱を身につける。 ・鍵盤ハーモニカを用いて、アンサンブル演奏に向けての基礎スキルを身につけ、個々の技能を高める。
3 学期	7.動機や旋律の重なりに着目した鑑賞及び表現《交響曲第5番〈運命〉》等 8 合唱による表現の工夫 《COSMOS》《ふるさと》等 9.雅楽鑑賞	・旋律の重なりに着目して鑑賞し、鍵盤ハーモニカなどの器楽アンサンブルの表現工夫に生かす。 ・クラスで一つの音楽表現を作り上げる過程で、互いの個性や感性を認め合いながら高い協調性に裏付けされた表現を目指す。 ・鑑賞を通して、日本の古典伝統音楽に触れ、親しむ。
通 年	・クラシック音楽の歴史と発展 ・発声法・器楽奏法 ・楽典基礎 ・写譜	・教養としての音楽史を学び、音楽への興味関心を高める。 ・変声期の今の声と向き合い、無理のない発声で思いや意図を適切に音に反映できるよう、基礎的な技能を身につける。 ・表現や鑑賞に取り組む上での基礎知識として、各学習を通じて学ぶ。
備考	特になし	

学年	2	科目名	美術			使用教科書 主教材	「美術 2 上 学びの実感と広がり」(日文) 「美術 2 下 学びの探究と未来」(日文)
理系・文系		必修	・必修選択・自由選択			副教材	「美術資料」
共通		コマ数	1	単位数			

目標	美術の基本的な技法を習得し、美術に親しむ態度を身につける。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	素材や技法を通した体験や発見を大切にし、自らの表現に活かす。	観察や構成の基礎的知識を身につけることによって視覚の客観性について学ぶ。	作品制作において、創意工夫を重ね、自分自身の好みやオリジナリティを理解する。	作品制作のコンセプトについて考え言語化することによって、制作を自覚的にとらえ向上心を持って取り組む。
学習方法	○様々な素材や技法を使い、主題に基づいた作品制作を行う。 ○完成した自他の作品を鑑賞し意見交換を行う。また、課題に合わせテーマが類似した過去の美術作家の作品を鑑賞し、自らの作品の表現をさらに向上させる。			
評価	知識・技能	30 %	授業態度・課題プリント及び作品の提出	
	思考・判断・表現	50 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1 学期	立体表現（粘土造形） ○自らの手を題材とした粘土造形 ○多方向からの手のスケッチ ○形態や質感、量感の把握／表現 ○材質の特徴理解	◇観察をもとに作品の構想を練ることができる。 ◇立体と平面の制作方法の違いを理解する。 ◇視覚だけでなく触覚でも観察し、大きさや重さを体感する。
2 学期	平面表現（色彩構成） ○色彩構成の原理を理解する。 ○シナベニヤを支持体とし、木目を何らかの形態に見立てて描き、絵の具で着色する。	◇色彩構成の原理を理解し、作品に活かすことができる。 ◇シナベニヤの木目の模様を楽しみ、想像力を広げ「見立て」ができる。 ◇自らが描いた構図や設定した世界観に合わせて色彩を選び、着色することができる。
3 学期	立体表現（木彫） ○卵の模型を題材とした木材での模刻 ○材質の特徴理解	◇角材から卵の滑らかな形態を切り出すことによって、質感を追求して作品を完成させる。

備考	特になし
----	------

学年	2	科目名	英語			使用教科書 主教材	Here We Go! 2 (光村図書) Ace Crown 英和辞典 第3版 (三省堂)
理系・文系		必修	・必修選択・自由選択			副教材	Bridge to MEL Workbook 2 (AIDEA) 自作プリント等
共通		コマ数	3.5	単位数			

目標	英語の音声的特徴を理解し、標準的な発音を身につける。 英語特有の統語構造を理解・活用し創造的な言語使用を行う。 英語の定型表現や基本的語彙を使って、相手の意見を聴き取ったり、自分の意見を話したりする。 学習方法を意識し、基礎的な学習習慣をつける。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	日常生活の身近な話題についての学習を通して、言語の働きや運用についての知識を身につけ、コミュニケーションで活用することができる。	目的・場面・状況等に応じて、身近な話題について、必要な情報を選択・整理するとともに、初歩的な英語やジェスチャーなどの非言語的手段を用いて、情報や考えなどを表現し伝え合うことができる。	異なる言語やその背景にある文化に関心を持ち、理解し尊重しようとする。協力して言語活動に積極的に取り組みようとする。	ペア・ワークやグループ・ワークに積極的に参加し、集団の中で英語を学ぼうとする。自己の学習態度を振り返り、自ら学習する習慣を身に着ける。
学習方法	授業は主に英語を用いて進められ、英語で聞き、英語で応答することを目指す。 授業中はペアやグループで英語を用いた活動を行う。 英語学習の基礎基本となる語句については、小テストではほぼ毎時間確認する。			
評価	知識・技能	50 %	授業態度・定期考査・小テスト・ 長期休業後課題確認テスト・提出物 パフォーマンステスト	
	思考・判断・表現	30 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1学期	過去進行形、接続詞 (when, that, if)、未来を表す表現、助動詞 (will)、動名詞、不定詞 (名詞的用法)	自分の言葉で話す力を伸ばす。 即興でやりとりできる力を伸ばす。 使える語句を増やす。
2学期	There is / There are ～. SVOO, have to, 助動詞 (should, must)、接続詞 (because)、不定詞 (形容詞的用法、副詞的用法)、動名詞、形容詞・副詞	日常生活の場面で英語を使う力を伸ばす。 さまざまな国の文化に触れ、視野を広げる。
3学期	比較 (比較級・最上級・as as)、受動態、SVOC, want + 人 + 不定詞	さまざまな話題や形式の文に触れ、読み方を身につける。 言葉の使用場面と意味、形を理解して適切に使えるようにする。

備考	上に書かれた教材の他にプリントが配布される。
----	------------------------

学年	2	科目名	探究入門Ⅱ			使用教科書	教科書は特になし
理系・文系		必修	・必修選択・自由選択			主教材	自作ワークシートなど
共通		コマ数	集中	単位数		副教材	特になし

目標	文化、歴史、自然環境など多様な側面から郷土奈良を知り、世界遺産に登録された奈良の文化財を次世代に伝えることの意義や課題を考察して、他者に伝える表現力を育成する。特に、1・2年次では見学・観察・聞き取りなどの調査活動を重視し、その活動の中で探究活動の学び方の基礎を学び、他者に伝えるための表現技法の習得を目指す。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解する力	身近なところから問いを見出だし、自分で課題を建て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現する力	主体的・協働的に取り組み、互いのよさを活かしながら積極的に社会に参画しようとする力	自身の興味・関心を教科等の枠を超えて横断的・総合的に捉え、考えを広げ深めようとする力
学習方法	短期集中講座で、フィールドワークを中心とした活動を行う。教師はサポート役として、適宜アドバイスや指導をする。 学年を4講座に分け、グループで調査・探究活動に取り組む。			
評価	課題の到達度、発表、他者評価、自己評価、授業態度、学習意欲などを総合的に評価する。			

	学習内容	ねらい
9月	○「世界遺産都市」としての奈良の文化的意義について学ぶ。 ○各自、および各グループが設定したテーマについて調査・探究する。 ・さまざまな角度から、テーマをとらえる。 ・調査・探究の成果をまとめ、発表する。 ・他者評価・自己評価を行い、この期間の学習活動を振り返る。	・見学や観察を中心に行い、「見る・観る」の力をつける。特に、探究活動の導入として次のような資質・能力の習得・育成を目指す。 ・フィールドワーク活動や他の調査活動における基礎的・基本的な態度や能力を習得する。 ・コミュニケーション能力・表現力・総合的にまとめる能力、自己評価能力を育成する。 ・「探究入門Ⅱ（情報と科学、情報と表現）」で学んだ、情報収集や検索、表の整理やグラフの作成、プレゼンテーションなどのスキルを活用する。

備考	9月に集中的に行う。
----	------------

学年	2	科目名	探究入門Ⅱ (情報と表現)			使用 教材	教科書 主教材	国語 2 (光村図書)
理系・文系		必修	・必修選択・自由選択				副教材	特になし
共通		コマ数	0.5	単位数				

目標	身近なメディアの表現の工夫に気づきながら、自分が調査したことや、感じたこと・考えたことなどを他者に分かりやすく伝えるための表現力と技能を身につける。また、ICT 活用技能の向上を探究的な学びのなかで目指す。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	デジタル時代のメディア・リテラシーについて受信・発信に関わる基礎的な技能と知識を身につけている。	情報発信者の意図や、情報の根拠についてとらえようとする。他者意識を持って表現を工夫し情報発信する。	自己や他者の well-being の実現のために、知識や技能を生かそうとする。共同して学びに取り組む。	学びの意味や授業者の意図を相対的に捉え、自己の学びをメタ認知する態度を持っている。
学習方法	コンピュータやタブレット型端末を用いて、これからの社会に必要なメディアに関する知識やスキルの習得を目指す。一斉授業、グループ活動、個人活動、発表など、多様な学習方法を用いる。			
評価	授業態度・学習意欲・定期考査・提出物・レポート・発表・出席状況			

	学習内容	ねらい
1 学期	・メディアが伝える情報の分析 ・教科書教材「デジタル市民として生きる」など	・多様なメディアの特徴を理解して、情報の受け手としてそれぞれの利点・欠点を分析する。 ・メディアからの情報の受け取り方について、Word を用いてまとめることができる。
2 学期	・SNS におけるメディア・リテラシーについて ・プレゼンテーションの技術 1 ・プレゼンテーションの技術 2	・情報の発信・受信を簡易に行うことができ、生徒にとってもなじみのある SNS における、適切な使い方について考える。 ・他者意識をもった表現力の向上のために、プレゼンテーションの方法を体験的に理解するとともに表現スキルを磨く。
3 学期	・教科書教材「クマゼミ増加の原因を探る」	・図表を用いて情報をわかりやすく伝える方法を学ぶ。 ・図表を用いて相手に伝わりやすい文書を作成することができる。

備考	PC 教室での授業を中心とする
----	-----------------

学年	2	科目名	探究入門Ⅱ (情報と科学)			使用 教材	教科書 主教材	これからの数学 2 (数研出版) 体系数学 2 代数編 (数研出版)
理系・文系 共通		必修 コマ数	・必修選択・自由選択 0.5	単位数		副教材		体系数学 2 代数編【発展】(数研出版)

目標	現実の問題を、確率や標本調査の考えを用いることにより、全体的な傾向を捉え、説明・考察ができるようにある。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	確率や標本調査の必要 性と意味を理解する。	標本と母集団の係 に 着目し、母集団の傾向 を推定し判断すること ができる。	現実の問題を、確率や 標本調査を用いること で、傾向を説明するこ とができる。	数学的活動を通して、 自分の意見を主張した り、仲間の意見と比較 したりして、検討・判断 することができる。
学習 方法	実験やコンピュータ実習を取り入れた授業を行う。一斉授業だけでなく、グループ活動や個人活動、 討論や発表など、多様な学習方法を用いる。			
評価	授業態度・定期考査・小テスト・課題テスト・提出物・レポート			

	学習内容	ねらい
1 学期	1. 場合の数と確率 (中 1・中 2) 確率の意味 確率の求め方	・ 具体的な試行を通して、確率の意味を理解する。 ・ 樹形図などを利用して、確率を求めることができる。
2 学期	2. 標本調査 (中 3) 標本調査と母集団	・ 標本調査と母集団の意味を理解し、利用できる。 ・ 簡単な場合について標本調査を行い、母集団の傾向を捉え、説明できる。
3 学期	3. 課題学習	・ 各領域の内容を総合したり日常の事象や他教科等の学習に関連付けたりするなどして見いだした問題を解決することで、各領域の学習が一層深まりをもつことができる。

備考	「代数Ⅱ」や「幾何Ⅱ」の授業と組み合わせて行う。また、授業の進度により、「代数Ⅱ」や「幾何Ⅱ」の学習内容を入れ替えることがある。
----	--

学年	2	科目名	道徳			使用教科書 主教材	日文『中学道徳 あすを生きる 2』
理系・文系		必修	・必修選択・自由選択			副教材	特になし
共通		コマ数	1	単位数			

目標	自立した人間として他者と共によりよく生きるために、物事をさまざまな方向からとらえ、議論することを通して、自分の生き方や他者、社会との関わり方を深く考え、行動することができる。 【2年生の重点目標】 主として集団や社会との関わりを通じて、他者を受容するとともに、自己肯定感を育む			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	さまざまな道徳的価値について知る、学ぶ	主張が対立する諸価値について考え、議論し、自分ならどうするかを判断する力を養う	自分たちにとって身近な問題等をテーマとして授業を展開し、主体的に学ぶ力や道徳的心情を豊かに育む	他者の意見を「聴く」と、自分の意見を「語る」ことを通じて、人として生きる意味を重層的に概念把握する力
学習方法	教材（視聴覚教材や教科書、その他）を用いて、個人またはグループで主題に沿った活動（自分の考えを書く、述べる / 他者の考えを聴く / お互いに意見を交わして議論する。活動内容を振り返る。			
評価	授業者による評価、自己評価、他者評価等を総合的に判断し、文章による評価を行う			

	学習内容	ねらい
1学期	・「1、2年生のころえ」を材料に、ルールとマナーについて日常生活の中をふりかえる ・教科書「オーストリアのマス川」を読む ・登下校中の安全について、日頃の体験をもとに考え、議論する	「学校生活」や「課外活動」「公共的空間」等におけるさまざまな問題について主体的に考える (キーワード：よりよい学校生活、公共の精神、遵法精神 等)
2学期	・教科書「リスペクト・アザーズ」を読む ・ビデオ「青い目、茶色い目」を観る ・スマホを正しく使うために必要な作法について考える ・3年生に向けて～前期課程のリーダーシップについて考える	「いじめ」は加害者、被害者、傍観者の全ての人に関係する問題であり、看過してはならないということを通理解する クラスや学年の「連帯（意識）」を経験する (キーワード：相互理解、寛容、友情、社会正義等)
3学期	・教科書「自分の弱さと向き合え」を読む ・教科書「樹齢七千年の杉」を読む ・途上国の人々の生活に触れ、国際協力について考える	生命や自然、崇高なもの等について様々な情報や経験者の話に触れ、私とのかかわりについて考える 国際理解、国際貢献へのかかわりについて考える

備考	教科の性質上、主題や教材は変更することがあります。
----	---------------------------

学年	3	科目名	国語総合			使用教科書 主教材	『国語 3』（光村図書） 『中学書写』（光村図書）
理系・文系		必修	・必修選択・自由選択			副教材	『学習漢字ノート 3』（浜島書店） 『国語の学習 3』（浜島書店）
共通		コマ数	3	単位数			

目標	・論理的に考える力や深く共感する力を養い、伝え合う力を高め、自らの考えを広げ、深める。 ・社会生活に必要な言語知識を身につけるとともに、伝統的な言語文化に親しみ、理解を深める。 ・幅広い読書を通じ、言葉の持つ価値を認識し、ものごとを多様な視座から捉え、思索を深める。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	・言葉の役割やはたらきを理解し、的確に言語運用する力を身につける。 ・情報と情報との関係や情報の信頼性について理解を深める。	・論理展開などに気をつけながら、自身の考えや感情を伝える。 ・文章の構成や論理展開などを的確に捉え、批判的に読むことができる。	・言葉を通じて人や社会と関わり、自己を表現する。 ・他者を理解する姿勢を身につける。 ・伝統的な言語文化に興味・関心をもつ。	・テキストを比較したり関連づけたりすることを通して、ものの見方や考え方を深める。 ・他者の学びを参考にし、自身の学びを調整できる。
学習方法	教科書教材を丹念に読むことを中心に学習する。また、ものの見方や考え方を深化拡充したり、言語運用能力を高めたりするために、書くことや話し合いなどの様々な言語活動を取り入れる。また、後期課程に向けて、古典文法を入門的に扱う。			
評価	知識・技能	40 %	授業中の活動、小テスト、定期考査、提出物などを総合的に加味する。	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1学期	・小説『握手』 ・論説文『作られた「物語」を超えて』 ・漢文『論語』 ・説得力のある構成を考えよう ・文法（付属語の用法） など	・抽象度が高くなった文章を読めるようにする。 ・昔の人々が大切にしていた考え方にふれる。 ・構成や表現の仕方を工夫し、自分の考えが分かりやすく伝わるように話したり、書いたりできるようにする。
2学期	・詩『初恋』 ・説明文『俳句の可能性』 ・論説文『複数の意見を読んで、考えよう』 ・小説『故郷』 ・評論『それでも、言葉を』 ・古文『和歌の世界』 など	・詩や俳句などの言語文化にふれ、ものの捉え方や感じ方を豊かにする。 ・話題に対する理解を深め、自身の考えを的確に伝えられるようにする。 ・理解や表現に必要な語句を増やし、使えるようにする。
3学期	・随筆「律儀な桜」 ・古文『奥の細道』 ・書写「文字の使い分け」 ・情報を読み取って文章を書こう など	・文章から学んだことを、自身の現在に役立てられるようにする。 ・文章の構成を的確に読み取れるようにする。 ・情報を適切に用いて文章を書けるようにする。

備考	時間割に提示される「国語 1」「国語 2」を総合して記しています
----	----------------------------------

学年	3	科目名	社会(公民的分野)			使用教科書 主教材	『中学社会 公民分野』日本文教出版 『詳解現代地図 最新版』二宮書店
理系・文系		必修	・必修選択・自由選択			副教材	特になし
共通		コマ数	1.5	単位数			

目標	社会的—協同的存在として、また個人的—実存的生として、自己が「善く生きる」ことは如何にして可能かを考え、指針を設計する力を養う。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	・現代の政治・経済・国際社会の基本理解 ・日本国憲法の基本的原則と政治、国際平和と人類の基本的理解 ・新聞などの諸資料から、現代社会を読み取り、まとめる力	・現代社会の様々な事象の意味や意義等を現代生活と関連付けて考察し判断する力 ・他者の主張もふまえて思考・判断し、自らの考えを説明したり、互いに議論したりする力	・現代の社会的事象について、知的好奇心を持って主体的に調べ、課題を探究する力 ・現代社会における諸課題の解決に向けて、主体的に関わろうとする力	・他者と協働し、自らの考えを再構築し、問題の所在、課題の立て方をとらえ直す力 ・歴史的・現代的な諸課題と教科の学びとをつなげて理解し、社会へと視野を広げる力
学習方法	基本的には講義によるが、グループでの話し合いや討論、模擬裁判などの参加型学習を適宜取り入れる。			
評価	知識・技能	40 %	定期考査・各種提出物、授業への積極的参加などをもとに、総合的判断で評価する。	
	思考力・判断力・表現力	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1学期	1. 社会のなりたち方について考える 2. 日本国憲法を日々の生活から観る 3. 「権利」とは何か～基本的人権について学ぶ 4. 政治と民主主義～選挙の意義を考える	・人間関係が規定される社会の仕組みを知る。 ・「日本国憲法」を通して、近代法治国家と民主主義の基本的な考え方と、市民としての「教養」とを身に付ける。
2学期	4. 「戦争と平和」～激変する国際社会の中での日本の国際協力のあり方について考える～ 5. 政治の仕組みについて考える 1(三権分立) 6. 政治の仕組みについて考える 2(地方自治) 7. 司法制度改革を討議しよう	・憲法第9条と「平和」の意味について考える。 ・民主主義のシステムを理解し、現代日本の政治—司法におけるさまざまな問題、論点を多面的な視野から考察できる力を養う。
3学期	8. お金の使い方・税金の使われ方を考える(金融教育・財政教育) 9. 消費者として知っておきたいこと	・カネの流れ方の基本理解、市場価格の決定メカニズムや財政、税の意義等について考える。 ・「消費者」として心得ておきたい知識を学ぶ。

備考	6年一貫カリキュラムの利点を活かして、学習単元の一部(社会保障や労働問題、国際社会の諸課題、持続可能な社会のあり方についての発展的な学習等)は、主として後期課程の「公共」において取り扱う。
----	--

学年	3	科目名	地歴総合Ⅰ			使用教材	教科書 主教材	『詳述歴史総合』（実教出版） 『地理総合』（東京書籍） 『詳解現代地図 最新版』（二宮書店）
理系・文系		必修	必修選択・自由選択			副教材	自作プリントなど	
共通		コマ数	1	単位数				

目標	社会の形成者となるべく、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史について、歴史的な見方・考え方に加えて地理的な見方・考え方を働かせ主体的に考察・構想できるようになる。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	自国の動向とグローバルな動向を横断的・相互的に捉えて、多極化・多様化する現代的な諸課題を歴史的・構造的に理解する力。	地球規模の諸課題や地域課題について、諸資料を活用し、事象の意味や背景、因果関係について多面的・多角的に思考し考察する力。	現代的な諸課題が形成されてきた歴史のおよび地理的背景について、知的好奇心を持って主体的に探究する力。	他者と協働し、他者の意見もふまえながら自らの考えを再構築し、問題の所在、課題の立て方をとらえ直す力。
学習方法	講義によって基礎的な知識の獲得と歴史の変化に関わる事象の相互の関連についての把握をめざす。諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、その成果をもとに意見交換や議論を行うようなペアワークやグループワークの時間を設ける。			
評価	知識・技能	40 %	定期考査・各種提出物、授業への積極的参加などをもとに、総合的判断で評価する。	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1学期	第一世界大戦と大衆社会 ・第一次世界大戦～戦間期の欧米 ・大戦景気～政党内閣の時代 ・アジアの民族運動 ＜西アジア＞現代の民族問題・難民問題	・近現代の歴史の大きな変化を「近代化」「大衆化」「グローバル化」という大きなテーマでとらえ、「現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史」、「現代的な諸課題の形成に関わる歴史の大きな変化」を理解し、課題意識をもって考察する。
2学期	経済危機と第二次世界大戦 ・世界恐慌～第二次世界大戦 ・満州事変～敗戦 ・国際連合と戦後世界～冷戦の開始 ・戦後と占領の始まり～朝鮮戦争	・世界の歴史と日本の歴史の相互関連性を重視し、世界史的視野に立った歴史を学んだのち、日本の動向を学ぶことで、世界の歴史と日本の歴史を有機的に統合する。またその際、位置や空間的な広がりにも着目して歴史を捉える。
3学期	冷戦と脱植民地 ・冷戦対立の推移～米ソ両陣営の動揺 ＜アフリカ＞ 植民地支配からの独立後の生活文化の変化 ・日本の国際社会復帰と高度経済成長	・歴史的な経緯を踏まえて、よりよい社会、持続可能な社会の実現に向けての現代的諸課題の展望について考察・構想する。 ・＜ ＞の内容は地理総合の教科書を用いて、歴史学習に加えて、地理的な見方を取り入れることでより深い学びとする

備考	主題学習については学期を通じて適宜行う
----	---------------------

学年	3	科目名	解析入門			使用教材	教科書 主教材	「これからの数学 3」(数研出版) 「数学 I Advanced」(東京書籍)
理系・文系 共通		必修	・必修選択・自由選択			副教材		「体系数学 2 代数編」(数研出版)
		コマ数	2	単位数				「体系数学 2 代数編問題集 発展」(数研出版) 「改訂版 4STEP 数学 I + A」(数研出版)

目標	方程式や不等式を用いて、いろいろな事象を数学的に表現することができ、それらを解決することができる。様々な初等関数の中でも、特に 2 次関数の性質を理解し、具合的な現象と関連付けて議論することができる。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	関数のグラフをかくことで、変化の様子を把握するとともに、方程式を視覚的に表現し、様々な表現を得ることができる。	現実問題をモデル化して、数学の世界に持ち込み、事象を関数的に考察することができる。	積極的に関数の考えを適用することにより、具体的な現象の理解や課題の解決を図ろうとする。	学んだ関数が出現する現象を探すといった数学的活動を通して、自分が学習した数学を的確に応用して問題解決することができる。
学習方法	数学的な概念を丁寧に導入し、基本を身につける。例題をともに考えながら、知識・理解の定着をはかる。			
評価	知識・技能	40 %	授業態度・学習意欲・定期考査・小テスト・課題テスト・提出物・レポート	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1 学期	1. 数と式, 実数 (数学 I・数学 A) 最大公約数と最小公倍数 絶対値, 2 重根号 2. 2 次方程式 (中 3) 2 次方程式, 2 次方程式の利用	- 最大公約数や最小公倍数を活用し整数問題を解決できる。 - 絶対値や 2 重根号の意味を理解し処理できる。 - 平方根を用いた方法で 2 次方程式を解ける。 - 解の公式を導き、用いることができる。 2 次方程式を活用し、関連した問題を解決できる。
2 学期	3. 2 乗に比例する関数 (中 3) 2 乗に比例する関数とそのグラフ 関数の値の変化 4. 2 次関数 (数学 I) 2 次関数とそのグラフ 2 次関数の最大・最小	2 乗に比例する関数の意味を理解する。 2 乗に比例する関数のグラフをかくことができる。 - 関数の値の変化の特徴について理解する。 - 平行移動の考え方を理解し、2 次関数のグラフがかけられる。 - グラフを利用して、2 次関数の最大値・最小値を求めることができる。
3 学期	2 次関数の決定 2 次不等式	2 次関数を決定するのに必要な条件を理解する。 - 一般の 2 次不等式や、関連した問題を解決できる。 - 日常の事象における問題解決に 2 次関数を活用できる。

備考	特になし
----	------

学年	3	科目名	代数・幾何入門			使用教材	教科書 主教材	「これからの数学 3」(数研出版) 「数学 I Advanced」(東京書籍)
理系・文系 共通	必修・必修選択・自由選択						副教材	「体系数学 2 幾何編」(数研出版) 「体系数学 2 幾何編問題集 発展」(数研出版) 「改訂版 4STEP 数学 I + A」(数研出版)
	コマ数	2	単位数					

目標	・幾何的対象について数値計算を用いて分析し、理解することができる。 ・データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行うことができる。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	三角比の相互関係を理解することができる。	円や三平方の定理について、複数の視点から作図や証明をすることができる。幾何的対象から代数的側面を抽出し、考察することができる。	議論や数学的活動を通して、数学の基礎としての数学、文化としての数学を協働して味わうことができる。	具体的な事例を用いて三角比を用い、データを扱うなどの数学的活動を通して、学習した数学を的確に応用する。
学習方法	幾何の学習においては、独自プリントを用い、「予想→操作・実験→直観的に理解→論理的に説明・証明」の流れで学習を進めていく。			
評価	知識・技能	40 %	授業態度・学習意欲・定期考査・小テスト・課題テスト・提出物・レポート	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1 学期	1. 円の性質 (中 3, 数学 A) 円と直線の位置関係, 円周角の定理 円と四角形 接弦定理, 方べきの定理	・円の性質、直線や円の位置関係を探究する。 ・円に関する諸定理を利用して、角度や長さなどを求めることができる。 ・円についての今までの知識を、証明問題などで総合的に応用できる。
2 学期	2. 三平方の定理 (中 3) 三平方の定理, 中線定理 3. 三角比 (数学 I) 三角比, 三角比の相互関係, 三角比の拡張, 三角比を含む方程式, 不等式	・三平方の定理の様々な証明方法を考える。 ・三平方の定理を平面図形や空間図形に応用できる。 ・三角比の定義と意味を理解することができる。 ・三角比の相互関係を理解することができる。 ・三角比を利用して問題解決を図ることができる。
3 学期	4. データの分析 (数学 I) 分散と標準偏差, 散布図, 相関係数 確率分布	・分散、標準偏差、散布図及び相関係数の意味やその使い方を理解することができる。 ・目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現できる。 ・シミュレーション等を行って、確率分布 (主に二項分布) についてその性質等を観察する。

備考	特になし
----	------

学年	3	科目名	理科総合			使用教科書 主教材	「未来へひろがるサイエンス 3」 啓林館
理系・文系 共通		必修・必修選択・自由選択				副教材	「高等学校 地学基礎」 第一学習社 「サイエンスワーク 3」 啓林館
		コマ数	2	単位数			

目標	生活体験だけによる認識から、経験的な知識の抽象化や一般化ができるようにする。また、自然科学に対する基本的な理科的素養を身につけ、実験観察等により検証する方法を習得する。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	自然科学に関する経験的な知識の抽象化・一般化ができる。実験観察を計画し、実行する力。	自然現象の本質や、自然界の共通性と多様性が理解できる。	自然現象に関心を持ち、それを主体的に探究しようとする態度。	自然現象について、その本質を理解しようと努め、周囲の助けを借りながら主体的に探究することができる。
学習方法	授業は観察や実験を多く取り入れている。自然現象に関心を持ち、観察、実験から得られた結果から議論や説明できるようになること。必要に応じて、話し合いなどの活動も取り入れる。復習は、教科書を読むことを中心に学習する。副教材の問題集は自学に活用すること。			
評価	知識・技能	40 %	「知識・技能」、「思考・判断・表現」は主に定期考査・レポート・実験観察技能などで評価する。「主体的に学習に取り組む態度」は主に授業態度・課題の提出・出席状況などで評価する。	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1 学期	恒星と宇宙 1. 太陽と太陽系 2. 恒星の性質と進化 3. 銀河系と宇宙	- 太陽系の誕生と太陽系の各天体の特徴を理解する。 - 恒星の特徴から、恒星の進化を理解する。 - 銀河系の構造および宇宙の構造を理解する。
2 学期	地球の運動と天体の動き 1. 天体の日周運動と年周運動 2. 季節の変化 運動とエネルギー 1. 物体の運動 2. 力のはたらき方	- 天体の日周運動や年周運動を理解する。 - 季節の変化を地域の緯度と年周運動から理解する。 - 物体に力を働かせる実験から、力の働きや運動についての規則性や関係性を見いだして理解する。
3 学期	生命の連続性 エネルギーと物質 地球の私たちの未来のために	- 細胞分裂や、生物の殖え方について理解する。 - 遺伝子の概念を獲得し、遺伝の規則性を理解する。 - 日常生活や社会と関連付けて、科学技術と人間との関わりや環境保全についての知識を身につける。

備考	学習内容ごとに実験を実施する。レポートによる考察を重視する。
----	--------------------------------

学年	3	科目名	化学入門			使用教科書 主教材	「未来へひろがるサイエンス3」啓林館 「化学基礎」東京書籍
理系・文系		必修	・必修選択・自由選択			副教材	「サイエンスビュー化学総合資料」実教出版 「ニューアチーブ化学基礎」東京書籍
共通		コマ数	1	単位数			

目標	生活体験だけによる認識から、経験的な知識の抽象化や一般化ができるようにする。また、自然科学に対する基本的な理科的素養を身につけ、実験観察等により検証する方法を習得する。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	経験に基づく自然科学の知識、および基本的な実験操作や観察方法。	身の回りの自然現象について比較・分類ができ、論理的に思考する力。	身の回りの自然現象に関心を持ち、それを探究しようとする態度。	身の回りのさまざまな自然現象について、自らの経験に基づいて議論や説明ができる力。
学習方法	授業は観察や実験を多く取り入れている。自然現象に関心を持ち、観察、実験から得られた結果から議論や説明できるようになること。必要に応じて、話し合いなどの活動も取り入れる。復習は、教科書を読むことを中心に学習する。副教材の問題集は自学に活用すること。			
評価	知識・技能	40 %	「知識・技能」、「思考・判断・表現」は主に定期考査・レポート・実験観察技能などで評価する。「主体的に学習に取り組む態度」は主に授業態度・課題の提出・出席状況などで評価する。	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1 学期	物質の構成（化学基礎） 1. 物質の構成 2. 物質の構成粒子 3. 化学結合	原子の構造及び電子配置と周期律との関係について理解する。物質の性質について観察、実験などを通して探究し、化学結合と物質の性質との関係を理解することで、物質について微視的な見方ができるようにする。
2 学期	物質の変化 1. 物質と化学反応式	化学反応と量的関係に関する基本的な概念や法則を理解する。
3 学期	化学変化とイオン（中学理科） 1. 水溶液とイオン 2. 酸・アルカリと塩	化学変化について、見通しをもって観察、実験などを行い、イオンと関連付けてその結果を分析して解釈し、化学変化における規則性や関係性を見いだす。化学変化をイオンのモデルと関連付けながら、化学反応の量的関係、酸と塩基の反応の基本的な概念や法則を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。

備考	特になし
----	------

学年	3	科目名	体育			使用教科書 主教材	「保健体育」(大修館書店)
理系・文系		必修	・必修選択・自由選択			副教材	アクティブスポーツ (大修館書店)
共通		コマ数	2	単位数	3		

目標	多種多様な運動を経験し、自分の能力にあった運動課題の解決を目指す中で運動技能、体力の向上を図る。 学習活動を通して自己のからだへの気づき・健康の維持増進に努める。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	各種スポーツの基本技能。自ら運動・スポーツを楽しむ力。練習や競技の仕方を工夫し、自分に適した運動課題を解決していく力。	多様な運動・スポーツに関心を持ち、自らの課題に積極的に取り組む態度。自己および周囲の安全に留意し、楽しく運動ができる力。	様々なスポーツ種目に挑戦しようという姿勢。「できない」ことを恐れずに挑戦しようとする姿勢。	「なかま」と協力して運動・スポーツを楽しみながら、お互いのからだについて考え、ステップアップしようとする力。
学習方法	原則として希望する種目を選択し学習する。 教師側からの指示に従って動けばよい場合(一斉指導)もあるが、「自ら考えて」動かななくてはならない場面も多く、積極的な取り組みを期待している。			
評価	知識・技能	40 %	授業態度・学習意欲・実技・出席状況・課題の到達度などから総合的に判断する。	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
通年	体づくり運動 体育理論	- 必要な体力と技能を養い、それらを向上させるための態度を身につける。 - 多種多様な運動を経験させることにより、自らの運動経験を養い、その後の運動生活に役立てる。 - 多様な運動種目に触れ、スポーツの意義を理解する。 - 自らの興味・適性に応じた運動種目を選択することで意欲的に運動に取り組み、運動の楽しさを味わう。 - 各種目の基本的な練習方法を用いて、基礎技能を身につける。 - 簡易ゲームなどを通して、種目の特性を理解し、競技を楽しむことができるようになる。 - スポーツを通して自己の課題を発見し、解決していくことで自らの生活を豊かにする力を育む。
1学期	Ⅰ期 2種目より選択 男子：バスケットボール・ソフトボール 女子：体操・陸上 Ⅱ期 4種目より選択 ※Ⅱ期のみ男女共習 水泳・武道・ダンス・トレーニング	
2学期	Ⅲ期 2種目より選択 男子：体操・陸上 女子：バスケットボール・ソフトボール Ⅳ期 2種目より選択 男子：バドミントン・卓球 女子：バレーボール・サッカー	
3学期	Ⅴ期 2種目より選択 男子：バレーボール・サッカー 女子：バドミントン・卓球	

備考	特になし
----	------

学年	3	科目名	保健			使用教科書 主教材	「保健体育」(大修館書店) 「最新高等保健体育」(大修館書店)
理系・文系		必修	・必修選択・自由選択			副教材	特になし
共通		コマ数	0.5	単位数			

目標	健康と安全に関する理解を通して、豊かに生きる能力を身につける。 現代社会における健康問題を理解するための基礎知識を習得する。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	自分のからだやこころ、健康状態について理解する力。日常生活における健康課題に関する知識。	健康課題や問題点を思考し、解決に向けた確かな判断、行動ができる力。自分の考えを適切に表現し、グループ討論などで発話する力。	日常生活において、習得した知識を主体的に実践する姿勢。知識を実生活と関連させ、さらなる健康維持向上のために自ら学ぶ姿勢。	日常生活における健康課題に対して問題意識を持ち、簡潔に向けて知識や思考を他者と共有しようとする力。
学習方法	日常生活に即した「実践的」な内容を意識しつつ、対話型・グループ学習を重視し、協働的な学びを進める。他者との対話によって自己の思考を広げ、深めていくことを期待している。			
評価	知識・技能	40 %	授業態度、学習意欲、定期考査、レポート、出席状況、課題の到達度	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1学期	健康な生活と病気の予防 ・栄養・休養・運動と健康 ・生活習慣病と健康 ・感染症と健康	・健康の保持増進のために、栄養、休養、運動と疾病、およびその予防の観点から望ましい生活習慣について学ぶ。 ・自らの身体や生活に向き合い、習得した知識を日常的に活用できる態度を養う。
2学期	健康な生活と病気の予防 ・喫煙・飲酒と健康 ・薬物と健康	・喫煙や飲酒などの嗜好品および薬物が個人や社会に及ぼす問題について学ぶ。
3学期	現代社会における健康問題	・現代社会・生活における健康に関する諸問題について知り、自らの問題として考える力を身につける。

備考	特になし
----	------

学年	3	科目名	技術			使用教科書 主教材	「新しい技術・家庭科 技術分野」 (東京書籍)
理系・文系		必修	・必修選択・自由選択			副教材	「情報モラル」(数研出版)
共通		コマ数	0.5	単位数			

目標	製作実習を通して科学・技術への興味・関心を実践力として高め、技術の発展が果たす社会的役割へと視野を広げる。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	製作を行うための理論と技法についての知識と技能の獲得。	設計・製作を通して理論的な理解と工創的自己実現の達成。	製作実習を通して協働の力で問題解決する能力と創造する意欲・態度の育成。	ものづくりの社会的課題や社会的役割を理解し、未来を拓くために新たな技術を活用する力。
学習方法	エネルギーをテーマとして講義を行い、実験、製作実習を行うことからものづくりの社会的課題や社会的役割について視野を広げる。			
評価	知識・技能	40 %	授業態度・学習意欲・定期考査・提出物・レポート・自己評価	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
通年	- エネルギー変換 電気を中心に、暮らしの中のエネルギーについて考える。 電気部品の仕組みからエネルギー変換機器の構造を学ぶ。 - 情報伝達と制御 CDS セルを用いた回路をグループで組み立て、その仕組みや活用を考える。 - エネルギー変換を含む製作実習 回路設計について学び、実験を行う。 回路製作を行う。 - 技術と暮らし	- エネルギーの供給について学び、エネルギーの安定供給や省エネルギーについて考える。 - 半導体部品を中心に、電気回路に見られる部品の特徴や活用方法について学ぶ。 - 光センサーの活用について学び、制御への理解を深める。 - 光センサーやLEDなどの電子部品の仕組みを、実験を通じて理解する - 回路製作技能の習得の中でそれぞれ部品の果たす役割を理解する。 - 技術が生活や産業に果たしている役割を考える力をつける。

備考	特になし
----	------

学年	3	科目名	家庭・家庭基礎			使用教科書 主教材	技術・家庭 家庭分野（開隆堂）
理系・文系		必修	・必修選択・自由選択			副教材	自作プリント
共通		コマ数	1	単位数			

目標	生活を総合的に捉えるとともに、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、主体的・協働的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	食生活と健康や環境との関連、日本の食文化についての知識と技能 住居の機能と安全な住まい方についての知識と理解 消費生活についての知識と理解	食生活及び住生活・消費生活について、身の回りの課題を見だし、考え解決しようとする力 持続可能な社会の構築に向けて考え、解決しようとする力	食生活・住生活・消費生活について、主体的に工夫し創造しようとする実践的な態度 健康や環境に配慮しようとする実践的な態度	学びを総合的に統括させて、食生活・住生活・消費生活の向上に発展させ日常生活の中で応用する力
学習方法	座学と実験・実習を組み合わせ、食生活・住生活・消費生活の内容を中心に学習する。 調理実験・調理実習については調理教室を使用する。調理教室においては、使用にあたっての注意を守り、調理道具等の安全と衛生に留意して実習を行う。			
評価	知識・技能	40 %	授業態度・学習意欲・提出物・レポート・発表・出席状況・実技・作品の技能・定期考査など	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
学年	食生活の自立 ・健康と食生活との関連 ・日常食の調理	・自分の身体的特徴を理解し、毎日の食生活が健康と深く結びついていることを理解し、健康な生活を営むための知識と技能を習得する。 ・材料に適した調理の仕方について理解し、基本的な日常食の調理が適切にできるようになる。
	消費生活 ・消費生活のしくみ ・消費者問題 ・消費生活と環境・資源	・消費者の権利と責任について理解し、自立した消費者としての態度を身につける。 購入を通して消費者の行動が社会や環境に与える影響について理解する。
	住生活 ・住居の機能 ・安全な住まいと安心な暮らし	・家族の生活と住生活との関わりが分かり、住居の基本的な機能について理解することができる。 ・安全を考えた住生活について理解し、住みやすい環境について考察することができる。

備考	家庭基礎の授業では、高等学校家庭科の内容を学習する。
----	----------------------------

学年	3	科目名	音楽			使用教科書 主教材	「中学生の音楽 2・3 下」(教育芸術社) 「中学生の器楽」(教育芸術社)
理系・文系		必修	・必修選択・自由選択			副教材	教材プリント、ギター、和楽器(箏)
共通		コマ数	1	単位数			

目標	表現法の幅を広げることができる。自己と他者の感性を融合することにより新たな創造の可能性に気付く。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	作曲理論の概要を理解し、独自の楽曲を創作できる。音楽外の要素と音楽の関連を理解し音楽に深く親しむ。	楽曲を多面的に理解し、根拠に基づき独自の表現を考え、演奏をもって他者に伝えることができる力。	理論と個性のバランス、多様な感性の調和等、様々な要因を勘案しながら表現の可能性を追求する力。	音楽作品の歴史的背景や作曲技法等に好奇心を持ち、積極的に創造のプロセスを紐解こうとする力。
学習方法	器楽や歌唱表現では、模倣ではなく独自の表現の確立を目指す。鑑賞では聴き比べを多く行い、できるだけ多様な表現に触れる。随時小編成のアンサンブルを行い、多様な感性の調和を図るべくチームで話し合う機会を多く設ける。作曲理論を学び、楽譜打ち込み発展的な作曲にチャレンジする。			
評価	知識・技能	40 %	授業態度、学習意欲、発表・実技テスト、ワークシート等	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1 学期	1. フレージングと表現 《帰れソレントへ》《野ばら》等 2. 器楽(ギター)を用いた弾き語り及びアンサンブル	・旋律の特徴を捉え適切なフレージングを行い、速度、強弱の変化などを工夫し、独自の表現ができるようになる。また、詩の内容とこれらの要素との関連を探り、より深い表現を目指す。 ・様々なリズムでのストロークを学び、歌との調和や協調の感性を養うと共に、その中で自身の個性を堂々と表現する力を育てる。
2 学期	4. 合唱・合奏による表現 混声三部作品、混声四部作品 《時の旅人》《大切なもの》等 5. 指揮を知る。 6. 楽曲探求とプレゼンテーション	・一つの音楽表現を作り上げる過程で、互いの個性や感性を認め合いながら高い協調性に裏付けされた表現を目指す。調和や協調の感性を養い、その中で自身の個性を堂々と表現する力を養う ・基本的な拍子を用いて指揮を体験し、曲想の変化を感じ取る能力を養うと共に、指揮者の役割について知り、理解を深める。 ・楽曲について時代背景、作曲家の人となり等々、多面的な視点で探求を行い、その楽曲の魅力を他者に伝えることで音楽への理解を深める。
3 学期	7. 標題音楽やオペラ鑑賞 交響詩《モルダウ》、歌劇《カルメン》、組曲《動物の謝肉祭》等 8. 和楽器を通して伝統音楽に触れる 《箏》等	・標題音楽ではその作品の音楽の特徴や文化的背景を、またオペラでは文化・歴史、その他の芸術とのかかわり、曲想などを理解して、その良さや美しさを味わう。 ・郷土の伝統音楽を知り、自ら体験し演奏することでその良さ・魅力を味わう。
通年	・クラシック音楽の歴史と発展 ・発声法／指揮法 ・楽典／作曲理論	・教養としての音楽史を学び、音楽への興味関心を高める。 ・思いや意図を適切に音に反映できるよう、基礎的な技能を身につける。 ・表現や鑑賞に取り組む上での基礎知識として、各学習を通じて学ぶ。
備考	特になし	

学年	3	科目名	美術			使用教科書 主教材	「美術 2 上 学びの実感と広がり」(日文) 「美術 2 下 学びの探究と未来」(日文)
理系・文系		必修	・必修選択・自由選択			副教材	「美術資料」
共通		コマ数	1	単位数			

目標	美術の基本的な技法を習得し、美術に親しむ態度を身につける。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	素材や技法を通じた体験や発見を大切に、自らの表現に活かす。	視覚の客観性について理解・習得した上で、自分自身のオリジナリティを作品に反映する。	作品を通して他者の喜びや困難を想像し、問題解決に向けて作品を企画・制作することができる。	作品制作のコンセプトについて考え言語化することによって、他者と意見交換ができる。
学習方法	○ICT 機器を使い、課題内容に基づいた作品制作を行う。 ○美術史上の作品を鑑賞し自らの考えを深める。			
評価	知識・技能	30 %	授業態度・学習意欲・課題作品の提出	
	思考・判断・表現	50 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1 学期	【立体表現（デザイン）】 ○社会的な意義やターゲットを意識した上で商品企画し造形する。商品名や会社名も併せて考える。 ○商品企画を行い、販売戦略に合わせて、その商品の写真撮影・パッケージデザイン・ロゴデザイン・キャッチコピー作成・ポスターデザインを行う。 ○Adobe Illustrator/Photoshop を使用する。	◇主題を明確にした上で作品の構想を練る。 ◇計画・企画を大切に、正確に再現できるよう素材の特性を活かし造形する。 ◇商品企画を行うことによって客観的視点を身につける。 ◇著作権・肖像権について学び理解する。 ◇画面構成について学び作品制作に活かす。 ◇PC ソフトを用いた画面構成について学ぶ。
2 学期	【アニメーション表現】 ○Adobe Character Animator を使用してアニメーションを作成。Illustrator で作成したキャラクターを Character Animator に読み込み、動かす。自分の動きに連動させてキャラクターに動作をつける。	◇キャラクターアニメーションの制作プロセスを理解する。キャラクターのリグ設定（関節や表情の設定）から、実際のアニメーション制作までの流れを体験する。 ◇表現力と創造力を養う。キャラクターに独自の動きや表情をつけることで、アニメーション制作における表現力と創造力を高める。
3 学期	俳画 ○水墨画の素材や過去の作品の特徴を知る。 ○技法について学び、自らが表現したいことに合わせて使い分ける。 ○水墨画と俳句と組み合わせ、俳画を制作する。	◇天平時代から 1300 年の歴史をもつ奈良を代表する伝統産業である墨の歴史を知り、その表現の幅の豊かさを体験する。 ◇水墨画独特の描写方法を知り、自らの表現に活かす。

備考	特になし
----	------

学年	3	科目名	Topic Studies I				使用教材	教科書 主教材	Here We Go! 3 (光村図書)
理系・文系		必修・必修選択・自由選択				副教材		中学実力練成テキスト英語 3 年 (文理)	
共通		コマ数	2.5	単位数				総合英語 be (い い ず な 書店)	

目標	国際的に通用する発音、リズム、イントネーションで自分の考えや意見を表現する。幅広いトピックの英文を理解し、そこから情報を引き出す。視野を広げ、地球市民として世界を知ろうとする態度を養う。身近なトピックについて、意見を論理的に表現したり、意見の交換を行う。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	幅広い話題についての英語の学習を通して、言語の働きや運用についての知識を身につけるとともに、その知識を実際のコミュニケーションにおいて活用することができる。	コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、幅広い話題について知識や得た情報を整理・活用して自分の意見や考えを構築し、英語を用いて情報や考えを表現し、伝え合うことができる。	トピックについて理解し、間違いを恐れずに自分の意見とその理由を表現しようとする。相手に合わせて別の語句や表現を用いるなど工夫して伝えようとする。	ペア・ワークやグループ・ワークに積極的に参加し、集団の中で自分の役割を考え英語を学ぼうとする。辞書を活用し、自主的に調べたり、知識を広げようとする。
学習方法	身近なトピックについて、英語を読んだり、聞いたりする。 読んだ内容について英語を書いたり意見交換する。 まとまりのある英文を、文法や語法などに注意して読み、文章の意味を正しくつかむ。 辞書を利用し、自分の力で理解しようとする。			
評価	知識・技能	40 %	定期考査 小テスト 課題 発表 授業態度 学習意欲 Writing の成績と一緒に総合評価を出す。	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1 学期	Virtual Tour (受け身) School Trip (現在完了) World Peace (現在完了進行形, It is (for...) to)	文章を読み、共通点と相違点を述べることができる。 世界に関する幅広い知識と教養を身につける。
2 学期	AI Technology (関係代名詞) My Dreams (関係代名詞、後置修飾) School Events (後置修飾、間接疑問文)	様々な社会の課題について自分の意見をわかりやすく相手に伝える力を身につける。
3 学期	Speech, Friends (仮定法) Read (これまでの復習)	これまでの自分のことや社会的な問題について、考えを順序立てて伝え合う力を身につける。

備考	英和辞典及びファイルを持参すること。
----	--------------------

学年	3	科目名	Writing I				使用 教材	教科書 主教材	EARTHRISE I（数研出版）
理系・文系		必修・必修選択・自由選択				副教材		中学実力練成テキスト英語 3 年（文理） 総合英語 be（いいずな書店）	
共通		コマ数	1	単位数					

目標	トピックについての自分の意見を、論理的に書く力を身につける。 内容にふさわしい英文スタイルを学ぶ。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	幅広い話題についての英語の学習を通して、言語の働きや運用についての知識を身につけるとともに、その知識を実際のコミュニケーションにおいて活用することができる。	コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、幅広い話題について、知識や得た情報を整理・活用して自分の意見や考えを構築し、英語を用いて情報や考えを表現し、伝え合うことができる。	トピックについて理解し、間違いを恐れずに自分の意見とその理由を表現しようとする。とともに、相手に合わせて別の語句や表現を用いるなど工夫して伝えようとする。	ペア・ワークやグループ・ワークに積極的に参加し、集団の中で自分の役割を考え英語を学ぼうとする。辞書を活用し、自主的に調べたり、知識を広げようとする。
学習方法	パラグラフ構成法に基づいてパラグラフの構成を学ぶ。 スピーチやプレゼンテーションの原稿を論理的に書く。 正確な英文が書けるよう練習問題（和文英訳を含む）に取り組む。			
評価	知識・技能	40 %	定期考査 小テスト 課題 発表 授業態度 学習意欲 Topic Studies の成績と一緒に総合評価を出す。	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1学期	Virtual Tour（受け身） School Trip（現在完了） World Peace（現在完了進行形、It is (for...) to)	辞書を効果的に利用し、よりよいパラグラフが書ける力を身につける。 パラグラフの構成を身につける。
2学期	AI Technology（関係代名詞） My Dreams（関係代名詞、後置修飾） School Events（後置修飾、間接疑問文）	パラグラフ展開の基本的な特徴を身につける。 正確な英文を書くための基礎的な文法事項を学ぶ。
3学期	Speech, Friends（仮定法） Read（これまでの復習）	パラグラフ展開に従って論理的な文章を書き、発表する力を身につける。

備考	英和辞典及びファイルを持参すること。
----	--------------------

学年	3	科目名	探究基礎			使用教科書 主教材	なし
理系・文系		必修	・必修選択・自由選択			副教材	「課題研究のメソッド」(啓林館) 研究ノート
共通		コマ数	1	単位数			

目標	自然科学と人文社会に関する共通課題について、小集団による探究活動を通じて、探究活動における基本的な手法や態度を身につける。自然科学と人文社会それぞれの視点から課題を捉え、仮説の設定、実験・調査計画の立案、先行研究の調査、実験・観察の実施、研究記録の付け方、データ処理、考察の組み立て、論文・ポスターの書き方、プレゼンテーションの方法など、一連の探究活動の過程を経験しながら、探究活動の基礎的技能を養う。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	探究活動に必要な基礎技能や姿勢	さまざまな角度から物事を考える力や、内容を正確に伝える表現力	他者と協働し、積極的に課題を解決しようとする力	他者あるいは自己の取り組みを公正かつ的確に評価する姿勢
学習方法	探究活動では、領域ごとに設定された共通テーマに即して、調査・実習・実験を行い、発表・討議し、相互評価を行う。また、探究活動の各段階において、グループ間の比較や検討を行うための講座内での共有を行う。			
評価	「探究活動の基礎的技能の習得」を基準に、以下の項目について総合的に判断して評価する。 - 定期的に行う振り返りや探究成果レポートなどをまとめたポートフォリオ - 実験や調査の過程を記録した研究ノート - 探究活動の報告・発表に関する他者評価ならびに自己評価 など			

	学習内容	ねらい
1学期	自然科学領域と人文社会領域の2つの学問的手法を用いて、全員がそれぞれの領域における共通課題に取り組みながら、探究活動に必要な基本的な技能や姿勢を学ぶ。 ・自然科学領域(理科、数学) ・人文社会領域(社会、創作)	それぞれの領域において、次の過程で授業を進める。 ①課題に対する仮説を立てる。 ②先行研究の調査を行う。 ③検証方法を考えて、計画を立てる。 ④実験・調査・フィールドワークを行う。 ⑤データ処理に関する基礎を学ぶ。 ⑥実験・調査結果から考察を行う。 ⑦仮説の修正や実験・調査方法の修正を図る。 ⑧レポートやプレゼンテーションを作成する。 ⑨発表会を行い、自己評価・相互評価を行う。
2学期	各領域について、2人の教員が協働して授業を進める。それぞれ課題提示からはじまり、仮説の立て方、実験・調査、分析・考察、発表など、探究活動の一連の過程を授業で行う。	
3学期	4年「基盤探究Ⅰ」において、個人またはグループで取り組む課題を決定し、4年の探究活動がスムーズに始められるように準備を行う。	テーマは次の2タイプのいずれかとする。 (1)自然科学系 (2)人文・社会系

備考	特になし
----	------

学年	3	科目名	道徳			使用教科書 主教材	「中学道徳 あすを生きる 3」 (日本文教出版)
理系・文系		必修	・必修選択・自由選択			副教材	特になし
共通		コマ数	1	単位数			

目標	自立した人間として他者と共によりよく生きるために、物事をさまざまな方向からとらえ、議論することを通して、自分の生き方や他者、社会との関わり方を深く考え、行動することができる。 【3年生の重点目標】 主として集団や社会との関わりを通じて、他者を受容するとともに、自己肯定感を育む			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	さまざまな道徳的価値について知る、学ぶ	主張が対立する諸価値について考え、議論し、自分ならどうするかを判断する力を養う	自分たちにとって身近な問題等をテーマとして授業を展開し、主体的に学ぶ力や道徳的心情を豊かに育む	他者の意見を「聴く」とと、自分の意見を「語る」ことを通じて、人として生きる意味を重層的に概念把握する力
学習方法	教材（教科書や視聴覚教材、その他）を用いて、個人やグループで主題に沿った活動（自分の考えを書く、述べる／他者の考えを聴く／お互いに意見を交わして議論）をする。また、活動内容を振り返り自らの課題や目的を見つけ出す。			
評価	授業者による評価、自己評価、他者評価等を総合的に判断し、文章による評価を行う			

	学習内容	ねらい
1学期	- 教科書「臓器ドナー」 - 教科書「塩むすび」 - 教科書「出迎え三步、見送り七歩」 など 3年生として前期課程におけるリーダーシップについて考える。	「学校生活」を起点に、社会へと視野を広げ、さまざまな問題を主体的に考える。 (キーワード：よりよい学校生活、生命の尊さ、自主・自律・自由と責任、思いやり・感謝・礼儀、社会参画 など)
2学期	- 教科書「風に立つライオン」 - 教科書「命のトランジットビザ」 - 教科書「稲村の火」余話 - 教科書「昔と今を結ぶ糸」 など	国際的に活躍している人々のことや、伝統文化について知ることで自らがどのように国際社会に関わりを持つことができるのかを考える。 (キーワード：よりよく生きる喜び、国際理解・国際貢献、伝統文化、生命の尊さ、など)
3学期	- 教科書「言葉の向こうに」 - 教科書「よりよい情報社会へ」 - 教科書「風景開眼」 など	- 情報モラルの問題から社会正義や相互理解について考える。 - 生命や自然など崇高なものについて考える。 (キーワード：感動・畏敬、相互理解、公正・公平・社会正義など)

備考	教科の性質上、主題や教材は変更することがあります。
----	---------------------------

学年	4	科目名	現代の国語			使用教科書 主教材	「精選 現代の国語」(明治書院)
理系・文系 共通		必修	・必修選択・自由選択			副教材	大学入試国語頻出問題 1200 四訂版 (いっずな書店)
		コマ数	1.5	単位数	2		

目標	さまざまな時代の文章を、その言語表現を通して読み味わう態度を身につける。先哲の叡智と対峙し、仲間との対話的な学びによって理解を深める。言語への感覚を磨き、論理的に書き表す力を養う。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	基礎的な言語事項に関する理解。論理的な文章を読み解くための基礎的な語彙の理解。	文章の意味や論点を的確に捉え、理解する力。筆者の主張を自身の言葉に置き換える力。	新たな語彙や表現を習得しようとする姿勢。自らや社会に対して考えを深める姿勢。	他者との交流で新たな考えを獲得し、異質性を受け入れる姿勢。問いと向き合う態度。
学習方法	- 講義形式の中に、対話型学習を積極的に取り入れる。 - 論理的な文章や実用的な文章を読み、自分の意見や考えを論述する。 - スピーチや討論などで自分の考えを表現したり、他者と相互批評したりする。			
評価	知識・技能	40 %	定期考査・提出物・小テスト・授業内課題などを総合的に加味する。	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1 学期	「自分の時間で読み継ぐ」長田弘 「上手い、おもしろい」齋藤亜矢 「ビッグデータと人工知能」西垣通 「自他のあいだの〈間〉」鷲田清一	- 筆者の主張を把握しながら、論理性に着目しつつ文章を読み取る。 - 筆者の主張を正確に理解し、問いかける力を伸ばす。
2 学期	「働くことの意味」内田樹 「生命誌からのメッセージ」中村桂子 「時間を巡る衝突」内山節 「未来を予測する最善の方法」松田雄馬 「マルジャーナの知恵」岩井克人 「美意識は資源である」原研哉	- 筆者の主張を支える根拠を論理的に把握する。 - 文章の修辞や構成、論理展開上のさまざまな工夫などについての的確にとらえて読み進める。 - 読解したものを論理的に表現する。
3 学期	「世界中がハンバーガー」多木浩二 「〈普遍語〉とは何か？」水村美苗 「わかりあえないことから」平田オリザ 「坐の象徴論」矢田部英正	- 文章の種類を踏まえて叙述を基に内容を的確に捉える。 - 筆者の主張を自身の言葉に置き換えて理解する。 - 自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や表現方法を工夫する。

備考	特になし
----	------

学年	4	科目名	言語文化			使用教科書 主教材	「精選 言語文化」(明治書院)
理系・文系		必修	・必修選択・自由選択			副教材	「体系古典文法」(数研出版)
共通		コマ数	1.5	単位数	2		「精説漢文」(いっずな書店)

目標	様々なテキストに対する読解力の向上をはかり、言語や文化を動的に捉え、それらに対する見方や考え方の深化と拡充を目指す。言語への感覚を磨き、論理的に書き表す力を養う。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	基礎的な言語事項に関する理解。歴史的な言語文化事象に対する基礎的理解。	様々な作品を比較して多角的多面的に考察する力。言語文化の現象を動的に捉える力。	新たな語彙や表現を習得しようとする姿勢。自らや社会に対して考えを深める姿勢。	他者との交流で新たな考えを獲得しようとする態度。自身の問いと向き合い問い直す力。
学習方法	- 講義形式の中に、対話型学習を積極的に取り入れる。 - 古典作品のものの見方や考え方、言語文化を理解して、さまざまなジャンルの文章を読み深める。 - 文学作品の表現方法や主題などについて、自分の考えを表現したり、他者と相互批評したりする。			
評価	知識・技能	40 %	定期考査・提出物・小テスト・授業内課題などを総合的に加味する。	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1学期	(古典分野) ・説話「大江山」など・物語「竹取物語」など ・故事成語「推敲」「朝三暮四」など ・古典文法、古文単語、漢文の句法(現代文分野)・小説「羅生門」など	(古典分野) ことばの変遷、古語への関心を深める。古文の説話、物語を読んで、古人のものの見方や考え方を理解する。漢文への関心を高め、基本的な句法を習得する。 (現代文分野) 物語を読み、人物の心情を読み解く。
2学期	(古典分野) ・随筆「徒然草」など ・唐詩、十八史略など ・古典文法、古文単語、漢文の句法(現代文分野) ・随想「うそとパン」など	(古典分野) 随筆を読んで、古人のものの見方や考え方を理解する。唐詩を学び、日本にも生きる漢詩の世界に気づく。史伝を読み味わい、古人の生き方を知る。 (現代文分野) 筆者の主張を把握し、論理性に着目して随想を読み解く。
3学期	(古典分野) ・日記「土佐日記」など ・中国古典思想、日本漢文など ・古典文法、古文単語、漢文の句法(現代文分野) ・韻文など	(古典分野) 日記を読んで、古人のものの見方や考え方を理解する。中国古典思想を学び、日本漢文にも触れつつ、日本文化形成の来歴を発見する。 (現代文分野) 韻文を読み味わい、表現の仕方や特色を理解する。

備考	特になし
----	------

学年	4	科目名	地歴総合Ⅱ			使用教材	教科書 主教材	『地理総合』（東京書籍） 『詳解現代地図 最新版』（二宮書店） 『詳述歴史総合』（実教出版）
理系・文系 共通		必修・必修選択・自由選択	コマ数	2	単位数	2	副教材	自作プリントなど

目標	地理的な見方や考え方に加え歴史的な見方や考え方を生かし、グローバル化に対応しつつ、防災などの諸課題に即応できる力を含めた持続可能な社会のリーダーとしてのシチズンシップを身につける。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	・地理的知見の空間的認知と地理的な見方 ・GISの諸機能を操作する技能 ・歴史的背景に立って、現代の地球的課題を理解する力	・地理的知見を防災や減災に使う判断力 ・地図のグラフを読み解く力と表現力 ・歴史的背景を知り国際理解する思考力	・知的好奇心を持った主体的な探究をする力 ・多様な世界に共感的に理解する力 ・地理的諸課題の解決に主体的に関わる力	・他者と協働しながら、問題の所在、課題の立て方をとらえ直す力 ・歴史的・現代的な諸課題とつなげて理解し、社会へ視野を広げる力
学習方法	教員の講義、地理院地図や今昔マップなど主にインターネットGISの諸機能を用いたオリジナルな地図やグラフなどの作成、共感的理解を得るためのシミュレーションゲーム、地域調査のためのフィールドワークなど			
評価	知識・技能	40 %	作成地図やグラフなど提出物の評価と定期考査や授業への参加度など総合的に評価	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1学期	1. 地図や地理情報システム(GIS)と防災 (1)地図の役割と種類 (2)GISの仕組みと使い方 (3)防災とGIS 2. 持続可能な地域づくりと私たち (1)地形と自然災害 (2)気候と自然災害 (3)災害と避難行動	・地理情報を取り出し表現する力を身に付けさせるとともに、紙媒体の地図の重要性も認識させる。 ・身近な防災について考えさせる。 ・自然災害の種類で避難行動が異なることを考えて“命を守る行動”を身に付けさせる。また、自然災害に伴う火災や原発事故なども学習し、正しい避難行動を理解して率先避難者となれるようにする。
2学期	(4)生活圏の調査と地域の展望 3. 国際理解と国際協力 (1)世界の地形と生活文化 (2)世界の気候と生活文化 (3)世界の産業と生活文化	・ハザードマップで学校や自宅周辺、通学路の安全点検をしつつ、ハザードマップの検証もする。 ・世界の多様な文化を地形と気候、さらに産業について、各地域の文化と絡めて理解させる。
3学期	(4)世界の宗教・民族・言語と生活文化 (5)多極化する世界と地域紛争 (6)地球的課題と国際協力	・多様な地球的課題を理解し、その解決に向け行動できるシチズンシップを身に付けさせる。 ※特に(5)では『歴史総合』の教科書を使用し、歴史的な見方を養いつつ地球的課題の学習を進める。

備考	必要に応じて地形図等の副教材を購入してもらうこともある。また、2名の担当者で適宜項目を入れ替えて行う場合があります。
----	--

学年	4	科目名	公共			使用教科書 主教材	教育図書 「高等学校 公共」
理系・文系		必修	・必修選択・自由選択			副教材	教育図書「公共 ワークノート」
共通		コマ数	1.5	単位数	2		

目標	今、目の前で起こっている社会の課題、しかも対立する複数の価値に基づいた論争的テーマについて、自ら主体的に考え、対話等を通じて自己の主張や意見を鍛えていくことを目標とした授業			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	公共性にかかわる様々な哲学・倫理学上の学説史や、政治経済を論じる際に必要となる基本的知識事項等	諸々の論争的課題について自らの意見を形成し、互いに主張をぶつけ合い、それらを表現するための資質能力	知的好奇心を持って主体的に探究する力、および世界の多様性への受容力と人類普遍の原理を理解し活用する力	・他者と協働しながら、問題の所在、課題の立て方をとらえ直す力、また、より善い判断を協働的に導き出す力
学習方法	・講義形式 ・グループディスカッション、ディベート、模擬選挙・裁判等の参加型授業、レポート作成 等			
評価	知識・技能	40 %	定期考査・各種提出物、授業への積極的参加などをもとに、総合的判断で評価する。	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1 学期	1. 「公共性」とは何か (1)「公共性」をめぐって東西思想を比較しよう (2)その「～するべき」は何のため？誰のため？ ～功利主義と義務論について考える～ (3)公共性を支える基本原理について考える	公共性をめぐる哲学・倫理学における考え方（特に政治哲学などを中心とする近現代思想をベースとして）をもとに、現代的諸課題について主体的に考えることを目標とする。（内容項目 A「公共の扉」）
2 学期	3. 主権者としての公共性 (1)裁判員として君は事件をどのように裁くか (2)市民の立場から安全保障のあり方を考える (3)望ましい社会の実現と立法権について問う	おもに法－政治領域（教科書第 2 章）について学習しつつ、日本に相応しい国際貢献のあり方、選択的夫婦別姓制度の是非、憲法改正論議の課題等を取り上げる。（内容項目 B「自立した主体～」）
3 学期	2. 経済から考える持続可能な社会とは (1)「市場経済」は至上の経済システムか？ ～労働の問題、望ましい社会保障制度と共に (2)財政の健全化について提案しよう ～分配の正義について考える～ (3)国際社会の諸課題について考える	おもに経済領域（教科書第 3 章）について学習する。市場経済についての基本的理解を前提に、それが最善の社会なのかという問いのもと、様々な社会思想を参考にしつつ、現状のシステムを批判的に捉え直すことを目標とする。 （内容項目 B および C「持続可能な社会～」）

備考	3 年社会（公民的分野）で学んだ事柄との学習内容の重複を避けつつ、中学校公民的分野－公共を一体的・連続的に運用する授業となるよう企図している。
----	---

学年	4	科目名	解析Ⅰ			使用教科書 主教材	「数学Ⅱ Advanced」(東京書籍)
理系・文系		必修	・必修選択・自由選択			副教材	「改訂版教科書傍用 4STEP 数学Ⅱ+B」 (数研出版)
共通		コマ数	1.5	単位数	2		

目標	論理を構成する力を身につけ、数学的な様々な事柄を証明することができる。 さまざまな関数の特徴や違いを理解し、関数で世界を見る力を身につける。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	等式などのいろいろな証明方法を理解する。 関数のグラフをかくことで、方程式や不等式を視覚的に表現し、様々な表現を得る。	現実問題をモデル化して、数学の世界に持ち込み、事象を関数的に考察することができる。	積極的に関数の考えを適用することにより、具体的な現象の理解や課題の解決を図ろうとする。	学んだ関数が出現する現象を探すなどの数学的活動を通して、学習した数学を応用して問題の解決や探究活動を遂行できる。
学習方法	概念を丁寧に導入し、基本を身につける。例題を考えながら、知識・理解の定着をはかる。実験や観察をできるだけ取り入れ、主体的な学びを期待する。 授業進度によって、内容を変更する場合がある。			
評価	知識・技能	40 %	授業態度・学習意欲・定期考査等のテスト・提出物・レポート(課題学習等)などを総合的に評価する。	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1学期	1. 方程式・式と証明(数学Ⅱ) 3次式の乗法公式と因数分解 多項式の除法、分数式の計算 剰余の定理、因数定理 恒等式、等式と不等式の証明	- 分配法則や乗法公式をもとに、因数分解ができる。 - 多項式の除法、商と余りの求め方を理解する - 因数定理を用いて因数分解ができる。 - 恒等式の意味を理解する。 - 等式・不等式の証明ができるようになる。
2学期	2. 指数関数・対数関数(数学Ⅱ) 指数関数 指数法則、累乗根、指数の拡張 指数関数とそのグラフ 対数関数 対数の性質、底の変換公式 対数とそのグラフ	- 累乗根の意味を理解し、指数を任意の実数まで拡張する。 - 指数関数のグラフの特徴について考え、指数関数の性質について理解する。 - 対数を定義し、その基本性質を理解する。 - 対数関数のグラフの特徴について考え、対数関数の性質について理解する。
3学期	3. 微分積分の基礎(数学Ⅱ) 微分係数、導関数 導関数の応用	- 極限の考え方をを用いて、微分係数や導関数を理解し、それらを求めることができる。 3次関数の最大、最小や極値を求め、増減表を書き、グラフの概形を描くことができる。

備考	特になし
----	------

学年	4	科目名	代数・幾何Ⅰ			使用教材	教科書 主教材	「数学Ⅰ Advanced」(東京書籍) 「数学A Advanced」(東京書籍) 「数学Ⅱ Advanced」(東京書籍)
理系・文系		必修	・必修選択・自由選択			副教材		「改訂版教科書傍用4STEP 数学Ⅰ+A, Ⅱ+B」(数研出版)
共通		コマ数	2	単位数	2			

目標	論理を構成する力を身につけ、数学的なさまざまな事柄を証明することができる。 場合の数を正確に計算し、いろいろな確率について理解し、求めることができる。 新しい数の概念を獲得することで数の範囲をひろげ、利用することができる。				
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等		学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	場合の数や確率、虚数解を持つ二次方程式の解などを求めることができる。	集合、命題について学習することで、数学的な表現の基礎を身につけ、数学の内容をより深く厳密に扱うことができる。また、数学の諸概念を多面的・総合的にみることができる。		現実の問題に、積極的に数学の考えを利用しようとし、具体的な事象から興味を持って、積極的に問題を数学的に解決しようとする。	実験や操作活動を通じて、確率の概念を理解する。現実問題をモデル化し、数学の世界に持ち込み、事象を数学的に考察できる。
学習方法	概念を丁寧に導入し、基本を身につける。例題を考えながら、知識・理解の定着をはかる。 実験や観察をできるだけ取り入れ、主体的な学びを期待する。 授業進度によって、内容を変更する場合がある。				
評価	知識・技能	40	%	授業態度・学習意欲・定期考査等のテスト・提出物・レポート（課題学習等）などを総合的に評価する。	
	思考・判断・表現	40	%		
	主体的に学習に取り組む態度	20	%		

	学習内容	ねらい
1学期	1. 集合と命題(数学Ⅰ・数学A) 集合、命題、必要条件と十分条件、命題の逆・裏・対偶、背理法 集合の要素の個数 2. 場合の数(数学A) 和の法則・積の法則 順列、円順列、重複順列 組合せ、同じものを含む順列	- 集合と集合の間の包含関係について理解する。 - 命題の真偽と集合の包含関係を理解する。 - 対偶を用いた証明、背理法を理解し、証明できる。 - 順列・組合せについて理解し、その総数を求められる。起こりうるすべての場合をもれなく、重複なく列挙する方法を身につける。 - 場合の数を求めるときに、適切な手段を選択することができる。
2学期	二項定理 3. 確率(数学A) 確率とその基本的な法則 独立な試行と確率、条件付き確率、期待値	- 確率の意味を理解し、正しく計算できる。 - 独立試行の確率・条件付き確率・期待値の考え方について理解し、具体的な場面で活用できる。
3学期	4. 複素数(数学Ⅱ) 複素数とその演算 解の公式、解と係数の関係 簡単な高次方程式	2乗すると負の数になる数を考えることで、数を複素数まで拡張することができる。 - 解の公式、判別式、解と係数の関係から、二次方程式の解に関する問題を解決することができる。

備考	・数学Ⅰの図形と計量については3年で学習済のため授業では扱わないが、適宜課題を課す。
----	--

学年	4	科目名	物理入門			使用教科書 主教材	「物理基礎」東京書籍
理系・文系 共通		必修・必修選択・自由選択				副教材	「New Global 物理基礎」東京書籍
		コマ数	1.5	単位数	2		

目標	自然界や日常の諸現象を一般化するための、物理学の入門的な理論について学習する。特に、力学や波動など、各領域の相関と差異に注目しながら、物理現象を考察する視点を養う。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	実験や観察の結果に基づいて知識を抽象化および一般化する力。 目的に応じた実験器具や実験方法を選定する力。	より抽象的な科学的思考力の育成。 自然現象の本質と自然界の一樣性と多様性を理解する能力。	知識の現実生活への適用と応用。 実験観察に意欲的に取り組む態度。 多様な解の存在を意識し、別解を思考する力。	習得した知識を他の事例に反映させる態度。 生徒自身による観察実験の計画と実施。
学習方法	・実験・観察を通して、物理の基礎概念を形成する力を養う。 ・思考実験や問題演習を通して、科学的思考力を高める。 ・グループワークや討論を通して、自分の意見や考えを表現する。			
評価	知識・技能	40 %	「知識・技能」、「思考・判断・表現」は主に定期考査・レポート・実験観察技能などで評価する。「主体的に学習に取り組む態度」は主に授業態度・課題の提出・出席状況などで評価する。	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1 学期	1. 運動の表し方 2. さまざまな力とそのはたらき 3. 力学的エネルギー	・物体の位置や速度，加速度の表し方を学ぶ。 ・物体にはたらく力にはさまざまな種類があることや，その特徴やはたらいっている理由を理解する。 ・力学的エネルギーが保存される場合の条件と，力学的エネルギー保存の法則について理解する。
2 学期	4. 熱 5. 波	・熱に関する基本概念を獲得する。 ・多様なエネルギーに関する諸概念を獲得する。 ・波に関する基本概念を獲得する。 ・音の現象を波の性質から捉え、理論化する。
3 学期	6. 電気と磁気 7. エネルギーとその利用	・電気や磁気の性質を学ぶ。 ・エネルギーはさまざまに形を変えることと，エネルギー保存の法則について理解する。

備考	特になし
----	------

学年	4	科目名	生物入門			使用教科書 主教材	「高等学校 生物基礎」第一学習社
理系・文系 共通		必修	・必修選択・自由選択			副教材	「スクエア最新図説生物」第一学習社 「セミナー生物基礎」第一学習社
		コマ数	1.5	単位数	2		

目標	生活体験だけによる浅い知識から、経験的な知識の抽象化や一般化ができるようにする。 自然科学一般に対する理科的素養を身につけさせる。			
育てたい力	知識・技能 経験的な知識を抽象化および一般化する力。 器具の扱い方の習熟と正確な観察や測定をする技能。	思考力・判断力・表現力等 より抽象的な科学的思考力の育成。 自然現象の本質と自然界の多様性を理解する能力。	学びに向かう力・人間性等 知識の現実生活への適用と応用。 実験観察に意欲的に取り組む態度。	学びを活性化する力 習得した知識を日常のトピックスに反映させる態度。 生徒自身による観察実験の計画と実施。
学習方法	・実験・観察を通して、器具の扱いに慣れ、生物の共通性と多様性を理解する。 ・思考実験や問題演習を通して、科学的思考力を高める。 ・グループワークや討論を通して、自分の意見や考えを表現する。			
評価	知識・技能	40 %	「知識・技能」、「思考・判断・表現」は主に定期考査・レポート・実験観察技能などで評価する。「主体的に学習に取り組む態度」は主に授業態度・課題の提出・出席状況などで評価する。	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1学期	1. 生物の特徴 2. 遺伝子とその働き	・環境に適応した生物や細胞の多様性を学ぶと同時に、細胞構造を中心とした生物の共通性を学ぶ。 ・エネルギーと代謝の関係性と酵素や ATP の役割について学ぶ。 ・遺伝子の構造と、遺伝情報の発現について学ぶ。
2学期	3. 生物の体内環境	・自律神経とホルモンによる体内環境の調節のしかたや免疫のしくみを学び、生物に備わっている生体防御について考え、健康との関係を理解する。
3学期	4. バイオームの多様性と分布 5. 生態系とその保全	・気候条件の違いにもとづく様々なバイオームの分布、生態系におけるエネルギーの移動と物質循環のしくみを理解する。 ・生態保全の重要性や地球環境について考える。

備考	特になし
----	------

学年	4	科目名	体育			使用教科書 主教材	「最新高等保健体育」(大修館書店)
理系・文系 共通		必修・必修選択・自由選択 コマ数	1.5	単位数	2	副教材	アクティブスポーツ (大修館書店)

目標	スポーツを通して運動技術を獲得し、運動技能や競技力を向上する。 男女の性差による運動能力や体力の違いを理解し、適切な行動を取れるようにする。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	「なかま」とともに各種スポーツを楽しむ運動技能。運動体系およびルールを理解する力。安全について理解し、実行できる力。	自らの興味・適性に合った運動種目を選択する力。自らの課題解決に向けて取り組む力。自他の安全に留意し楽しく運動できる力。	多様な運動種目に積極的に取り組み、挑戦し続ける姿勢。「なかま」とともに協力して運動に親しむ態度。	「なかま」と協力して運動・スポーツを楽しみながら、お互いのからだについて考え、ステップアップしようと行動する力。
学習方法	原則として希望する種目を選択し学習する。 教師側からの指示に従って動けばよい場合(一斉指導)もあるが、「自ら考えて」動かななくてはならない場面も多く、積極的な取り組みを期待している。			
評価	知識・技能	40 %	授業態度・学習意欲・実技・出席状況・課題の到達度などから総合的に判断する。	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1学期	体づくり運動 体育理論(通年) Ⅰ期 バスケットボール、ラクロス、バレーボール、卓球から1種目選択 Ⅱ期 ダンス、水泳&ニュースポーツ、器械体操、陸上、武道から4種目開講、1種目選択	・1年間を4期に分け、各期に設置された種目から4種目を開講し、そのうちの1種目を選択する。 ・多種多様な運動を経験することにより、心身の調和的な発達を促す。 ・自らの興味・適性に合った運動種目の内容をさらに進め、運動の楽しさを体験する。 ・男女や個人の能力の違いについて理解するとともに、互いに協力して練習や競技ができるようにする。 ・各種目の特性を理解し、基本技能を用いて競技ができるとともに、勝敗に対する公正な態度をとれるようにする。 ・多種多様なスポーツを選択、体験することで、スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解する。
2学期	Ⅱ期 ※上記選択種目を継続 Ⅲ期 ソフトボール、バレーボール、テニス、アルティメットから4種目開講、1種目選択	
3学期	Ⅳ期 サッカー(男子)、フットサル(女子)、バドミントン、卓球から1種目選択	

備考	特になし
----	------

学年	4	科目名	保健			使用教科書 主教材	「最新高等保健体育」(大修館書店)
理系・文系		必修	・必修選択・自由選択			副教材	特になし
共通		コマ数	1	単位数	1		

目標	個から集団、社会・世界に目を向け、様々な視点から「健康」をとらえ、思考を深める。 生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質・能力を育てる。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	現代社会における様々な健康問題に関する知識、健やかな生涯生活を送るための知識を習得する力。自らのからだやこころの変化や健康状態について理解する力、「性差」や「個人差」を理解する力。	「健康」について、個人から集団へと観点を広げ、考えを深める力。他者との違いを理解し、適切な発言、行動ができる力。自己の考えを適切に表現し、グループ討論などで発話、発表できる力。	思春期を健やかに過ごし、生涯にわたって健康な暮らしを送るために、からだや生活の変化を積極的に意識し、よりよい状態に改善しようと努める姿勢。	これまで習得してきた知識や経験を活かし、生涯における社会問題や健康課題の解決に向けて、他者との対話により、一層自己の思考を広げ、深めようとする力。
学習方法	日常生活に即した「実践的」な内容を意識しつつ、対話型・グループ学習を重視し、協働的な学びを進める。他者との対話によって自己の思考を広げ、深めていくことを期待している。			
評価	知識・技能	40 %	授業態度・学習意欲・実技・出席状況・課題の到達度などから総合的に判断する。	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1 学期	性への関心・欲求と性行動の選択 ・からだとこころの発育発達 ・性感染症・エイズの予防	・思春期の心と体の変化について理解し、健やかな思春期を送ることができる力をつける。 ・性感染症やエイズの基礎知識を身につけ、正しい性のあり方や行動の仕方について理解させる。
2 学期	結婚生活と健康 ・妊娠、出産と健康 ・避妊法の選択と人工妊娠中絶	・健やかな生涯生活を送るための基礎知識を理解し、計画的な人生設計ができる力を養う。
3 学期	健康な社会生活を送るために ・労働と健康 ・加齢と健康 ・医療、保健サービスとその活用 ・精神疾患と健康 ・がんと健康 ・環境問題等 ・献血	・高齢化社会を健やかに過ごせる力を身につけるとともに、医療、保健、福祉など社会生活を健康に送るための様々なしくみや活動を理解する。また、安全に健康に労働できる環境作りについても理解し、よりよい社会生活が送れる知識を身につける。

備考	特になし
----	------

学年	4	科目名	家庭基礎			使用教科書 主教材	家庭基礎 自立・共生・創造（東京書籍）
理系・文系		必修	・必修選択・自由選択			副教材	LIFE おとなガイド（教育図書）
共通		コマ数	1.5	単位数	2		

目標	生活を総合的に捉えるとともに、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	人の一生と家庭生活、衣食住、消費生活・環境など生活を総合して主体的に営むために必要な知識と技能	生涯を見通した生活設計を立て、課題を見だし、自ら考え解決する力	家庭生活や社会生活を豊かにするために工夫し創造する実践的な態度・伝統的生活文化を継承しようとする態度	学びを総合的に発展させて、生涯生活の質的向上に応用する力
学習方法	座学と実験・実習を組み合わせ、食生活・家庭生活の内容を中心に学習する。 実験・実習については調理教室または被服教室を使用する。使用にあたっての注意を守り、安全と衛生に留意して実習を行う。			
評価	知識・技能	40 %	授業態度・学習意欲・提出物・レポート・発表・出席状況・実技・作品の技能・定期考査など	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
学年	食生活 ・栄養素の科学的機能 ・食環境の安全性 ・調理実験・実習 ・日本の食文化の継承・創造	・栄養素を科学的に見る目を養い、実験・実習を通して食品の科学的機能を理解する。 ・食中毒などを中心に食品の衛生と安全についての理解を深める。 ・伝統的生活文化の特徴とそれを伝承することの大切さを学ぶ。
	人の一生と家族・家庭及び福祉 ・生涯の生活設計と家庭の経済生活 ・共に生きる生活と社会 ・乳幼児や高齢者への理解	・人の一生と発達課題について理解し、生涯の生活設計を考える。 ・家族・家庭・社会の意義や関わり及び人の一生と幼児や高齢者への理解を深め、共生社会の一員として生活する能力を養う。
	フレンドシップキルトの製作	・個性や嗜好を生かした創作作品の製作を通して、ものづくりの楽しさや達成感を味わう。
	ライフステージの特徴と探究活動 持続可能な消費生活・環境	・生涯生活の中から課題を見出し、解決するための探究活動を通して、ものの見方・考え方を広げる。

備考	特になし
----	------

学年	4	科目名	音楽Ⅰ			使用教科書 主教材	音楽Ⅰ Tutti+ (教育出版)
理系・文系 共通	必修・ 必修選択	自由選択	コマ数	1.5	単位数	2	副教材 教材プリント、楽譜等

目標	多様な感性を認め、個性豊かな表現力と鑑賞の能力を伸ばす。生涯にわたって音楽に親しみ芸術文化を尊重する態度を身につける。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	器楽演奏及び歌唱に関する基礎的な技能。また、音楽理論や音楽史に関する基礎知識。	創作背景や音楽理論等多面的に音楽を理解し、適切な楽曲解釈を行う力。また、その解釈を他者に伝える力。	改善点を明確にし、目的意識をもって主体的に活動する力。音楽芸術の歴史的・文化的背景への理解を深め、学問としての音楽を尊重する姿勢。	自己の感性を磨くと共に、多様な感性を受容する力。他者と協働して音楽表現を作りあげる力。
学習方法	歌唱：今の身体・声にあった発声から、アカペラを主として、混声4部合唱による純正律を目指した響きづくりを行う。 器楽：専門楽器を選択し年間を通して取り組む。グループで目標を共有し、互いに学び合い高め合う。 鑑賞：音楽芸術に沢山触れ、歴史的・文化的背景から楽曲理解を深める。			
評価	知識・技能	40 %	実技演奏発表	
	思考・判断・表現	40 %	学習意欲・態度	
	主体的に学習に取り組む態度	20 %	ワークシート、評価シート、その他提出物等	

	学習内容	ねらい
通年	- 合唱（アカペラ、混声4部） - 器楽（ピアノ・管弦楽器・お箏等） 楽器ごとの基礎技能の習得⇒ソロ曲の習得⇒同楽器とのアンサンブル⇒他楽器とのアンサンブル - 鑑賞 - 楽典	- これまでに身につけた発声法をベースに、今の身体、声に見合った発声を身に付け、アカペラを主とした純正律の美しい響きを体得する。それに伴い正確なハーモニーを作るための聴く力も育てる。 - 専門楽器（ピアノ・管弦楽器・お箏等）を一つ選択し、グループで毎回適切なテーマを設定し、協働して高め合い基礎技能を習得する。また協調性、課題解決力、適切な主張、コミュニケーション能力など社会で必要なスキルを育てる。各学期末には発表を行い、人前で演奏することでしか得ることの出来ない能力や、他の演奏を聴き評価する能力を育てる。 - 様々な名作・名演に触れ、多様な価値を認めると共に、歴史的・文化的背景を紐解き、芸術を深く理解する。 - 音楽の仕組みを理解する力を備え、主体的に演奏する力を身につける。

備考	特になし
----	------

学年	4	科目名	美術 I			使用教科書 主教材	高校美術（日文）
理系・文系 共通		必修・ コマ数	必修選択 1.5	自由選択 単位数	2	副教材	なし

目標	高度な技能の習熟を目指し、創造活動に主体的に取り組む。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	素材や技法を通した体験や発見を大切にし、自らの表現に活かす。	視覚の客観性について理解・習得した上で、自分自身のオリジナリティを作品に反映する。	作品の考察によって他者世界を認める。自己世界について模索し表出させることで、自己について省み、内面の更なる充実を図る。	作品制作のコンセプトについて考え言語化することによって、互いに意見交換できる。
学習方法	○扱う素材や技法について理解して使用し、課題内容に基づいた作品制作を行う。 ○完成した自他の作品を鑑賞し意見交換を行う。また、課題内容に合わせテーマが類似した過去的美術作家の作品を参考にし、自らの作品の表現をさらに向上させる。			
評価	知識・技能	40 %	授業態度・課題プリント及び作品の提出	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1 学期	立体表現（段ボール紙による立体） ○段ボール紙を用いて、自分の足が入るスニーカーを制作する。 ○自分の持っているスニーカーを参考に、形態を正確に把握する。 ○段ボール紙の凹凸面や質感を考慮し、デザイン的にも見栄えのする作品を制作する。	◇段ボール紙の特性を理解し、活用する力を養う。段ボール紙の強度、柔軟性、凹凸面、質感などの特性を理解し、素材としての可能性を探る。 ◇立体造形の基礎を学ぶ。平面素材から立体物を制作するプロセスを通じて、立体造形の基本的な技術や考え方を習得する。
2 学期	平面表現＋美術鑑賞（ボールペン画） ○教科書から平面作品を3つ選び、その中の要素を構成して、一枚の作品に仕上げる。 ○ボールペンという消えない素材を使って描くことで、自らの描いた線が集積して、作品に深みと重厚感が生まれる。	◇美術史や既存作品への理解を深める。教科書に掲載されている平面作品を分析し、美術史や芸術的表現への理解を深める。 ◇構成力を養う。複数の作品から要素を選び、それらを組み合わせて新しい作品を制作するプロセスを通じて、構成力やバランス感覚を高める。
3 学期	平面表現（鉛筆デッサン）	◇観察力を養い、基礎的な描写技術を習得する。

備考	特になし
----	------

学年	4	科目名	工芸 I			使用教科書 主教材	工芸 I（日本文教出版）
理系・文系 共通	必修・ 必修選択	自由選択	コマ数	1.5	単位数	2	副教材

目標	風土、歴史に根ざした身近な生活文化への認識を高め、工芸作品への理解を深める。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	生活の中での有用性、機能と美しさについて考える。	日常の生活を豊かに楽しむための発想力・構成力を養う。	作品のコンセプト考案から完成まで、作品制作に必要な技法を習得する。	お互いの作品を比較し討論する。
学習方法	素材や技法の特徴を理解し、作品作りを行う。 完成した自他の作品を鑑賞し意見交換を行う。			
評価	知識・技能	40 %	作品の制作の過程や実習中の意欲・態度、完成された作品を評価する。	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
通年	陶芸 ・器のデザインと制作 ・陶芸作品の制作 染織 ・染色技法を使った布作りから製品作りまでを体験する	・陶器での作品作りを通して、日本の食文化を体験する。 ・器のデザインと機能美について考え、プロダクトデザインを体験する。 ・食と器について考え、工夫する。 ・装飾文化に関する意識を深める。 ・伝統文化に対する理解を深める。

備考	特になし
----	------

学年	4	科目名	書道 I			使用教科書 主教材	書 I (光村図書)
理系・文系 共通	必修・ 必修選択	自由選択	コマ数	1.5	単位数	2	副教材

目標	作品制作のための創造的な技能や知識の習熟を目指し、個々の違いや表現の工夫を楽しむ。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	古典やお互いの作品を比較検討し、自らの書の技能を高める。	書によって筆者の精神や感興が表現できることを理解し、自らの作品に活かす力を養う。	書における美や芸術性に興味を持ち、自己を表現する。	いろいろな表現や美しさに対する興味・関心から工夫する。
学習方法	個々の技術に応じた制作活動を行う。 完成した自他の作品を鑑賞し意見交換を行う。 フィールドワークを含む学習で得た知識や学びを自身の創作活動に活かす。			
評価	知識・技能	40 %	作品の制作の過程や実習中の意欲・態度、完成された作品を評価する。	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
通年	表現 ・漢字（草・隸・篆書）、仮名、漢字仮名交じりの臨書 ・篆刻 ・自由課題制作（展覧会、文化祭） 鑑賞 ・名筆（古典）の鑑賞 ・外部展覧会の鑑賞 ・作品の相互評価 ・外部の書道用品店での見学、体験	・作品制作に必要な古典技術を選別し、個性的な表現をする。 ・個々の興味や技術にあわせて課題を決め、自主的にすすめる。 ・古典やいろんな作品を評価し自分の作品を向上させる。 ・用具用材の製造過程や特徴と表現効果との関わりについて理解し、自身の作品の構想や表現へ活かす。

備考	特になし
----	------

学年	4	科目名	Topic Studies II			使用教科書 主教材	Crossroads English Communication I (大修館)
理系・文系 共通		必修	・必修選択・自由選択			副教材	総合英語 be (いっずな書店)
		コマ数	2.5	単位数	3		

目標	国際的に通用する発音、リズム、イントネーションで自分の考えや意見を表現する。幅広いトピックの英文を理解し、そこから情報を引き出す。視野を広げ、地球市民として世界を知ろうとする態度を養う。身近なトピックについて、意見を論理的に表現したり、意見の交換を行う。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	幅広い話題についての英語の学習を通して、言語の働きや運用についての知識を身につけるとともに、その知識を実際のコミュニケーションにおいて活用することができる。	コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、幅広い話題について知識や得た情報を整理・活用して自分の意見や考えを構築し、英語を用いて情報や考えを表現し、伝え合うことができる。	トピックについて理解し、間違いを恐れずに自分の意見とその理由を表現しようとするとともに、相手に合わせて別の語句や表現を用いるなど工夫して伝えようとする。	ペア・ワークやグループ・ワークに積極的に参加し、集団の中で自分の役割を考え英語を学ぼうとする。辞書を活用し、自主的に調べたり、知識を広げようとする。
学習方法	身近なトピックについて、英語を読んだり、聞いたりする。 読んだ内容について英語を書いたり意見交換する。 まとまりのある英文を、文法や語法などに注意して読み、文章の意味を正しくつかむ。 辞書を利用し、自分の力で理解しようとする。			
評価	知識・技能	40 %	定期考査、小テスト、課題、発表、授業態度、学習意欲、出席状況	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1 学期	Cross-Cultural Communication Media Literacy Environment	・新しい文化の中で生活する人を支える取り組みについて理解し、考えを深める。 ・新しいメディアやコミュニケーションの方法について理解し、考えを深める。 ・世界の海が抱える問題について理解し、考えを深める。
2 学期	Volunteer Activities Health	・他人を援助している人々について理解し、考えを深める。 ・長く健康に生きるための方法について理解し、考えを深める。
3 学期	Cultural Exchange War and Peace	・異文化交流について理解し、考えを深める。 ・難民と彼らを救った人々について理解し、考えを深める。

備考	英和辞典及びファイルを持参すること。
----	--------------------

学年	4	科目名	Writing II				使用教材	教科書 主教材	EARTHRISE I（数研出版）
理系・文系 共通	必修・必修選択・自由選択					副教材		総合英語 be（いっいずな書店）、総合英語 be 4th Edition English Grammar 46 Workbook（いっいずな書店）	
	コマ数	1	単位数	1					

目標	トピックについての自分の意見を、論理的に書いたり、話したりする力を身につける。 内容にふさわしい英文スタイルや表現方法を学ぶ。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	幅広い話題についての英語の学習を通して、言語の働きや運用についての知識を身につけるとともに、その知識を用いて意見を表現しようとする。	新しく習った語句や文法を使って、目的・場面・状況等に応じて読み手を意識した文章を書くことができる。 パラグラフ展開法に従って論理的な文章を書き、発表することができる。	トピックについて理解し、間違いを恐れずに自分の意見とその理由を表現しようとするとともに、相手に合わせて別の語句や表現を用いるなど工夫して伝えようとする。	辞書や参考書を利用し、よりよいパラグラフになるよう工夫することができる。
学習方法	パラグラフ構成法に基づいてパラグラフの構成を学ぶ。スピーチやプレゼンテーションの原稿を論理的に書き、それを適切な発音で相手に伝える。また、ディベートやディスカッションを通して、積極的に意見交換を行う。			
評価	知識・技能	40 %	定期考査、小テスト、課題、発表、授業態度、学習意欲、出席状況	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1 学期	(例) Problem Solution Classification Cause and Effect	3 年次に学習した基本的なパラグラフ展開を活かし、様々なパラグラフタイプの文章が書けることをねらいとする。 最終的には、これまで学習したパラグラフの展開のうち、書きたいことに合うものを選び、説得力のあるパラグラフを書くことができるようになることを試みる。 また、書いたことを基に、プレゼンテーションやディスカッション等の口頭での発表ややり取りを図る。
2 学期	(例) Persuading by Argument Graph description	
3 学期	これまで学習したパラグラフのまとめ	

備考	英和辞典及びファイルを持参すること。
----	--------------------

学年	4	科目名	基盤探究Ⅰ			使用教科書 主教材	特になし
理系・文系		必修	・必修選択・自由選択			副教材	「課題研究メソッド」(啓林館) 「研究ノート」
共通		コマ数	1	単位数	2		

目標	「探究基礎」で身につけた手法と姿勢を活かして、各自の課題について、個人または小集団による探究活動を行う。主体的に課題を設定し、学問的手法を用いて、協働的に探究する力を身につける。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	仮説の立て方や文献調査の方法、ポスターのまとめ方など探究活動に必要な知識と技能	探究に適する手法を正しく選択して多角的に考察し、その成果を分かりやすく表現する力	主体的に課題を設定し、他者と協働しながら課題を解決しようとする力	互いの探究活動について積極的に意見を交わし、自らの探究にフィードバックする力
学習方法	・「研究ノート」等に毎回の活動内容や結果などを記録する。 ・定期的に指導教員と進捗状況や成果について確認する。 ・中間発表会および探究成果発表会で発表する。 ・1年間の研究概要をポスターにまとめる。			
評価	以下の事項をもとに、総合的に判断して評価する。 ・探究活動への取り組み方や意欲、態度 ・探究活動におけるデータや研究ノート、資料等を総合したポートフォリオ評価 ・ポスター発表 ・自己評価および相互評価			

	学習内容	ねらい
1学期	1. グループまたは個人による探究活動を行う。 ・研究テーマの分野に応じて 8 人の教員が指導を担当する。 ・研究計画書に基づいて、探究活動を展開する。 ・探究活動の進捗状況を毎回記録し、振り返りと次の活動内容を確認する。	・各教員の指導のもと、研究計画に基づいて探究活動を行い、仮説の検証を行う。 ・実験や観察、フィールドワークや調査活動など、仮説の検証に適した手法を正しく選択する。 ・指導教員やグループのメンバーと議論しながら探究活動を進める。 ・必要に応じて仮説や研究計画を修正する。 ・ポスター発表が学問的手法に基づいて仮説を検証したものであるかを、自他ともに正しく評価する力を習得する。
2学期	・定期的に指導教員と研究計画を確認し、必要に応じて計画を修正しながら探究活動を進める。	
3学期	2. まとめと振り返り ・9月下旬に中間発表会を行う。 ・2月中旬に他学年を交えた探究研究成果発表会を開催し、ポスター発表を行う。	

備考	特になし
----	------

学年	4	科目名	統計入門			使用教科書 主教材	「数学Ⅰ Advanced」(東京書籍) 「数学Ⅱ Advanced」(東京書籍)
理系・文系 共通		必修	・必修選択・自由選択			副教材	「改訂版教科書傍用 4STEP 数学Ⅰ+A、Ⅱ」(数研出版)、「統計的な推測」など
		コマ数	1	単位数	1		

目標	探究活動に向けた基礎的な統計処理として、確率分布、標本調査、推定、検定などに関する内容を扱う。また、自然科学だけではなく、人文・社会科学においても有用な確率分布を用いたデータの処理方法を身につける。それぞれの分布の意味や統計分析の必要性、実際の分析手法の理解を目指す。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	確率分布の基本について理解し、推定や検定の意味と仕組みを理解する。探究活動で得られたデータを統計的に正しく処理して、考察の根拠として提示する。	得られたデータを統計的に分析し、仮説の妥当性を判断する。また、データの誤差を適切に評価して判断に生かす。	探究活動において、正しい統計的推測をもとに考察することができ	具体的な事例を用いて統計的推測を行うなどの数学的活動を通して、自分が学習した数学を的確に応用し、探究活動を遂行することができる。
学習方法	・講義 ・コンピュータを活用した実習 ・発表、議論			
評価	知識・技能	40 %	学習意欲・定期考査・小テスト・課題テスト・提出物・レポート	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1 学期	1. データ分析の表し方 (数学Ⅰ) 分散・標準偏差、標本誤差、クロス集計 回帰直線、尺度	・データ処理で基本となる事項を使うことを目的に学ぶ。具体的な事例を使って、レポートを作成する中で、基盤探究での活用を目標とする。
2 学期	2. データ分析の理解 (数学Ⅱ) 確率分布、二項分布、正規分布 推定と検定	・確率分布とその性質について理解する。 ・代表的な確率分布として、離散型の二項分布と連続型の正規分布を理解する。 ・推定と検定の意味と手法を理解する。
3 学期	3. いろいろな分析方法 t 分布、 χ^2 分布、F 分布	・探究活動で応用することの多い確率分布として、いくつかの代表的な確率分布を扱う。主に t 分布、F 分布、 χ^2 分布などを想定している。

備考	並行して学ぶ確率と前後するため、数学的な計算よりもデータ処理をメインに行う。
----	--

学年	5	科目名	論理国語				使用教材	教科書 主教材	論理国語（筑摩書房）
理系・文系 共通	必修・必修選択・自由選択							副教材	『TOP2500』（いっずな書店）『最新国語便覧』（浜島書店）『読むナビ現代文 2.5』（いっずな書店）
	コマ数	1.5	単位数	2					

目標	近現代文学や評論を幅広く読み、文章を読解する力を養う。また、自己の思考を深め、論理的かつ説得的な表現力を身につけ、認識力・思考力・感受性を育成する。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	多様な文章に頻出する語彙や概念を習得する。	テキストを忠実に読解し、論理の展開を的確に捉える姿勢と能力。	具体から抽象への論理的思索の方法を発見し、獲得する力。	多様でかつ高度な文章に触れることによる自己の言語能力と、思索能力を向上する力。
学習方法	- 講義形式の中に、対話型学習を積極的に取り入れる。 - 論理的な文章や実用的な文章を読み、自分の意見や考えを論述する。 - スピーチや討論などで自分の考えを表現したり、他者と相互批評したりする。			
評価	知識・技能	30 %	授業態度・定期考査・小テスト・提出物・出席状況など	
	思考・判断・表現	50 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1学期	「物語るという欲望」 内田樹 「ファッションの現象学」 河野哲也 「近代の成立」 橋爪大三郎など 「沖縄戦を聞く」 岸政彦 - デジタル化された世界オリヴィエ・レイなど	評論を読むことによって、文章の構成、筆者の主張やものの見方を理解する。また、自分なりの疑問を見つめながら、自己の考えを深める。
2学期	「生物の作る環境」 日高敏隆 「模倣と「なぞり」 尼ヶ崎彬 「桜が創った「日本」」 など 「貧困は自己責任なのか」 湯浅誠 「権力とは何か」 杉田敦など	さまざまな評論を読み、読解する力を養うとともに、多岐の話題について興味関心を広げ基本的な素養を養う。
3学期	「現代日本の開化」 夏目漱石 「「である」ことと「する」こと」 丸山眞男など	内容、分量ともに重厚な評論を読み通し、自らの考えを深めさせる。

備考	特になし
----	------

学年	5	科目名	古典探究			使用教材	教科書 主教材	『古典探究 古文編』『古典探究 漢文編』 (筑摩書房)
理系・文系 共通	必修・必修選択・自由選択						副教材	『体系古典文法』(数研出版)『古文単語 330』(いっずな書店)『新訂版 最新国語 便覧』(浜島書店)『精説漢文』(いっずな書店)
	コマ数	2	単位数	2				

目標	さまざまな古典を読むことを通して、現代に通じる日本の伝統文化の特質や言語等についての考察を深める。また、古典を享受する力を育むべく、古文単語、古典文法・漢文句法に対する知識を深める。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・ 表現力等	学びに向かう力・ 人間性等	学びを活性化する力
	古典文法や漢文句法等の言語スキルの獲得。歴史的な言語文化に対する通時的な理解。	古典の文意を正しく捉え、自分の考えを表現する力。作品の背景を理解し言語文化の事象を動的に捉える力。	作品に描かれたテーマや先人のものの見方、感じ方、考え方などを的確に読み取ることができる。	古典作品を通して、言語文化の底流に存する価値観の理解を深める力。古典から積極的に学ぼうとする力。
学習方法	- 講義形式の中に、対話型学習を積極的に取り入れる。 - 古典作品のものの見方や考え方、言語文化を理解して、さまざまなジャンルの文章を読み深める。 - 文学作品の表現方法や主題などについて、自分の考えを表現したり、他者と相互批評したりする。			
評価	知識・技能	40 %	授業態度・定期考査・小テスト・提出物・出席状況など	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1 学期	- 説話『宇治拾遺物語』等 - 物語『大鏡』等 - 史伝『史記』『近古史談』等 - 助動詞・助詞と古文単語の学習 - 漢文句法の学習	- 古典の持つリズムを味わいながら、朗読する楽しさを知る。諸テキストのものの見方や考え方を読みとり、自身のものの見方や考え方を深化拡充する。 - 助詞や古文単語についての理解を深める。 - 漢文句法を習得する。
2 学期	- 随筆『枕草子』『方丈記』『徒然草』等 - 日記『蜻蛉日記』『更級日記』等 - 思想『孟子』『荀子』『韓非子』等 - 敬語と古文単語の学習 - 漢文句法の学習 - 言語文化として日本漢文等を取り上げる	- 古典の持つリズムを味わいながら、朗読する楽しさを知る。 - 諸テキストを読むことを通じて、「古典」や「語ること」、「文化」について思索を深める。 - 敬語や古文単語についての理解を深める。 - 中国思想を理解するとともに、漢文リテラシーの現代の位置づけを考える。
3 学期	- 物語『源氏物語』等 - 近体詩(白居易)、古体詩(陶淵明)など - 古典文法、漢文句法、古文単語の総復習	古典の持つリズムを味わいながら、朗読する楽しさを知るこれまでの古典学習を通じて、「古典」や「語ること」、「文化」について思索を深める。

備考	特になし
----	------

学年	5	科目名	公共			使用教科書 主教材	教育図書 「高等学校 公共」
理系・文系		必修	・必修選択・自由選択			副教材	教育図書「公共 ワークノート」
共通		コマ数	1.5	単位数	2		

目標	今、目の前で起こっている社会の課題、しかも対立する複数の価値に基づいた論争的テーマについて、自ら主体的に考え、対話等を通じて自己の主張や意見を鍛えていくことを目標とした授業			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	公共性にかかわる様々な哲学・倫理学上の学説史や、政治経済を論じる際に必要となる基本的知識事項等	諸々の論争的課題について自らの意見を形成し、互いに主張をぶつけ合い、それらを表現するための資質能力	知的好奇心を持って主体的に探究する力、および世界の多様性への受容力と人類普遍の原理を理解し活用する力	・他者と協働しながら、問題の所在、課題の立て方をとらえ直す力、また、より善い判断を協働的に導き出す力
学習方法	・講義形式 ・グループディスカッション、ディベート、模擬選挙・裁判等の参加型授業、レポート作成 等			
評価	知識・技能	40 %	定期考査・各種提出物、授業への積極的参加などをもとに、総合的判断で評価する。	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1 学期	1. 「公共性」とは何か (1)「公共性」をめぐって東西思想を比較しよう (2)その「～するべき」は何のため？誰のため？ ～功利主義と義務論について考える～ (3)公共性を支える基本原理について考える	公共性をめぐる哲学・倫理学における考え方（特に政治哲学などを中心とする近現代思想をベースとして）をもとに、現代的諸課題について主体的に考えることを目標とする。（内容項目 A「公共の扉」）
2 学期	3. 主権者としての公共性 (1)裁判員として君は事件をどのように裁くか (2)市民の立場から安全保障のあり方を考える (3)望ましい社会の実現と立法権について問う	おもに法－政治領域（教科書第 2 章）について学習しつつ、日本に相応しい国際貢献のあり方、選択的夫婦別姓制度の是非、憲法改正論議の課題等を取り上げる。（内容項目 B「自立した主体～」）
3 学期	2. 経済から考える持続可能な社会とは (1)「市場経済」は至上の経済システムか？ ～労働の問題、望ましい社会保障制度と共に (2)財政の健全化について提案しよう ～分配の正義について考える～ (3)国際社会の諸課題について考える	おもに経済領域（教科書第 3 章）について学習する。市場経済についての基本的理解を前提に、それが最善の社会なのかという問いのもと、様々な社会思想を参考にしつつ、現状のシステムを批判的に捉え直すことを目標とする。 (内容項目 B および C「持続可能な社会～」)

備考	3 年社会（公民的分野）で学んだ事柄との学習内容の重複を避けつつ、中学校公民的分野－公共を一体的・連続的に運用する授業となるよう企図している。
----	---

学年	5	科目名	日本史探究			使用教科書 主教材	『詳説日本史』（山川出版社）
理系・文系 共通	必修・ 必修選択	自由選択	コマ数	2	単位数	2	副教材 『新詳日本史』（浜島書店）

目標	4年生までの社会科および歴史学習をふまえ、歴史事項に関する知識の習得とともに、それらを活用して、社会構造の歴史的変化を主体的に探究し、「国家とは何か」「民族とは何か」など抽象的な概念についても深く考察する力を育む。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	- 日本列島の歴史展開に関する基本事項を理解する力 - 日本列島の歴史展開に関する情報を多様な資料を活用して収集・読解する力	- 日本列島の歴史に関する諸事象の意味や相互関係を多面的・多角的に考察する力 - 適切な資料と方法を用いて説明したり、議論したりする力	- 意欲を持って学習に取り組み、課題を主体的に探究する力 - 歴史に関する総合的な理解をふまえ、地域や日本、世界のあり方を主体的に探究する力	- 他者と協働しながら、問題の所在、課題の立て方をとらえ直す力 - 歴史的・現代的な諸課題とつなげて理解し、社会へ視野を広げる力
学習方法	講義を中心に、基本的知識の習得をもとにしつつ、より高度な概念の習得をめざす。また、習得した知識や概念を活きたものとするために、意見交換や討論の時間をできるだけ取り入れるなどして、様々な課題を主体的に探究することを重視する。			
評価	知識・技能	40 %	各学期末の定期考査を中心に、レポート課題や提出物、授業での発表や出席状況、参加度などを総合的に判断して評価する。	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1学期	1.日本文化のあけぼの 2.古墳とヤマト政権 3.律令国家の形成	- 旧石器・縄文・弥生時代の社会と文化について学ぶ。 - 小国家成立からヤマト政権の成立について学ぶ。 - 東アジアの中における律令国家の成立と展開について学ぶ。 - 律令体制の変容と平安中期の政治的・社会経済的変遷について学ぶ。
2学期	4.貴族政治の展開 5.院政と武士の躍進 6.武家政権の成立 7.武家社会の成長	- 平安中後期の政治的・社会経済的変遷と中世社会成立期の諸様相について学ぶ。 - 中世前期の政治的・社会経済的変遷と文化について学ぶ。 - 中世後期の政治的・社会経済的変遷と文化について学ぶ。 - 戦国期の政治的・社会経済的変遷と文化について学ぶ。
3学期	8.近世の幕開け 9.幕藩体制の成立と展開 10.幕藩体制の動揺	- 中近世移行期および近世前～中期における政治的・社会経済的変遷について学ぶ。 - 幕藩体制の変容、および近代化の基盤形成・萌芽について学ぶ。

備考	特になし
----	------

学年	5	科目名	世界史探究			使用教科書 主教材	『新詳世界史探究』（帝国書院） 自作プリント
理系・文系 共通		必修・ <u>必修選択</u> ・自由選択				副教材	『グローバルワイド最新世界史図表』（第一学習社）
		コマ数	2	単位数	2		

目標	4 年までの学習で培った空間・時間・現代認識を活用し、あらゆる地域の過去がいかにより現在の世界を構成する要素となっているかを考え、資料を読み解く力や歴史的視座を獲得する。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	世界の諸地域における歴史的展開について、地理的条件や諸資料から読み解き理解する力	歴史的な事象の意義・特色などを概念的に理解し、その概念を活用して多面的・多角的に考察、説明する力	現代の世界に生きる市民として主体的に探究し、多面的・多角的な考察に基づき深く理解しようとする力	国際情勢から日常までのあらゆる場面に、歴史的に形成されてきた諸概念との関わりを発見する力。
学習方法	講義を中心に、資料活用と基本的知識の習得を基にしつつ、より高度な概念の習得をめざす。また、修得した知識や概念を活かしたものとするために、考察、意見交換、論述などを積極的に行う。			
評価	知識・技能	50 %	定期考査、課題の到達度や出席状況、学習意欲などを基に、総合的に判断して評価する。	
	思考・判断・表現	30 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1 学期	1. 諸地域の歴史的な特質の形成 (1) 東アジアと中央ユーラシア (2) 南アジアと東南アジア	世界各地の人類が、気候や風土など様々な条件のなかで、「中華」「歴史的インド」「オリエン特」といった地域世界や文化圏を形成する過程と、それらの文化圏をつなぐ中央ユーラシアや海洋世界の役割を学び、人や物、文化の交流によって構築された前近代の世界のあり方を理解する。
2 学期	(3) 西アジアと地中海世界 2. 諸地域の交流と再編 (1) ユーラシア大交流圏の成立	「宗教」「民族」「国家」といった存在について、文化圏の形成過程を学びながら考える。 1. で形成について扱った諸地域の交流が発展、拡大し、さらには地球規模の結びつきをもつようになる過程を、イスラームの発展やネットワーク拡大、モンゴル帝国によるユーラシアの大統合、ヨーロッパの大航海時代といった事象を扱いながら理解する。
3 学期	(2) アジア諸地域の成熟とヨーロッパの進出	グローバル化の端緒について考察し、現代の世界のあり方を問い直す。

備考	特になし
----	------

学年	5	科目名	地理探究				使用教材	教科書 主教材	『新詳地理探究』（帝国書院）、 『新詳高等地図』（帝国書院）
理系・文系 共通	必修・必修選択・自由選択				副教材	『世界の諸地域 NOW2025』（帝国書院） 『2025 データブック オブ・ザ・ワールド』（二宮書店）、地形図（国土地理院）			
	コマ数	2	単位数	2					

目標	地理的なものの見方考え方を身につけた能力が、国際交流や災害の時などに活用できるよう、各個人に定着する知識や技能となるようにする。修学旅行と連携することにより、現実生きる学力を確かめる。また、見世物小屋的異文化理解とならないような異文化理解教育をめざす。地理総合で学んだ内容と方法を深め、持続可能な社会の構成員として行動に移せる力をつける。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	文理融合科目の特徴を生かし、各自の目的意識をもった探究活動	基礎的知識の習得とともに、活用できる知識としての定着	・問題発見&解決能力 ・読図/統計読解能力 ・課題提示能力	身につけた地理的能力を、課題解決に結び付けて考える力
学習方法	講義中心であるが、修学旅行先と世界地誌において調査&発表学習を取り入れ、身近な事柄を“地理的な見方考え方”で理解できるようにする。また、地理総合での学習成果を活かして、防災などについて理解を深めるとともに、獲得した基礎的な知識を生きた知識とするために、参加型学習教材の導入などを積極的に行う。			
評価	知識・技能	40 %	2回のレポート・発表・評価等を各定期考査一回分とし、学期末考査とともに評価する。その他、各種提出物、授業への積極的参加などを基に、総合的判断で評価する。	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1学期	1.地図と地理的技能 2.世界と日本の大地形と小地形 3. 修学旅行についての学習と発表 ＜レポートの作成・発表・評価＞	・地図の基本的学習を通して空間認識能力を養う。また、GISの活用技能を習得し、統計資料を読み適切な地図化方法を選択する能力も育成する。 ・日本および世界各地の地形についての知識を身につけ、地理学習の基礎を修得する。 ・修学旅行先の地図学習とテーマを選んで調査・発表などにより、訪問地を多様な視点で理解する。
2学期	4.世界と日本の気候 5.災害と地理 6.世界地誌（アジア） ・各地域別の講義	・日本および世界各地の地形や気候の仕組みを学習し、自然地理について理解を深める。 ・地震や津波、台風などの自然災害について学び、減災の手立てについて考える。 ・地誌の講義で世界の各地域理解を深める。
3学期	6.世界地誌（つづき） ・各地域別の講義 ・各自レポート作成と発表 および自己評価&相互評価 ・シミュレーション教材	・各自が興味のある世界各地の特定のテーマを深く掘り下げてレポート作成と発表を行い、地域理解と表現能力の向上をめざす。また、自己評価と相互評価による対話的な学びを取り入れる。 ・講義においては、紛争や民族問題などについての理解を深め、現代の社会の深く理解に導く。

備考	特になし
----	------

学年	5	科目名	解析Ⅱ			使用教科書 主教材	「数学Ⅱ Advanced」(東京書籍) 「数学B Advanced」(東京書籍)
理系・文系		必修	・必修選択・自由選択			副教材	「改訂版 4STEP 数学Ⅱ+B」(数研出版)
共通		コマ数	2.5	単位数	4		「改訂版 4STEP 数学Ⅲ」(数研出版)

目標	数列および微積分などの考え方について理解し、基本的な知識と技能の習熟を図る。 さまざまな事象を数学的に考察し、処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	数列の考え方や微積分の考え方が理解できる。また、諸問題に対して、意味をふまえて処理することができる。	現実問題をモデル化して、数学の世界に持ち込み、事象を関数的に考察することができる。	数列・微積分を用いて、事象を簡潔に表し、より複雑な現象の理解や課題の解決を図ろうとする。	多分野融合の視点を獲得し、さまざまな学習場面や探究活動において、積極的に数学を活用しようとする。
学習方法	数学的な概念を丁寧に導入し、基本を身につける。例題をともに考えながら、知識・技能の定着をはかる。また、ICTを活用しながら思考力や学びに向かう力を伸ばす。			
評価	知識・技能	40 %	定期考査・小テスト・課題テスト・提出物	
	思考・判断・表現	40 %	定期考査・小テスト・レポート	
	主体的に学習に取り組む態度	20 %	授業態度・学習意欲・提出物	

	学習内容	ねらい
1学期	1. 複素数(数学Ⅱ) 高次方程式 2. 三角関数(数学Ⅱ) 角の拡張、三角関数 課題学習、三角関数の加法定理	・高次の多項式を、低次の多項式を基礎にして考察することができる。 ・弧度法を考え、その有用性を理解する。 ・三角比を一般角まで拡張し、関数として扱うことができる。 ・三角関数の基本的な諸性質を理解する。 ・三角関数の加法定理を理解し応用することができる。
2学期	3. 数列(数学B) 数列とその和 漸化式と数学的帰納法	・さまざまな数列の一般項や和を求めることができる。 ・帰納的な定義として数列の漸化式を理解する。 ・数学的帰納法による証明方法を理解する。
3学期	4. 微分積分の考え(数学Ⅱ) 微分法と積分法 定積分と面積	・不定積分が微分法の逆演算であることを理解し、不定積分を求めることができる。 ・定積分を用いて、種々の図形の面積を求めることができる。

備考	春季休業期間に補習(必修)を開講する。
----	---------------------

学年	5	科目名	代数・幾何Ⅱ			使用教科書 主教材	「数学Ⅱ Advanced」(東京書籍) 「数学Ⅲ Advanced」(東京書籍)
理系・文系		必修	・必修選択・自由選択			副教材	「改訂版 4STEP 数学Ⅱ+B」
共通		コマ数	2	単位数	2		「改訂版 4STEP 数学Ⅲ」(数研出版)

目標	座標幾何やベクトルなどの考え方について理解し、基本的な知識と技能の習熟を図る。 さまざまな事象を数学的に考察し、処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	座標やベクトルを用いて、幾何の問題を代数的に解決しようとする。	座標やベクトルの考え方の共通性をとらえることができる。	問題に対して、座標やベクトルの意味をふまえて処理することができる。	座標幾何やベクトルの基本知識を身に付け、それらの有用性を理解する。
学習方法	数学的な概念を丁寧に導入し、基本を身につける。例題をともに考えながら、知識・理解の定着をはかる。			
評価	知識・技能	40 %	授業態度・学習意欲・定期考査・小テスト・課題テスト・提出物・レポート	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1学期	1. 図形と方程式(数学Ⅱ) 座標と直線の方程式 円の方程式 軌跡と領域	- 座標を利用して、直線や円の方程式について理解する。 - 軌跡の考え方を理解し、諸問題に応用する。 - 領域を利用して、線形計画法などの問題解決の方法を身に付ける。
2学期	2. ベクトル(数学Ⅲ) 平面上のベクトル ベクトルの応用	- 平面上のベクトルの意味、相等、和、差、実数倍、ベクトルの成分表示について理解する。 - ベクトルの内積およびその基本的な性質について理解する。 - 位置ベクトルの概念をつかみ、幾何の問題を代数的に解決する手法を身に付ける。
3学期	空間におけるベクトル	平面上のベクトルの概念を空間上に拡張して理解し、空間図形の考察にそれらを活用する。

備考	特になし
----	------

学年	5	科目名	物理			使用教材	教科書 主教材	「物理」東京書籍
理系・文系 共通	必修・必修選択・自由選択					副教材	「フォトサイエンス物理図録」数研出版	
	コマ数	2	単位数	2			「四訂版 リードα物理基礎・物理」数研出版	

目標	・物理学に関連する幅広い知識を系統的、総合的に理解できるようにする。 ・自ら課題を見だし、仮説を設定し、実験観察等により検証できる力を養成する。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を含め、科学的に考察するために必要な観察・実験の技能。	基本的な概念を応用し、真理を追求するために必要な観察・実験を行うための探究力。	物理的な事象・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度。	諸現象の本質を理解するため、主体的に探究し、自然科学への興味・関心を高めようとする態度。
学習方法	授業では物理学への興味・関心を高めることを目的とし、実験や観察を多く取り入れながら、必要に応じてシミュレーションやデジタル教材なども活用する。数学と物理の融合的な課題を積極的に扱い、物理現象の本質的理解に繋がる思考力を養う。定期考査対策として副教材の問題集を効果的に活用し、学習内容の理解をより深めることを期待する。			
評価	知識・技能	40 %	「知識・技能」、「思考・判断・表現」は主に定期考査・レポート・実験観察技能などで評価する。「主体的に学習に取り組む態度」は主に授業態度・課題の提出・出席状況などで評価する。	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1学期	1. 力のモーメント 2. 円運動 3. 単振動	・回転の効果をもたらす力のモーメントの概念を獲得する。 ・力のモーメントの概念を発展させ、物体の重心について理解する。 ・運動方程式から円運動を捉え、基本概念を獲得する。 ・物体に働く向心力や慣性力について理解する。 ・ばね振り子や単振り子の運動を調べ、単振動を理解する。
2学期	1. 波の基本的性質 2. 音波の性質 3. 光波の性質	・波の回折や反射などの基本性質を理解する。 ・音の性質やドップラー効果の仕組みを、波の性質から考察する。 ・スリットや回折格子などの観察から光の性質を理解する。 ・光の干渉の基本概念を獲得し、薄膜による干渉などの現象を理解する。
3学期	1. 万有引力 2. 運動量 3. 熱	・円運動の概念を利用して、万有引力による運動について理解する。 ・運動量の概念の獲得と、衝突する物体の運動について理解する。 ・衝突の前後で保存する物理量について理解を深める。 ・気体をミクロな視点とマクロな視点で捉え、力学的な観点と統計的な観点から理解する。

備考	特になし
----	------

学年	5	科目名	化学基礎・化学			使用教科書 主教材	「化学基礎」東京書籍 「高等学校 化学」第一学習社
理系・文系		必修	・必修選択・自由選択			副教材	「セミナー化学基礎＋化学」第一学習社 「スクエア最新図説化学」第一学習社
共通		コマ数	2.5	単位数	4		

目標	・自然科学に関する幅広い知識を系統的、総合的に身につける。 ・自ら課題を見だし、仮説を設定し、観察、実験等により検証できる力を習得する。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	観察、実験などを通して、物質の成り立ちからその変化について、本質を理解しようと努める態度。	観察、実験などを通じて、身の回りの自然現象を分析し、論理的に考察することで問題を解決できる力。	物質の本質を理解するとともに、人類が直面する諸問題と向き合い、環境や社会の持続に取り組む姿勢。	物質の成り立ちや本質を理解するため、主体的に探究し、自然科学への興味・関心を高めようとする態度。
学習方法	授業では自然科学への興味・関心を高めることを目的とし、実験や観察を多く取り入れながら、必要に応じてデジタル教材なども活用する。主に理論化学に関する内容を扱うため、定量実験を通して化学反応の量的関係について考察する力を養う。定期考査対策として副教材の問題集を効果的に活用し、学習内容の理解をより深めることを期待する（考査後にノート提出を求める）。			
評価	知識・技能	40 %	「知識・技能」、「思考・判断・表現」は主に定期考査・レポート・実験観察技能などで評価する。「主体的に学習に取り組む態度」は主に授業態度・課題の提出・出席状況などで評価する。	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1学期	物質の変化 1. 物質と化学反応式 2. 酸と塩基 3. 酸化還元反応	化学反応の量的関係、酸と塩基及び酸化還元反応について観察、実験などを通して探究し、化学反応に関する基本的な概念や法則を理解する。さらに、日常生活や社会と関連付けて考察できるようにする。
2学期	物質の状態 1. 固体の構造 2. 物質の状態変化 3. 気体の性質 4. 溶液の性質	気体、液体、固体の性質を観察、実験などを通して探究し、物質の状態変化、状態間の平衡、溶解平衡及び溶液の性質について理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察できるようにする。
3学期	物質の変化と平衡 1. 化学反応と熱・光エネルギー 2. 化学反応と電気エネルギー 3. 反応速度 4. 化学平衡	化学反応に伴うエネルギーの出入り、反応速度及び化学平衡を観察、実験などを通して探究し、化学反応に関する概念や法則を理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察できるようにする。

備考	特になし
----	------

学年	5	科目名	生物			使用教科書 主教材	「高等学校 生物基礎」第一学習社 「高等学校 生物」第一学習社
理系・文系 共通	必修・ コマ数	必修選択	自由選択	2	単位数	2	副教材 「セミナー生物」第一学習社 「スクエア最新図説生物」第一学習社

目標	- 生物学に関連する幅広い知識を系統的、総合的に理解できるようにする。 - 自ら課題を見だし、仮説を設定し、実験観察等により検証できる力を養成する。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	経験的な知識を抽象化および一般化する力。 科学的に考察するために必要な観察・実験の技能。	基本的な概念を応用し、真理を追求するために必要な観察・実験を行うための探究力。	知識の現実生活への適用と応用。生命現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度。	習得した知識を日常のトピックスに反映させる態度。生徒自身による観察実験の計画と実施。
学習方法	授業では生物学への興味・関心を高めることを目的とし、実験や観察を多く取り入れながら、必要に応じてデジタル教材なども活用する。また、最新の話題や身近な事象を積極的に扱い、生命現象の本質的理解に繋がる思考力を養う。定期考査対策として副教材の問題集を効果的に活用し、学習内容の理解をより深めるとともに、情報処理能力や表現力の向上を期待する。			
評価	知識・技能	40 %	「知識・技能」、「思考・判断・表現」は主に定期考査・レポート・実験観察技能などで評価する。「主体的に学習に取り組む態度」は主に授業態度・課題の提出・出席状況などで評価する。	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1学期	植生と遷移 1. 植生と遷移 2. バイオーム 生物と環境 1. 個体群と生物群集 2. 生態系のバランスと保全	- 植生の遷移や、気候とバイオームについて理解し、地球規模での生物環境について考察する。 - 個体群の性質や特徴を理解し、生物群集を構成する個体群間の相互作用や遷移について理解する。 - 生態系における物質生産及び生物群集と環境との関わりについて理解する。
2学期	生物の進化 1. 遺伝子の変化と遺伝子の組み合わせの変化 2. 進化のしくみ 生物の系統と進化 細胞と分子	- 生物は多様でありながら共通の起源に由来する共通性を持っていると共に、細胞の進化を地球環境の変化と関連付けて理解する。 - 細胞を構成する物質を細胞の機能と関連付けて理解する。
3学期	代謝 1. 代謝とエネルギー 2. 炭酸同化 3. 異化	生命現象におけるタンパク質の重要性を理解し、呼吸・光合成・窒素同化などについてその反応のしくみを中心に理解する。

備考	特になし
----	------

学年	5	科目名	体育			使用教科書 主教材	「最新高等保健体育」(大修館書店)
理系・文系		必修	・必修選択・自由選択			副教材	アクティブスポーツ (大修館書店)
共通		コマ数	2	単位数	3		

目標	スポーツを通して運動技術を習得し、運動技能や競技力を向上する。また、学習を通じて自己のからだへの気づきと健康の維持増進に努める。運動能力や体力の違いを理解し、適切な行動を取れるようにする。スポーツの生活化を自己とのかかわりの中で実現する主体的態度を養う。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	スポーツを楽しむために必要な技術を習得する力。ルールや技術、戦術、練習方法を理解する力。安全について理解し、実行できる力。	スポーツ場面における多様なかかわり方を理解し実践する力。仲間との関わりの中で自分の役割を果たすことができる力。	自らのからだをコントロールし、積極的に技術を習得しようとする意欲。「なかま」とともに協力し主体的に運動に親しむ態度。	「なかま」と協力しながら、運動・スポーツの「場」の充実を目指し、様々なかかわり方を理解し、実践しようとする力。
学習方法	主体的に選択した種目を、基本的には男女共習で行う。部分的、あるいは全般的なグループ学習で、生徒が主体的に各時間の目標を決め、それにあわせて練習計画を立て、実行する。			
評価	知識・技能	40 %	授業態度、学習意欲、実技、出席状況、課題の到達度などから総合的に判断する。	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1 学期	体づくり運動 体育理論 (通年) Ⅰ期 バスケットボール、バレーボール、ソフトボール、アルティメット、陸上から1種目選択 Ⅱ期 アルティメット、バドミントン、卓球、ダンス、水泳から1種目選択 ※2学期前半まで継続	・一年間を4期に分け、各期に設置された種目から4種目を開講し、そのうちの1種目を選択する。選択し参加することで主体的態度を促す。 ・目標設定と練習計画の実践を繰り返すことで、目標達成に即した安全で効果的なスポーツ実践を学ぶ。 ・体づくりは全員で取り組む。自己のからだの状態や体力を知り、体づくりの方法を学び、体力向上を目指す。 ・一年間のグループ学習を通して、男女の性差、個々の体力差などに十分に留意し生涯にわたって安全にスポーツを楽しむことができる態度を学ぶ。
2 学期	体づくり運動 (全員) Ⅲ期 バレーボール、ソフトボール、テニス、ユニホッケー、器械運動から4種目開講、1種目選択	
3 学期	Ⅳ期 サッカー(男子)、フットサル(女子)、バドミントン、卓球、武道から1種目選択	

備考	特になし
----	------

学 年	5	科目名	Topic Studies Ⅲ				使用 教材	教科書 主教材	Crossroads English Communication Ⅱ（大修館）
理系・文系 共通	必修		必修選択・自由選択					副教材	Cutting Edge Green(エミル出版) Power Frame 850（桐原書店） Wisdom 英和辞典（三省堂）
	コマ数	3	単位数	4					

目標	国際的に通用する発音、リズム、イントネーションで自分の考えや意見を表現する。幅広いトピックの英文を理解し、そこから情報を引き出す。視野を広げ、地球市民として世界を知ろうとする態度を養う。身近なトピックについて、意見を論理的に表現したり、意見の交換を行う。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	幅広い話題についての英語の学習を通して、言語の働きや運用についての知識を身につけるとともに、その知識を実際コミュニケーションにおいて活用することができる。	コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、幅広い話題について知識や得た情報を整理・活用して自分の意見や考えを構築し、英語を用いて情報や考えを表現し、伝え合うことができる。	トピックについて理解し、間違いを恐れずに自分の意見とその理由を表現しようとするとともに、相手に合わせて別の語句や表現を用いるなど工夫して伝えようとする。	ペア・ワークやグループ・ワークに積極的に参加し、集団の中で自分の役割を考え英語を学ぼうとする。辞書を活用し、自主的に調べたり、知識を広げようとする。
学習方法	身近なトピックについて、英語を読んだり、聞いたりする。読んだ内容について英語を書いたり意見交換する。まとまりのある英文を、文法や語法などに注意して読み、文章の意味を正しくつかむ。辞書を利用し、自分の力で理解しようとする。			
評価	知識・技能	40 %	定期考査、小テスト、課題、発表、授業態度、学習意欲、出席状況	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1学期	International Cooperation Environmental Issues Living with Animals	・国際的な活動を通じて、適切な支援のあり方を理解し、考えを深める。 ・衣服の消費や食品ロスについて理解し、考えを深める。 ・動物の権利について理解し、考えを深める。
2学期	Art and Culture Gender	・視覚芸術について理解し、考えを深める。 ・性別による偏見や不平等について理解し、考えを深める。
3学期	Behavioral Psychology War and Peace	・人間の行動に影響を及ぼす事柄について理解し、考えを深める。 ・花火の文化的な背景について理解し、考えを深めることができる。

備考	特になし
----	------

学年	5	科目名	Writing Ⅲ			使用教科書 主教材	EARTHRISE II(Advanced) (数研出版)
理系・文系		必修	・必修選択・自由選択			副教材	総合英語 be 4th Edition (いっずな書店) Wisdom 英和辞典 (三省堂)
共通		コマ数	1	単位数	2		

目標	英文の「つながり」と「まとまり」を持ったパラグラフを書く力をつける。 目的・場面に沿って適切な語彙・文法・表現を使って、論理的に情報や考えを伝える力をつける。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	幅広い話題についての英語の学習を通して、言語の働きや運用についての知識を身につけるとともに、その知識を用いて意見を表現しようとする。	新しく習った語句や文法を使って、目的・場面・状況等に応じて読み手を意識した文章を書くことができる。パラグラフ展開法に従って論理的な文章を書き発表することができる。	トピックについて理解し、間違いを恐れずに自分の意見とその理由を表現しようとするとともに、相手に合わせて別の語句や表現を用いるなど工夫して伝えようとする。	辞書や参考書を利用し、よりよいパラグラフになるよう工夫することができる。
学習方法	・予習・復習は、必須 ・個人活動・ペア活動・グループ活動			
評価	知識・技能	40 %	提出課題、発表、授業態度	
	思考・判断・表現	40 %	定期考査、小テスト	
	主体的に学習に取り組む態度	20 %	学習意欲、出席状況	

	学習内容	ねらい
1 学期	(Part 3) L1 さまざまな主語の形 L2 さまざまな動詞の形 L3 名詞の働きをする表現 L4 形容詞の働きをする表現 L5 副詞の働きをする表現	Part1～Part3 までの学習を通して、様々な場面で使用する英語に触れながら、以下の4技能5領域のスキルを伸ばし、「使える」英語を身につけることを目指す。 〔話す〕適切な発音で、文法・表現を正しく使って情報・考えの流れや論理に矛盾や飛躍がなく相手に伝える。 〔話す・やりとり〕相手に適切に質問や応答をすることで、必要な情報の交換をする。 〔書く〕適切な語彙、文法、表現を使って、情報・考えの流れや論理に矛盾や飛躍がなく伝える。 〔聞く〕事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどの概要をとらえる。 ・事実と意見などを区別して聞くことができる。 ・リズムやイントネーションなどの英語の音声的な特徴に注意しながら聞く。
2 学期	(Part 2) L1 感情を表す L2 助言する・忠告する/必要・義務を表す L3 勧誘する・提案する / 依頼する L4 賛成する / 反対する L5 意見を述べる/希望を述べる	
3 学期	(Part 3) L1 パラグラフの構成 L2 例示・列挙 L3 比較・対照 L4 原因・結果 L5 時間的順序・手順	

備考	特になし
----	------

学年	5	科目名	基盤探究Ⅱ (コロキウム)			使用教材	教科書 主教材	各講座において指示する。
理系・文系		必修・	必修選択	自由選択			副教材	各講座において指示する。
共通		コマ数	2	単位数	2			

目標	① 21 世紀に求められる Citizenship（市民的素養）を身に付ける。 ② “学問の根底にある精神”を中等教育において学ぶ。 ③ 文理の垣根を超えて、対話（双方向）型で学ぶ。
育てたい力	本類型では、「リベラルアーツ」（21 世紀に必要とされる教養）の習得を目的とする学校設定科目「コロキウム」の理念を継承し、授業者と選択者の対話による学びの場の形成をめざしている。 この科目は、1 年間を通じてさまざまな活動を経て生徒が人間形成していく学習・探究活動を中心とし、狭義の知識や技能の習得を目指したものではない。授業者と選択者の 1 年間の様々な思索・活動を通して、教科の枠を越えて物事を様々な視点から多角的に思考する力、粘り強くかつ協働的に探究する力の育成をめざしている。
学習方法	各担当教員のもとで、少人数（20 人程度）による、参加体験型学習と実験・実習・フィールドワークを特徴とする学習・探究活動が行われる。今年度は 5 講座が開講される。
評価	評価の観点とは「学びとったことを意味づける素養」がどのように磨き上げられていったのか、である。以下の事項を基に、この点を総合的に判断して評価する。 ・講義への取り組み方や態度 ・探究活動の発表に関する他者評価ならびに自己評価 ・各種レポート ・作品 など

	学習内容	ねらい
通年	今年度は、以下の 4 講座を開講する。 講座 1 Design & Production” ～工学の精神を学ぶ～ 講座 2 SDG s 探究ーチャレンジ「みらい甲子園」そして「みらいのまちづくり」 講座 3 創作から開く学び 講座 4 「人生幸福論」ーしあわせって何だろうー	・各講座における探究活動を通して、思考を深め、学んだことの意味や価値を再考する。 ・自他の成果を見合うことによって、共感・連帯し、同時に、自らの在り方・生き方・振る舞い方を自省し調整していく知を育む。

備考	特になし
----	------

学年	5	科目名	基盤探究Ⅱ (科学探究・社会貢献)			使用教材	教科書 主教材	特になし
理系・文系		必修・必修選択・自由選択					副教材	「課題研究メソッド」(啓林館)
共通		コマ数	2	単位数	2			研究ノート

目標	「基盤探究Ⅰ」での1年間の探究活動で身に付けた手法と姿勢を生かして、個々の課題について、個人または小集団による探究活動を行う。主体的に課題を修正あるいは発展させ、学問的手法を用いたり、社会との共創、社会貢献の視点から問題解決することができる力の育成を目指す。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	仮説の立て方や文献調査の方法、ポスターや論文のまとめ方など、探究活動に必要な知識と技能	探究活動に適する手法を正しく選択し、学問的知見や手法も用いて多角的に考察し、その成果を分かりやすく表現する力	主体的に課題を設定し、他者と協働しながら、課題を探究し深めようとする力	互いの探究活動について、様々な他者と積極的に意見を交わし、自らの探究にフィードバックする力
学習方法	・「研究ノート」等に毎回の活動内容や結果などを記録する。 ・定期的に指導教員と進捗状況や成果について確認する。 ・中間発表会および探究成果発表会で発表する。 ・1年間の研究概要をポスターやプレゼンテーション、論文等にまとめる。			
評価	以下の事項をもとに、総合的に判断して評価する。 ・探究活動への取り組み方や態度(仮説・計画・実践・改善等) ・探究活動におけるデータや研究ノート、資料等を総合したポートフォリオ評価 ・探究活動の研究発表に関する他者評価ならびに自己評価 ・毎回の活動報告シート など			

	学習内容	ねらい
1学期	1.グループまたは個人による探究活動を行う。 ・4年「基盤探究Ⅰ」で行った探究活動または新たに計画した研究テーマに関する探究活動を、個人またはグループにより行う。 適時、担当教員とのディスカッションを行う。	・各教員の指導のもと、研究計画に従って探究活動を行い、仮説の検証を行う。 ・実験や観察、フィールドワークや調査活動など、仮説の検証に適した手法を正しく選択する。
2学期	・研究計画書に従い、探究活動を展開する。 ・毎回、探究活動の進捗状況を記録し、振り返りと次回の活動内容を確認する。 ・定期的に指導教員と研究計画を確認し、必要に応じて計画を修正しながら探究活動を進める。	・指導教員や研究グループのメンバーと議論しながら探究活動を進める。
3学期	2.まとめと振り返り ・10月に中間報告会を開催する。 ・2月中旬に他学年を交えた研究成果発表会を開催し、ポスター発表を行う。 ・年度末に研究概要をまとめたポスター、またはプレゼンテーション、論文を提出する。	・必要に応じて仮説や研究計画を修正する。 ・レポートやポスター発表が学問的手法に基づいて仮説を検証したものであるかを、自他ともに正しく評価する力を習得する。

備考	特になし
----	------

学年	6	科目名	論理国語			使用教科書 主教材	論理国語（筑摩書房）
理系・文系 共通		必修	・必修選択・自由選択			副教材	『国語頻出問題 1200』（いっずな書店）
		コマ数	2	単位数	2		

目標	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。また、論理的・批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	実社会に必要な国語の知識や技能。	テキストを論理的、批判的に考える力と態度。	言葉がもつ価値への認識を深めようとする態度。自ら読みを深める態度。	他者と伝え合う力。自他の考えを吟味したり検討したりする創造的に考える力。
学習方法	・講義形式の中に、対話型学習を積極的に取り入れる。 ・論理的な文章や実用的な文章を読み、自分の意見や考えを論述する。 ・スピーチや討論などで自分の考えを表現したり、他者と相互批評したりする。			
評価	知識・技能	30 %	授業態度・定期考査・小テスト・提出物・出席状況など	
	思考・判断・表現	50 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1学期	・「ピジンという生き方」菅啓次郎 ・「自然を守るといふこと」森岡正博、等 ・「物語と歴史のあいだ」野家啓一 ・「貨幣共同体」岩井克人 ・「僕らの民主主義なんだぜ」高橋源一郎、等	・多様性をテーマとした評論を読むことによって、さまざまな主張やものの見方を理解する。また、自分なりに「問い」を持ち、考えを深める。 ・抽象的な対象についての思考を具体的にまとめる力をつける。
2学期	・「つながりと秩序」北田暁大 ・「真実の百面相」大森荘造、等 ・「ことばへの問い」熊野純彦 ・「物語としての自己」野口裕二、等 ・「思考の誕生」蓮實重彦 ・「絵画の二十世紀」前田英樹 ・「日本文化私観」坂口安吾、等 ・「何のための自由か」仲正昌樹、等	・主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈する力を養う。 ・情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠を用意し話す力を高める。
3学期	・「ものごと」木村敏 ・「過剰性と希少性」佐伯啓思、等 ・「戦争と平和についての観察」中井久夫、等	・抽象性の高い文章を整理し、理解する力を深める。

備考	特になし
----	------

学年	6	科目名	古典探究(文)			使用 教材	教科書 主教材	『古典探究 古文編』『古典探究 漢文編』 (筑摩書房)
理系・ 文系 共通		必修	・必修選択・自由選択			副教材		『体系古典文法』(数研出版)『古文単語 330』 (いづな書店)『最新国語便覧』(浜島書店) 『和歌る力がつくノート』(尚文出版)
		コマ数	3	単位数	4			

目標	さまざまな古典を読むことを通して、現代に通じる日本の伝統文化の特質や言語等についての考察を深める。また、古典を享受する力を育むべく、古文単語、古典文法・漢文句法に対する知識を深める。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	古典文法や漢文句法等の言語スキルの獲得。歴史的な言語文化に対する通時的な理解。	古典の文意を正しく捉え、自分の考えを表現する力。作品の背景を理解し言語や文化を動的に捉える力。	作品のテーマや先人のものの見方、感じ方、考え方などを的確に読み取り、自分のものの見方を豊かにする力。	言葉が持つ価値への認識を深め、言語文化の担い手として言葉を通して他者や社会に関わり学ぼうとする力。
学習方法	- 講義形式の中に、対話型学習を積極的に取り入れる。 - 古典作品のものの見方や考え方、言語文化を理解して、さまざまなジャンルの文章を読み深める。 - 文学作品の表現方法や主題などについて、自分の考えを表現したり、他者と相互批評したりする。			
評価	知識・技能	40 %	授業態度・定期考査・小テスト・提出物・出席状況など	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1 学期	- 物語文学『源氏物語』『桐壺』『夕顔』『若紫』など - 歴史物語『大鏡』『雲林院にて』『花山院の出家』『肝試し』など - 文章『春夜宴桃李園序』など - 古語、古典文法、漢文句法の総復習	- 古典のものの見方や感じ方、考え方について考察する。作品に描かれる人物の生き方を理解し、自らの生き方についても考える機会とする。 - 中国など外国文化の理解を深め、読みを深める。作者の創作上の意図を読みとる。
2 学期	- 物語『平家物語』『忠度の都落ち』など - 古典評論『無名抄』『おもて歌』など - 史伝『日本外史』『信玄何在』など - 古語、古典文法、漢文句法の総復習 - 入試問題演習、共通テスト対策問題演習	- 物語や古典評論を読み、日本人のものの捉え方や感じ方、考え方の根幹について考察を深める。 - 古典の内容や解釈を自分の知見と結びつけ、多面的・多角的な視点から読み取る。 - 大学入学共通テストや国公立大学二次試験、私立大学など、入試問題に対応できる読解能力を育成する。
3 学期	入試問題演習、共通テスト対策問題演習	入試問題に対応できる読解能力を育成する。

備考	特になし
----	------

学年	6	科目名	古典探究(理)				使用教材	教科書 主教材	『古典探究 古文編』『古典探究 漢文編』 (筑摩書房)
理系・文系 共通	必修・必修選択・自由選択							副教材	『体系古典文法』(数研出版)『古文単語 330』 (い い ず な 書店)『最新国語便覧』(浜島書店) 『和歌る力がつくノート』(尚文出版)
	コマ数	2	単位数	2					

目標	さまざまな古典を読むことを通して、現代に通じる日本の伝統文化の特質や言語等についての考察を深める。また、古典を享受する力を育むべく、古文単語、古典文法・漢文句法に対する知識を深める。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	古典文法や漢文句法等の言語スキルの獲得。歴史的な言語文化に対する通時的な理解。	古典の文意を正しく捉え、自分の考えを表現する力。作品の背景を理解し言語や文化を動態的に捉える力。	作品のテーマや先人のものの見方、感じ方、考え方などを的確に読み取り、自分のものの見方を豊かにする力。	言葉が持つ価値への認識を深め、言語文化の担い手として言葉を通して他者や社会に関わり学ぼうとする力。
学習方法	- 講義形式の中に、対話型学習を積極的に取り入れる。 - 古典作品のものの見方や考え方、言語文化を理解して、さまざまなジャンルの文章を読み深める。 - 文学作品の表現方法や主題などについて、自分の考えを表現したり、他者と相互批評したりする。			
評価	知識・技能	40 %	授業態度・定期考査・小テスト・提出物・出席状況など	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1 学期	- 物語文学『源氏物語』『桐壺』『若紫』など - 歴史物語『大鏡』『雲林院にて』『花山院の出家』など - 文章『春夜宴桃李園序』など - 古語、古典文法、漢文句法の総復習	- 古典のものの見方や感じ方、考え方について考察する。作品に描かれる人物の生き方を理解し、自らの生き方についても考える機会とする。 - 中国など外国文化の理解を深め、読みを深める。作者の創作上の意図を読みとる。
2 学期	- 物語『平家物語』『忠度の都落ち』など - 古典評論『無名抄』『おもて歌』など - 史伝『日本外史』『信玄何在』など - 古語、古典文法、漢文句法の総復習 - 共通テスト対策問題演習	- 物語や古典評論を読み、日本人のものの捉え方や感じ方、考え方の根幹について考察を深める。 - 古典の内容や解釈を自分の知見と結びつけ、多面的・多角的な視点から読み取る。 - 大学入学共通テストに対応できる読解能力を育成する。
3 学期	共通テスト対策問題演習	大学入学共通テストに対応できる読解能力を育成する。

備考	特になし
----	------

学年	6	科目名	文学探究				使用 教材	教科書 主教材	『文学国語』（筑摩書房）
理系・ 共通	文系	必修・必修選択・自由選択				副教材		『最新国語便覧』（浜島書店）	
		コマ数	1	単位数	1				

目標	言葉によって多様なものの見方・考え方を深め、言語活動を通して的確に理解し、表現する力を養う。創造的に考える力を養い、言葉を通して思考を深め、他者や社会と関わろうとする力を培う。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	社会生活に必要な国語の技能や知識を身につける力。我が国の言語文化を理解する力。	深く共感したり豊かに想像したりする力。他者との関わりの中で自分の考えを広げ深める力。	作品に表れているものの見方、感じ方、考え方などを的確に読み取る力。比較読みなどによって解釈を深める力。	言葉が持つ価値への認識を深め、言語文化の担い手として言葉を通して他者や社会に関わり学ぼうとする力。
学習方法	- 講義形式の中に、対話型学習を積極的に取り入れる。 - 文学作品のものの見方や考え方、言語文化を理解して、さまざまなジャンルの文章を読み深める。 - 文学作品の表現方法や主題などについて、自分の考えを表現したり、他者と相互批評したりする。			
評価	知識・技能	30 %	授業態度・定期考査・小テスト・提出物・出席状況など	
	思考・判断・表現	50 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1学期	- 随想・評論『小説とは何か』など - 小説『舞姫』など - 大学入試問題演習	- 言葉から広がる世界に触れ、自己と他者との境界を見つめ直し、言葉による越境の可能性を味わう。 - 小説ならではの豊かな表現と語彙を学び、情景や心情を正確に読み取る力を養う。
2学期	- 随想・評論『無常ということ』 - 小説『鞆』『水仙』など - 大学入試問題演習	- 例示の効果を確かめながら、身近な話題の背後にある問題を読み解く力を養う。 - 言葉によって作り出される、現実と非現実とが重なり合う虚構という手法によって、現実を問い直そうとする小説を読み解き、作者のメッセージを考察する。
3学期	大学入試問題演習	入試問題に対応できる読解能力を育成する。

備考	特になし
----	------

学年	6	科目名	日本史探究			使用教科書 主教材	『詳説日本史』（山川出版社）
理系・文系 共通	必修・ 必修選択	自由選択	コマ数	2	単位数	3	副教材 『新詳日本史』（浜島書店）、『詳説歴史総合徹底整理演習ノート』（実教出版）

目標	4年生までの社会科および歴史学習をふまえ、歴史事項に関する知識の習得とともに、それらを活用して、社会構造の歴史的変化を主体的に探究し、「国家とは何か」「民族とは何か」など抽象的な概念についても深く考察する力を育む。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	- 日本列島の歴史展開に関する基本事項を理解する力 - 日本列島の歴史展開に関する情報を多様な資料を活用して収集・読解する力	- 日本列島の歴史に関する諸事象の意味や相互関係を多面的・多角的に考察する力 - 適切な資料と方法を用いて説明したり、議論したりする力	- 意欲を持って学習に取り組み、課題を主体的に探究する力 - 歴史に関する総合的な理解をふまえ、地域や日本、世界のあり方を主体的に探究する力	- 他者と協働しながら、問題の所在、課題の立て方をとらえ直す力 - 歴史的・現代的な諸課題とつなげて理解し、社会へ視野を広げる力
学習方法	講義を中心に、基本的知識の習得をもとにしつつ、より高度な概念の習得をめざす。また、習得した知識や概念を活きたものとするために、意見交換や討論の時間をできるだけ取り入れるなどして、様々な課題を主体的に探究することを重視する。			
評価	知識・技能	40 %	各学期末の定期考査を中心に、レポート課題や提出物、授業での発表や出席状況、参加度などを総合的に判断して評価する。	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1学期	1. 幕藩体制の動揺 2. 近世から近代へ 3. 近代国家の成立 4. 近代国家の展開（～日清・日露戦争と国際関係）	18世紀末以降の国際情勢の変化と影響などに着目し、日本の近代国家確立過程と政治・経済・社会の変化について学ぶ。 - 近代国家を確立した日本と東アジア諸国、欧米列強との政治的・経済的諸関係について学ぶ。
2学期	5. 近代国家の展開（第一次世界大戦と日本～） 6. 近代産業と生活 7. 恐慌と第二次世界大戦 8. 占領下の日本	2つの世界大戦の背景や展開、それらが日本・国際社会の政治・経済、および人々の生活に与えた影響について多面的・多角的に考察する。 - 第二次世界大戦後の政治・経済や対外関係、また現代に至るまでの政治や社会の枠組み、国民生活の変容について学ぶ。
3学期	9. 高度成長の時代 10. 激動する世界と日本	

備考	特になし
----	------

学年	6	科目名	世界史探究				使用教材	教科書 主教材	『新詳世界史探究』（帝国書院） 自作プリント		
理系・文系 共通	必修・必修選択・自由選択				コマ数	2		単位数	3	副教材	『グローバルワイド最新世界史図表』（第一学習社）、『詳述歴史総合 徹底整理演習ノート』（実教出版）

目標	これまでの学習で培った空間・時間・現代認識を活用し、あらゆる地域の過去がいかに現在の世界を構成する要素となっているかを考え、資料を読み解く力や歴史的視座を獲得する。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	世界の諸地域における歴史的展開について、地理的条件や諸資料から読み解き理解する力	歴史的事象の意義・特色などを概念的に理解し、その概念を活用して多面的・多角的に考察、説明する力	現代の世界に生きる市民として主体的に探究し、多面的・多角的な考察に基づき深く理解しようとする力	国際情勢から日常までのあらゆる場面に、歴史的に形成されてきた諸概念との関わりを発見する力。
学習方法	講義を中心に、資料活用と基本的知識の習得を基にしつつ、より高度な概念の習得をめざす。また、修得した知識や概念を活きたものとするために、考察、意見交換、論述などを積極的に行う。			
評価	知識・技能	50 %	定期考查、課題の到達度や出席状況、学習意欲などを基に、総合的に判断して評価する。	
	思考・判断・表現	30 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1学期	2. 諸地域の交流と再編（続き） (3) 主権国家体制の成立と交易の拡大 3. 諸地域の結合・変容 (1) 環大西洋革命 (2) イギリスの覇権と欧米の国民国家建設 (3) 世界の一体化の進展とアジアの変容 (4) 世界の一体化の完成とその影響	現代の世界とは何か、その構成要素となる「国家」や「民族」「民主主義」「資本主義」の起源を探りつつ、現代の世界の本質について考える。 あらゆる地域が密接に関連しあい、不均衡に相互依存する「近代世界システム」の形成過程を具体的に学びながら、世界の現状についての歴史的視座を養い、日々の出来事を資料として読み解く力を身につける。
2学期	(5) 世界大戦の時代 (6) 戦後の国際秩序と冷戦 4. 地球世界の課題 (1) 冷戦の展開と平和の模索	広い視野と、長い時間軸で現代の世界をとらえなおし、経済や政治、文化の連関の中で考える力を養う。
3学期	(2) グローバル化する国際経済とその課題 (3) 情報と科学技術によって結びつく世界	

備考	特になし
----	------

学年	6	科目名	地理探究				使用教材	教科書 主教材	『新詳地理探究』（帝国書院）、 『新詳高等地図』（帝国書院）
理系・文系 共通	必修・必修選択・自由選択				副教材	『世界の諸地域 NOW2024』（帝国書院） 『2024 データブック オブ・ザ・ワールド』（二宮書店）、地形図（国土地理院）			
	コマ数	2	単位数	3					

目標	地理的なものの見方考え方を身につけた能力が、実生活で活用できるよう、各個人に定着する知識や技能となるようにする。また、見世物小屋的異文化理解とならないような異文化理解教育をめざす。地理総合で学んだ内容と方法を深め、持続可能な社会の構成員として行動に移せる力をつける。				
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等		学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	文理融合科目の特徴を生かし、各自の目的意識をもった「探究」活動	基礎的知識の習得とともに、活用できる知識としての定着		・問題発見&解決能力 ・読図能力 ・統計読み取り能力 ・課題提示能力	身につけた地理的能力を、課題解決に結び付けて考える力
学習方法	講義中心であるが、身近な事柄を“地理的な見方考え方”で理解できるようにする。また、獲得した基礎的な知識を生きた知識とするために、参加型学習教材の導入などを積極的に行う。				
評価	知識・技能	40	%	授業態度、学習意欲、定期考査、提出物、出席状況などを基に、総合的判断で評価する。	
	思考・判断・表現	40	%		
	主体的に学習に取り組む態度	20	%		

	学習内容	ねらい
1学期	1. 農業と生活 2. 水産業と海洋 3. 林業と森林資源 4. エネルギーと鉱工業	- 農林水産業の系統地理的学習により、地理学習の内容を整理して理解をすすめる。 - 鉱工業の地域的特性について学び、エネルギー問題についてデータから真実を読み取り、今後のエネルギー政策の在り方を考える。
2学期	5. 都市と村落 6. 交通・通信・貿易 7. グローバル 이슈ーズ (1)食糧問題 (2)人口問題 (3)開発と環境 (4)民族問題と国境紛争	- 集落の立地などについて、自然・社会の両視点から考察する。 - 交通と通信と貿易に関して、近年の状況を正しく把握する。 21世紀に顕在化しているさまざまな現代的諸問題について考察を深め、持続可能な社会の構築のために、自分たちは何ができるかを考えさせる。
3学期		

備考	特になし
----	------

学年	6	科目名	倫理				使用 教材	教科書 主教材	東京書籍「倫理」
理系・文系 共通		必修・必修選択・自由選択				副教材		東京書籍「要点マスター倫理 整理と演習」	
		コマ数	2	単位数	3				

目標	現代社会の諸問題を思想的・倫理的問題としてとりあげ、それらと向き合い、解決の道を探るために必要となる思考力を、思想家達の言葉を手がかりに育成していく。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	自分の目的意識を持って「探究」する。	基礎概念の習得と応用。	・課題追求力 ・主題的表現力 ・多角的視点に基づく意見表明および相互認識	・系統的思考方法 ・現代的課題との関連把握及び追求
学習方法	・講義形式 ・グループワーク（議論、討論、考えの共有など）、レポート作成、小テスト 等			
評価	知識・技能	50 %	定期考査・各種提出物、授業への積極的参加などをもとに、総合的判断で評価する。	
	思考・判断・表現	30 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1 学期	1. 人間とは何か 2. 青年期 3. 古代ギリシアの思想 4. ユダヤ教とキリスト教、イスラム教 5. 東洋思想（インド・中国・日本）	① 哲学や思想を学ぶ意味を考える。 ② 日常における知識を思想や哲学の言葉に置き換える力をつける。 ③ 哲学ないし思想における問いの構造の変化を理解する。
2 学期	6. 中世ヨーロッパの哲学 7. 宗教改革の思想 8. 西洋近代哲学Ⅰ（大陸合理論とイギリス経験論、社会契約説） 9. 日本における近世・近代の思想	① 宗教改革が如何にして西洋の近代を形成したのかを理解する ② 西洋近代哲学の問いの構造を理解する。 江戸期における日本独自の思想の形成と、明治以降における西洋思想の受容と日本的展開について理解する
3 学期	10. 西洋近代哲学Ⅱ（カントとドイツ観念論） 11. 現代思想（マルクス、実存主義以降） 12. 21世紀における哲学的課題	① 西洋近代との関連性および差異についての考察とともに、現代思想の問いの構造を理解する。 ② 21世紀社会が直面している諸問題を哲学的問題としてとらえる力をつける。

備考	特になし
----	------

学年	6	科目名	政治・経済				使用 教材	教科書 主教材	東京書籍「政治経済」
理系・文系		必修・必修選択		自由選択				副教材	東京書籍「要点マスター 政治経済 整理 と演習」
共通		コマ数	2	単位数	3				

目標	社会構造の変化に起因する社会問題を取りあげ、そうした諸問題が引き起こされる文脈を理解し、解決の道を粘り強く考えてゆく。授業を通して、新しい社会形成の担い手となることを目標とする。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	自分なりの目的意識を持って「探究」する。	基礎概念の習得と応用。	- 課題探究力 - 主題的表現力 - 多角的視点に基づく討論および相互認識	- 系統的思考方法 - 現代的課題との関連把握及び追求
学習方法	- 講義形式 - グループワーク（議論、考え方の共有、討論 等）、レポート作成、小テスト 等			
評価	知識・技能	50 %	定期考査・各種提出物、授業への積極的参加などをもとに、総合的判断で評価する。	
	思考・判断・表現	30 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1 学期	【政治・経済分野】 1. 選挙と民主主義 2. 議会と政治家、そして有権者 3. 権力分立と政治システム 4. 地方自治と地方分権 5. 現代の資本主義経済 6. 現代経済の仕組み 7. 日本経済の発展と現状	- 政治学の基礎的な知識の習得 - 現代日本の政治的課題について、政策科学的な視点からアプローチする力を身につける。 - 資本主義経済のあり方をそのカウンターパートとしての社会主義・共産主義や、多様なあり方（中国型、開発独裁型、社会民主主義型等）との比較の中で改めて捉えなおす。 - 戦後日本の経済史から 21 世紀日本の経済について理解し、課題を考える。
2 学期	【経済分野・国際社会分野】 8. 祉社会と日本経済の課題 9. 国際政治の仕組み 10. 国際政治と日本 11. 国民経済と国際経済 12. 国際社会の諸課題	- 国際政治—国際経済の基礎的な知識の習得 - 国際政治をめぐる諸問題について、問題解決型思考に基づいてアプローチする能力を身につける。 - 国際経済にかんして、国際収支の考え方についての基本的な理解および自由貿易体制の意義、経済発展の国際的な状況などについて考える。
3 学期	13. 国家の多様性とグローバルな問題	21 世紀世界の担い手として、どのような世界を作っていく必要があるか、国際政治学の視点に基づいて構想する力を身につける。

備考	特になし
----	------

学年	6	科目名	日本史特講			使用教科書 主教材	『詳説日本史』（山川出版社）
理系・文系 共通		必修・必修選択・自由選択				副教材	『新詳日本史』（浜島書店）、『詳述歴史総合徹底整理演習ノート』（実教出版）
		コマ数	1	単位数	1		

目標	・問題演習等を通じて、日本列島の通史を概観し各時代の特色を理解する。特に近代以降の通史について、「歴史総合」の既習事項を振り返りながら理解する。 ・原始から現代に至る日本文化の歴史の変遷について既習の政治史や経済史と関連づけ、知識を構造化する。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	・日本列島の歴史展開に関する基本事項を理解する力 ・日本列島の歴史展開に関する情報を多様な資料を活用して収集・読解する力	・日本列島の歴史に関する諸事象の意味や相互関係を多面的・多角的に考察する力 ・適切な資料と方法を用いて説明したり、議論したりする力	・意欲を持って学習に取り組み、課題を主体的に探究する力 ・歴史に関する総合的な理解をふまえ、地域や日本、世界のあり方を主体的に探究する力	・他者と協働しながら、問題の所在、課題の立て方をとらえ直す力 ・歴史的・現代的な諸課題とつなげて理解し、社会へ視野を広げる力
学習方法	基礎的・基本的な知識の獲得をもとにしつつ、より抽象的で高度な概念の獲得をめざす。また、意見交換・討論等の問題演習と講義形式とを組み合わせた知識習得・活用型学習を進める。			
評価	知識・技能	50 %	授業内に実施する小テストを中心に、課題レポートや提出物、出席状況、授業への参加度などをもとに、総合的判断で評価する。	
	思考・判断・表現	30 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1学期	1.古代の文化と社会 2.中世の文化と社会 3.近世の文化と社会	・古代の通史を概観しながら、この時代の文化の特徴を学ぶ。 ・中世の通史を概観しながら、この時代の文化の特徴を学ぶ。 ・近世の通史を概観しながら、この時代の文化の特徴を学ぶ。
2学期	3.近世の文化と社会（つづき） 4.「近代化」「大衆化」「グローバル化」概観	・18世紀以降の日本および国際社会の政治・経済・社会の動向を概観し、「近代化」「大衆化」「グローバル化」の特徴を理解する。 ・近現代の通史を概観しながら、この時代の文化の特徴を学ぶ。
3学期	5.近現代の文化と社会	

備考	特になし
----	------

学年	6	科目名	世界史特講				使用 教材	教科書 主教材	『新詳世界史探究』（帝国書院）
理系・ 共通	文系	必修・必修選択・自由選択				副教材		『グローバルワイド最新世界史図表』（第一学習社）、『詳述歴史総合 徹底整理演習ノート』（実教出版）	
		コマ数	1	単位数	1				

目標	世紀ごとの世界の概観や、文化史・法制史・経済史・東西交流史などのテーマ史学習を通じて、多角的な「世界史像」を構築することをめざす。共通テストへの演習、歴史総合の復習などを兼ねる。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	世界の諸地域における歴史的展開について、地理的条件や諸資料から読み解き理解する力	歴史的事象の意義・特色などを概念的に理解し、その概念を活用して多面的・多角的に考察、説明する力	現代の世界に生きる市民として主体的に探究し、多面的・多角的な考察に基づき深く理解しようとする力	国際情勢から日常までのあらゆる場面に、歴史的に形成されてきた諸概念との関わりを発見する力。
学習方法	基礎的・基本的な知識の獲得をもとにしつつ、より抽象的で高度な概念の獲得をめざす。また、意見交換・討論等の問題演習と講義形式とを組み合わせた知識習得・活用型学習を進める。			
評価	知識・技能	50 %	授業内に実施する小テストを中心に、課題レポートや提出物、出席状況、授業への参加などをもとに、総合的判断で評価する。	
	思考・判断・表現	30 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1学期	1. 文化史 2. テーマ史①	- 各地域、各時代の文化史を通して、世界の諸地域の特質や、現代の社会のあり方につながるものの見方の形成について考える。 - 東西交流史などのテーマ史を通して、前近代の世界の諸地域のあり方を立体的に整理しながら、歴史総合の既習事項を振り返り、世界と日本の結びつきを再認識する。
2学期 3学期	3. テーマ史②	法制史、移民史、モノの歴史などのテーマ史を扱い、近現代のグローバルな世界のあり方をさまざまな角度で「切り取る」力を身につける。

備考	特になし
----	------

学年	6	科目名	地理特講			使用教科書 主教材	『新詳地理探究』（帝国書院） 『新詳高等地図』（帝国書院）
理系・文系 共通	文系	必修・必修選択・自由選択			副教材	自作プリント等	
		コマ数	1	単位数	1		

目標	通常の地理の授業とは異なった学習方法を取り入れて、地理的ものの見方・考え方の習得と異文化に対する共感的理解を深めることをめざす。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	自分の目的意識を持って「探究」する。	基礎概念の習得と応用。	・課題追求力 ・主題的表現力 ・多角的視点に基づく 討論および相互認識	・系統的思考方法 ・現代的課題との関連 把握及び追求
学習方法	地域の様子や異文化を共感的に理解できるような、参加型学習教材を用いる。通常の授業では時間が足りなくてできない、GISに関連する作業、空中写真や地形図も積極的に用いる。また、状況が許せば地形図を持って、校外へ巡検に出かける。年度後半には、生徒の必要度に応じて、受験対策も考えている。			
評価	知識・技能	30 %	授業態度、学習意欲、提出物、発表、出席状況、課題の到達度などを基に、総合的判断で評価する。	
	思考・判断・表現	50 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1 学期	1. シミュレーション教材による学習 「遊牧民ゲーム」「焼津の遠洋漁業」「コンビニの立地」「ひょうたん島問題」「ポレポレ島」など	・シミュレーション教材により、地理的諸事象を共感的に理解させる。
2 学期	2. GIS（地理情報システム）の実習 3. 地形図等の読図、空中写真判読など 4. 国公立個別及び私立大学入試問題演習	・GISについての作業学習をすることにより、地理的情報を編集する力を身につける。 ・実際の地形図を読み取る作業を積み重ねることにより、地形の判読のスピードを上げるとともに質を高める。
3 学期		

備考	特になし
----	------

学年	6	科目名	解析Ⅲ			使用教科書 主教材	数学Ⅲ Advanced（東京書籍）
理系・文系 共通		必修・必修選択・自由選択	コマ数	3.5	単位数	5	副教材 教科書傍用 4STEP 数学Ⅲ（数研出版） NEW GLOBAL TOP 数学Ⅲ（東京書籍）

目標	極限や微積分についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	極限や微積分の計算を正確に行うとともに、関数の変化の理解や求積などを行うことができる。	微小量や区分求積法などの微積分の主要な概念を理解して、関数の変化の様子を捉えることができる。	より複雑な現象の理解や課題の解決を図ろうとしている。	多分野融合の視点を獲得し、様々な学習場面や探究活動において、適切な数学的根拠をもとに判断、主張できる。
学習方法	受験対策だけではなく、大学での学びの基礎となる部分でもあるので、高校の範囲を超えた発展的な内容も扱うことがある。			
評価	知識・技能	40 %	授業態度・学習意欲・定期考査・小テスト・提出物・レポート等で評価を行う。	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1学期	1. 関数の極限（数学Ⅲ） 関数の極限 2. 微分（数学Ⅲ） 微分法、導関数 3. 微分の応用（数学Ⅲ） 接線、関数の増減、 微分のいろいろな応用	・ 整関数、分数関数、無理関数、三角関数、指数関数および対数関数の関数値の極限を求められる。 ・ 関数の和・差・積・商の導関数、合成関数の導関数、三角関数、指数関数、対数関数の導関数が求められる。 ・ 導関数が関数の値の変化の様子を表すものであることを応用して、接線や関数値の増減について調べる。 ・ 関数の特徴に着目して不定積分や定積分の計算ができる。
2・3学期	4. 積分とその応用（数学Ⅲ） 不定積分、定積分、面積・体積 ・ 数学Ⅲの問題演習 ・ 差分方程式、微分方程式 ・ 共通テスト演習	・ 積分を応用して、各種の図形の面積や体積、曲線の長さを求めることができる。 ・ 標準的な入試問題を解くことによって、総合力を養う。 ・ 可能な限り別解も数多く取り上げ、多面的な理解を促す。 ・ 答案を添削することで、要点を押さえた記述力を養う。 ・ 発展的な内容として、差分方程式や微分方程式について取り上げる。 ・ 共通テストの形式で問題演習を行う。

備考	特になし
----	------

学年	6	科目名	代数・幾何Ⅲ			使用教科書 主教材	数学 C Advanced(東京書籍)
理系・文系 共通		必修・必修選択・自由選択	コマ数	1.5	単位数	2	副教材 教科書傍用 4STEP 数学 C (数研出版)

目標	2次曲線、複素数平面についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	いろいろな曲線の方程式について理解する。 複素数の演算の図形的な意味を理解する。	曲線の方程式を直交座標や極座標を用いて表現することができる。 平面図形の関係を、複素数を用いて表現することができる。	2次曲線、複素数平面について興味を持ち、既習の内容との関係を探ろうとする。	多分野融合の視点を獲得し、様々な学習場面や探究活動において、適切な数学的根拠をもとに判断・主張できる。
学習方法	受験対策だけではなく、大学での学びの基礎となる部分でもあるので、高校の範囲を超えた発展的な内容も扱うことがある。			
評価	知識・技能	40 %	授業態度・学習意欲・定期考査・小テスト・提出物・レポート等で評価を行う。	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1学期	1. 平面上の曲線 (数学 C) 2次曲線、媒介変数表示と極座標 2. 複素数平面 (数学 C) 複素数平面、図形への応用	・2次曲線の定義を理解し、方程式を求められる。 ・離心率を定義することによって、楕円・双曲線・放物線を統一的に表せるよさを知る。 ・複素数平面の意味を理解し、複素数平面上における複素数の実数倍、和、差、積及び商の図形的な意味を理解する。 ・複素数を用いて、平面図形の性質を考察することができる。
2・3学期	・数学 C の問題演習 ・発展的な内容	・標準的な入試問題を解き、総合力を養う。 ・可能な限り別解も数多く取り上げ、多面的な理解を促す。 ・答案を添削し、要点を押さえた記述力を養う。 ・発展的な内容として、行列について取り上げる。

備考	特になし
----	------

学年	6	科目名	数学演習				使用教材	教科書 主教材	Why 型思考をみがく大学入学共通テスト 対応問題集数学Ⅰ・A・Ⅱ・B・C
理系・文系		必修・必修選択・自由選択				副教材		プリント課題	
共通		コマ数	2	単位数	2				

目標	能力・進路に応じた講座選択により、各人の数学的な力をさらに伸ばす。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	問題を解決するとき、既知の知識と関連付けて問題の構成を理解し、多様な方法で処理し解決できる。	1つの問題をいろいろな観点から考えることができる。	進路に応じた数学を選択し、意欲的に学習しようとする。	数学の知識を総合し、適切な数学的根拠に基づいて解答を導くことができる。
学習方法	問題集に沿って、問題演習を行う。類題をプリントの演習で補う。 解法や基礎事項に関する解説を行う。 適宜実践演習を行う。			
評価	知識・技能	40 %	授業態度・学習意欲・定期考査・提出物等から評価する。	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1学期	- 数学Ⅰ・Aの問題演習（共通テスト形式） - 数学Ⅱ・B・(C)の問題演習（共通テスト形式）	- 大学入学共通テスト型の入試問題を解くことによって、総合力を養う。 - 可能な限り、別解も数多く取り上げ、多面的な理解を促す。
2学期		
3学期		

備考	特になし
----	------

学年	6	科目名	数学特講				使用教材	教科書 主教材	NEW GROBAL TOP 数学Ⅰ+A+Ⅱ+B+C
理系・文系		必修・必修選択・自由選択				副教材		プリント課題	
共通		コマ数	2	単位数	2				

目標	能力・進路に応じた講座選択をし、各人の数学的な力をさらに伸ばす。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	応用問題を解決するとき、既知の知識と関連付けて問題の構成を理解し、多様な方法で処理し、正確に解決できる。	1つの問題を多様な観点から考えることができる。また、適切な表現を用いて解答しようとする。	進路に応じた数学を選択し、意欲的に学習しようとする。	あらゆる数学の知識を総合し、適切な数学的根拠に基づいて考えを述べることができる。
学習方法	準備する問題に沿って問題演習を行う。 解答の解説や書き方を指導するための答案添削を行う。 定期的に提出課題を課す。 文理混合で習熟度別に2講座設ける。 2週間に1回は50分程度の問題実践演習を行う。			
評価	知識・技能	40 %	授業態度・学習意欲・定期考査・提出物等から評価する	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1学期	・数学ⅠAの問題演習（記述形式） ・数学ⅡBの問題演習（記述形式）	・標準的な入試問題を解くことによって、総合力を養う。 ・解法に至るアプローチを重視し、発想力を養う。 ・別解も数多く取り上げ、多面的な理解を促す。 ・答案を添削することにより、要点を押さえた記述力を養う。
2学期		
3学期		

備考	特になし
----	------

学年	6	科目名	物理			使用教科書 主教材	「物理」東京書籍
理系・文系 共通		必修・必修選択・自由選択	コマ数	2.5	単位数	3	副教材 「フォトサイエンス物理図録」数研出版 「四訂版 リードα物理基礎・物理」数研出版

目標	- 物理学に関連する幅広い知識を系統的、総合的に理解できるようにする。 - 自ら課題を見だし、仮説を設定し、実験観察等により検証できる力を養成する。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を含め、科学的に考察するために必要な観察・実験の技能。	基本的な概念を応用し、真理を追求するために必要な観察・実験を行うための探究力。	物理的な事象・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度。	諸現象の本質を理解するため、主体的に探究し、自然科学への興味・関心を高めようとする態度。
学習方法	授業では物理学への興味・関心を高めることを目的とし、実験や観察を多く取り入れながら、必要に応じてシミュレーションやデジタル教材なども活用する。数学と物理の融合的な課題を積極的に扱い、物理現象の本質的理解に繋がる思考力を養う。定期考査対策として副教材の問題集を効果的に活用し、学習内容の理解をより深めることを期待する。			
評価	知識・技能	40 %	「知識・技能」、「思考・判断・表現」は主に定期考査・レポート・実験観察技能などで評価する。「主体的に学習に取り組む態度」は主に授業態度・課題の提出・出席状況などで評価する。	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1学期	1. 光波の性質 2. 電場と電位 3. 電流 4. 電流と磁場	- スリットや回折格子などの観察から光の性質を理解する。 - 光の干渉の基本概念を獲得し、薄膜による干渉などの現象を理解する。 - 場の概念を導入し、電位と電場を理解する。 - 回路に流れる電流や電圧から、抵抗やコンデンサー、半導体など基本的な素子の性質を理解する。 - 電磁誘導を理解する。
2学期	1. 電磁誘導と電磁波	交流の発生と交流回路の特性を理解する。また、電場と磁場の相互関係によって、電磁波が発生することを理解する。
3学期	2. 電子と光 3. 原子と原子核	19世紀の後半から、徐々に明らかになっていった原子の姿を歴史に沿って理解する。特に、放射線や原子核、「光量子仮説」や「相対性原理」など、現代物理学の基礎をつくった新しい物理学に焦点を当てる。

備考	特になし
----	------

学年	6	科目名	化学			教科書 主教材	「高等学校 化学」第一学習社
理系・文系 共通	必修・必修選択・自由選択				使用 教材	副教材	「スクエア最新図説化学」第一学習社 「セミナー化学基礎＋化学」第一学習社 「2025 化学重要問題集 化学基礎・化学」数研出版 「2025 大学入学共通テスト対策チェック&演習 化学」数研出版
	コマ数	2.5	単位数	3			

目標	幅広い知識を系統的、総合的に理解できるようにする。 自ら課題を見だし、仮説を設定し、実験観察等により検証できる力を養成する。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	観察、実験などを通して、物質の成り立ちからその変化について、本質を理解しようと努める態度。	観察、実験などを通じて、身の回りの自然現象を分析し、論理的に考察することで問題を解決できる力。	身の回りの自然現象に関心を持ち、それを探究し、一般化しようとする姿勢。	物質の成り立ちや本質を理解するため、主体的に探究し、自然科学への興味・関心を高めようとする態度。
学習方法	授業では自然科学への興味・関心を高めることを目的とし、実験や観察を多く取り入れながら、必要に応じてデジタル教材なども活用する。主に有機化学と無機化学に関する内容を扱うため、観察や定性実験を通して、物質の性質や現象について考察する力を養う。定期考査対策として副教材の問題集を効果的に活用し、学習内容の理解をより深めることを期待する。			
評価	知識・技能	40 %	「知識・技能」、「思考・判断・表現」は主に定期考査・レポート・実験観察技能などで評価する。「主体的に学習に取り組む態度」は主に授業態度・課題の提出・出席状況などで評価する。	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1 学期	有機化合物 1. 有機化合物の特徴と分類 2. 脂肪族化合物 3. 芳香族炭化水素 4. 生活と有機化合物	主な有機化合物について、その化学的性質や変化を観察・実験を通して扱い、それらの物質が日常生活と深い関連があることを理解する。有機化合物の性質や反応を観察、実験などを通して探究し、有機化合物の分類と特徴を理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察する。
2 学期	無機化合物 1. 非金属元素と周期表 2. 典型金属元素 3. 遷移元素 4. 生活と無機物質 高分子化合物	無機物質の性質や反応を観察、実験などを通して探究し、元素の性質が周期表に基づいて整理できることを理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察する。 高分子化合物の性質や反応を観察、実験などを通して探究し、合成高分子化合物と天然高分子化合物の特徴を理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察する。生命体を構成する物質、生命現象と関係する化学反応、医薬品や肥料を観察・実験などを通して探究し、それらの性質や利用について理解し、化学の成果が日常生活に役立っていることを認識する。
3 学期	1. 天然高分子化合物 2. 合成高分子化合物 3. 生活と高分子化合物	

備考	特になし
----	------

学年	6	科目名	生物				使用教材	教科書 主教材	「高等学校 生物基礎」 第一学習社 「高等学校 生物」 第一学習社		
理系・文系 共通	必修・必修選択・自由選択				コマ数	2.5		単位数	3	副教材	「セミナー生物」 第一学習社 「スクエア最新図説生物」 第一学習社 「2025 生物重要問題集 生物基礎・生物」 数研出版

目標	- 生物学に関連する幅広い知識を系統的、総合的に理解できるようにする。 - 自ら課題を見だし、仮説を設定し、実験観察等により検証できる力を養成する。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	経験的な知識を抽象化および一般化する力。科学的に考察するために必要な観察・実験の技能。	基本的な概念を応用し、真理を追求するために必要な観察・実験を行うための探究力。	知識の現実生活への適用と応用。生命現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度。	習得した知識を日常のトピックスに反映させる態度。生徒自身による観察実験の計画と実施。
学習方法	授業では生物学への興味・関心を高めることを目的とし、実験や観察を多く取り入れながら、必要に応じてデジタル教材なども活用する。また、最新の話題や身近な事象を積極的に扱い、生命現象の本質的理解に繋がる思考力を養う。定期考査対策として副教材の問題集を効果的に活用し、学習内容の理解をより深めるとともに、情報処理能力や表現力の向上を期待する。			
評価	知識・技能	40 %	「知識・技能」、「思考・判断・表現」は主に定期考査・レポート・実験観察技能などで評価する。「主体的に学習に取り組む態度」は主に授業態度・課題の提出・出席状況などで評価する。	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1学期	代謝(炭酸同化, 異化) 遺伝情報とその発現	- 生命現象におけるタンパク質の重要性を理解し、呼吸・光合成・窒素同化などについてその反応のしくみを中心に理解する。 - 生物の遺伝情報の形質への反映を、細胞の分化や形態形成とも関連して理解する。
2学期	遺伝子の発現調節と発生 遺伝子を扱う技術とその応用 植物の成長と環境応答	- 遺伝子の発現調節をもとに、生物の発生過程が決定されていることを実験資料をもとに考え導き出す。 - 植物の刺激に対する反応や運動及び成長について、植物ホルモンの働きを中心に理解する。また、花芽形成と発芽の調節を日長時間や温度を元に理解する。
3学期	動物の反応と行動	刺激の需要の仕組み、ニューロンの構造、効果器での反応を理解する。また、刺激の需要と反応を元に動物の行動を理解する。

備考	特になし
----	------

学年	6	科目名	化学演習				使用教材	教科書 主教材	「化学基礎」東京書籍
理系・ 共通	文系	必修・必修選択・自由選択				副教材		「スクエア最新図説化学」第一学習社 「セミナー化学基礎＋化学」第一学習社 「2025 大学入試共通テスト対策チェック＆演習 化学基礎」数研出版	
		コマ数	1.5	単位数	2				

目標	幅広い知識を系統的、総合的に理解できるようにする。自ら課題を見だし、仮説を設定し、実験観察等により検証できる力を養成する。特に、物質の成り立ちについて、探究の方法を習得する。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	物質の成り立ちや自然科学の概念を習得し、	仮説に基づく観察・実験の課題設定、および検証できる力。	新聞や専門雑誌などを通して、化学の話題に興味関心を示す態度。	物質の成り立ちや本質を理解するため、主体的に探究し、自然科学への興味・関心を高めようとする態度。
学習方法	教科書の内容を復習し、大学入試に必要な知識の定着を図るとともに思考力を高める。問題演習では、大学入試過去問や対策用問題集などを活用し、実力を強化する。必要に応じて観察や実験も取り入れ、学習内容の理解が深まるよう工夫する。			
評価	知識・技能	40 %	「知識・技能」、「思考・判断・表現」は主に定期考査・レポート・実験観察技能などで評価する。「主体的に学習に取り組む態度」は主に授業態度・課題の提出・出席状況などで評価する。	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1 学期	これまでの学習内容の振り返りと発展的内容 ・物質の構成 ・化学結合 ・物質量と化学反応式 ・酸と塩基 ・酸化還元反応	5年生で学習した学習内容を振り返ると同時に、発展的内容も扱うことで、日常生活や産業・工業などに化学が深く関わっていることを理解する。
2 学期	大学入学共通テスト対策の問題演習	予想問題集を活用し、教科書内容の理解度を深めるとともに、大学入試共通テストに向けた実践力を身につける。
3 学期		

備考	特になし
----	------

学年	6	科目名	生物演習				使用教材	教科書 主教材	「高等学校 生物基礎」 第一学習社
理系・ 文系 共通		必修・必修選択・ 自由選択				副教材		「セミナー生物基礎」 第一学習社 「スクエア最新図説生物」 第一学習社 「2025 大学入学共通テスト対策チェック＆演習 生物基礎」 数研出版	
		コマ数	1.5	単位数	2				

目標	- 生物学に関連する幅広い知識を系統的、総合的に理解できるようにする。 - 自ら課題を見いだし、仮説を設定し、実験観察等により検証できる力を養成する。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	経験的な知識を抽象化および一般化する力。 科学的に考察するために必要な観察・実験の技能。	基本的な概念を応用し、真理を追求するために必要な観察・実験を行うための探究力。	知識の現実生活への適用と応用。生命現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度。	習得した知識を日常のトピックスに反映させる態度。生徒自身による観察実験の計画と実施。
学習方法	授業では生物学への興味・関心を高めることを目的とし、実験や観察を多く取り入れながら、必要に応じてデジタル教材なども活用する。また、最新の話題や身近な事象を積極的に扱い、生命現象の本質的理解に繋がる思考力を養う。定期考査対策として副教材の問題集を効果的に活用し、学習内容の理解をより深めるとともに、情報処理能力や表現力の向上を期待する。			
評価	知識・技能	40 %	「知識・技能」, 「思考・判断・表現」は主に定期考査・レポート・実験観察技能などで評価する。「主体的に学習に取り組む態度」は主に授業態度・課題の提出・出席状況などで評価する。	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1 学期	植生と遷移 1. 植生と遷移 2. バイオーム 生態系とその保全 1. 生態系 2. 生態系のバランスと保全	- 植生の遷移や、気候とバイオームについて理解し、地球規模での生物環境について考察する。 - 生態系の成り立ち、生態系における物質循環やエネルギーの流れについて理解する。 - 生態系のバランスと、生態系を保全することの重要性を理解する。
2 学期	文系のための生物基礎の復習と発展	4年生で学習した内容を振り返る。 - 形質の発現など最新情報も取り入れて、遺伝子とその働きの学習を深める。また、病気と人間について免疫学の観点から学習を深め、環境に適応してきた生物の進化について理解を深める。 - 過去の問題や予想問題により、共通テストのための実践力を身に着ける。
3 学期	大学入学共通テスト対策演習	

備考	特になし
----	------

学年	6	科目名	体育			使用教科書 主教材	「最新高等保健体育」(大修館書店)
理系・文系 共通		必修・必修選択・自由選択 コマ数	2	単位数	3	副教材	アクティブスポーツ (大修館書店)

目標	これまでに学習してきた多種多様な運動、スポーツの技能、戦術の向上、発展に努める。また、単元計画や授業案づくりを通して豊かなスポーツライフの実現への意欲を高め、その力量を培う。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	これまでに習得してきた力を発揮し、スポーツを楽しむ力。ルールや技術、戦術、練習方法を理解し活用する力。安全について理解し、実行できる力。	それぞれが持つ、課題の解決をめざす力。目標とする技能・技術の獲得に相応しい計画を立て、授業をマネジメントする力。	自らが立てた目標の達成に向けて、積極的に取り組む姿勢。「なかま」とともに協力し主体的に運動に親しむ態度。	「なかま」と協力しながら、運動・スポーツの「場」の充実を目指し、様々なかかわり方を理解し、実践しようとする力。
学習方法	種目の選択は生徒主体で行うが、担当教員数・使用場所などの関係で、一定の制限がある。設定された種目の中から主体的に選択した種目を基本的には男女共修で行う。教員の指導のもと、毎時間各授業担当者が作成した授業案を元に生徒が授業を進める。			
評価	知識・技能	40 %	授業態度、学習意欲、実技、出席状況、課題の到達度などから総合的に判断する。	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1 学期	体づくり運動 体育理論 (通年) 男女共習選択制 器械運動、陸上競技、球技、 武道、ダンス、ニュースポーツ、スポーツ研究などからの選択	- 選択した運動やスポーツ種目の技能や技術を高めるとともに、単元計画を立て、授業案づくりを行う。 - 集団の特性や技能のレベル等を踏まえて目標を設定し、課題解決に向けた効果的な練習内容を考え、実践していくことを学ぶ。 - 学習を通して、男女の性差、個々の体力差などに十分に留意し生涯にわたって安全にスポーツを楽しむことができる態度を学ぶ。 - スポーツの「する・見る・支える・知る」などの関わりを繰り返し経験し、スポーツとの関わり方を積極的に考えられる態度を学ぶ。
2 ・ 3 学期	体づくり運動 男女共習選択制 器械運動、陸上競技、球技、 武道、ダンス、ニュースポーツ、スポーツ研究などからの選択	

備考	バドミントンを選択する場合はラケットを、テニスはテニスシューズ、もしくはそれに類する靴底のシューズを各自で用意する。
----	--

学年	6	科目名	音楽Ⅱ			使用教科書 主教材	音楽Ⅱ Tutti+（教育出版）
理系・文系 共通	必修・必修選択・自由選択			使用教材	副教材	なし（必要に応じて）	
	コマ数	2	単位数	2			

目標	個人の専門楽器に沿った課題演習により、専門的な技能を高める。 また表現や鑑賞を通して、音楽を形づくる要素と働きを理解し、深い解釈を得る。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	創意工夫を生かした音楽表現をするための専門的な技能。また、音楽理論や音楽史に関する基礎及び応用知識。	創作背景や音楽理論等多面的に楽曲を解釈したり、その価値を考えたりして、適切な楽曲解釈を行う力を養い、また表現者としてそれを他者に伝える力を育てる。	自らの課題と向き合い、目的意識をもって主体的に活動する力。音楽活動の喜びを味わい、音楽や音楽文化に関心をもち、主体的に音楽表現や鑑賞を楽しむ力の充実を図る。	多面的な視点で楽曲を分析し、独自の解釈に基づいて表現を工夫する力。
学習方法	受講者自ら目標を持ち、主題を設定する。 必要に応じた個人演習（声楽及び器楽）を中心として活動し、その他、音楽理論、ソルフエージュ、鑑賞等、個々の進路に合わせた習熟度別の課題を行う。			
評価	知識・技能	40 %	授業態度、実技演奏等	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1学期	・面談と計画 ・演奏研究と演習（専門楽器等） ・音楽理論／音楽史 ・鑑賞 ・実技成果発表	・個々の課題や習熟度を的確に把握し、自分で目標を設定し、その達成を目指す。 ・音楽を形づくる要素を知覚感受し、深い解釈を得るためのアプローチの仕方や、専門的な知識を身につける。また、意図した音を適切に表現するための合理的な知識と技能を身につける。
2学期	・面談と計画 ・演奏研究と演習（専門楽器等） ・ソルフエージュ ・鑑賞 ・実技成果発表	・個々の課題や習熟度を的確に把握し、自分で目標を設定し、その達成を目指す。 ・音楽を形づくる要素を知覚感受し、深い解釈を得るためのアプローチの仕方や、専門的な知識を身につける。また、意図した音を適切に表現するための合理的な知識と技能を身につける。
3学期	・個人演習	

備考	特になし
----	------

学年	6	科目名	美術Ⅱ			使用教科書 主教材	高校生の美術 2（日文）
理系・文系 共通	必修・必修選択・自由選択			使用教材	副教材	なし	
	コマ数	2	単位数				
			2				

目標	美術の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を深め、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を育成する。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	主題に合った表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表す。（表現）	造形的なよさや美しさを感じ取り、発想や構想の独自性と表現の工夫などについて多様な視点から考え、見方や感じ方を深める。（鑑賞）	作品演習を行う。自然や自己、社会などを見つめ感じ取ったことや考えたことなどから主題を生成する。（表現）	主題に応じて表現形式について考え、個性豊かで創造的な表現の構想を練る。（表現）
学習方法	自らの問題点を自覚して、自ら課題設定を行い、制作する。			
評価	知識・技能	30 %	作品（計画・報告書）提出	
	思考・判断・表現	50 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1学期	○計画書作成 ○個人制作（表現：絵画・立体・デザイン） ○授業担当者による作品講評（鑑賞） ○美術史の学習（鑑賞）	◇自分で目標を設定し、それが達成できるよう計画を立てて制作を行う。道具等も自分で調達する。 ◇美術史を学び、過去の作品を自分の制作に活かせるようにする。
2学期	○計画書作成 ○個人制作（表現：絵画・立体・デザイン） ○授業担当者による作品講評（鑑賞） ○美術史の学習（鑑賞）	◇自分で目標を設定し、それが達成できるよう計画を立てて制作を行う。道具等も自分で調達する。 ◇美術史を学び、過去の作品を自分の制作に活かせるようにする。
3学期	個人制作（制作：絵画・立体・デザイン）	

備考	特になし
----	------

学年	6	科目名	Topic StudiesⅣ			使用教材	教科書 主教材	Crossroads English Communication Ⅲ (大修館)
理系・文系 共通		必修	・必修選択・自由選択			副教材		『英語の構文 150』(美誠社) 『Bird's-eye 総合英語』(エスト出版) Wisdom 英和辞典 (三省堂)
		コマ数	3	単位数	4			

目標	抽象的な概念を含む相当量の英語情報を収集・加工・発信することができ、場面・状況を考慮した高度で総合的な言語運用能力を身につける。広い世界との関わりを考え、自己を再認識する。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	幅広い話題についての英語の学習を通して、言語の働きや運用についての知識を身につけるとともに、その知識を実際のコミュニケーションにおいて活用することができる。	コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、自分の意見や考えを構築し、英語を用いて情報や考えを表現し、伝え合うことができる。	異なる言語やその背景にある文化に関心を持ち、理解し尊重しようとする。協力して言語活動に積極的に取り組もうとする。豊かなことばの使い手になる。	ペア活動・グループ活動に積極的に参加し、集団の中で英語を学ぶ。自己の学習を振り返りその結果を活用することができる。
学習方法	・予習・復習を必須とする。 ・個人活動・ペア活動・グループ活動 ・4技能の統合的活動			
評価	知識・技能	40 %	授業参加度・学習意欲 定期考査・小テスト・提出物 出席状況	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1学期	Topics ・ Life and Culture ・ Society and Communication ・ Nature and Environment ・ Science and Technology	・ 様々なトピックに関する英語を読んだり聴いたりして、自分の考えを持つ。 ・ 英語の「論理」を身につけ、critical thinking, logical thinking の力を深める。 ・ 考えたことを英語で表現し、他者との意見交換を通して自らの考えを深める。 ・ テキストタイプや読む目的に応じたリーディングスキルを身につけ、速読と精読の技術を高める。 ・ スピーキング・ライティングに資する語彙の習得を行う。
2学期	上記のテーマの中で、以下の問いにとりくむ ・ What are humans? ・ How are we connected? ・ Where have we come and where are we going?	
3学期		

備考	特になし
----	------

学年	6	科目名	Writing IV			使用教材	教科書 主教材	EARTHRISE III (数研出版) 『四訂版 入試必携英作文 Write to the Point』(数研出版)
理系・文系		必修	・必修選択・自由選択				副教材	Wisdom 英和辞典 (三省堂)
共通		コマ数	1	単位数	2			

目標	文法的正確さと文脈上の適切さを追求しつつ、自分の意見・考えをまとまりのある英文で表現する力を身につける。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	幅広い話題についての英語の学習を通して、言語の働きや運用についての知識を身につけるとともに、その知識を実際コミュニケーションにおいて活用することができる。	コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、自分の意見や考えを構築し、英語を用いて情報や考えを表現し、伝え合うことができる。	異なる言語やその背景にある文化に関心を持ち、理解し尊重しようとする。協力して言語活動に積極的に取り組もうとする。豊かなことばの使い手になろうとする。	ペア活動・グループ活動に積極的に参加し、集団の中で英語を学ぶ。自己の学習を振り返りその結果を活用することができる。
学習方法	・予習・復習を必須とする。 ・教科書や入試問題の演習を行う。 ・添削指導を行う。			
評価	知識・技能	40 %	授業参加度・学習意欲	
	思考・判断・表現	40 %	定期考査・小テスト・提出物	
	主体的に学習に取り組む態度	20 %	出席状況	

	学習内容	ねらい
1 学期	・主語の決定 ・目的の表現 ・理由の表現 ・時制 ・動詞の語法 (SVOC)	・目的・場面・状況に応じた表現方法と、さまざまな分野の語彙を習得する。 ・表現する英文の文法的正確さを高める。 ・和文英訳については、日本語を正確に読み取って自然な英語で表現できるようにする。 ・伝えたい内容に応じた段落構成を考えて、自分の意見や考えを適切に表現する。
2 学期	・関係代名詞と関係副詞 ・時間の表現 ・数字の表現 ・仮定と条件の表現 (基本と応用)	
3 学期	・比較の表現 (基本と応用) ・譲歩の表現	

備考	特になし
----	------

学年	6	科目名	英語探究				使用教材	教科書 主教材	『READING HOPE 大学共通テストリーディング対策』(美誠社) Listening Laboratory Advanced (数研出版)
理系・文系		必修・必修選択・自由選択				副教材		Wisdom 英和辞典 (三省堂)	
共通		コマ数	2	単位数	2				

目標	幅広い話題に関するさまざまな媒体・文章形式の英文を読んだり聞いたりして、情報を迅速かつ正確に処理するとともに必要な情報や概要・要点を把握する力を身につける。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	幅広い話題についての英語の学習を通して、言語の働きや運用についての知識を身につけるとともに、その知識を実際コミュニケーションにおいて活用することができる。	コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、自分の意見や考えを構築し、英語を用いて情報や考えを表現し、伝え合うことができる。	異なる言語やその背景にある文化に関心を持ち、理解し尊重しようとする。協力して言語活動に積極的に取り組もうとする。豊かなことばの使い手になろうとする。	ペア活動・グループ活動に積極的に参加し、集団の中で英語を学ぶ。自己の学習を振り返りその結果を活用することができる。
学習方法	問題集に沿って、大学入学共通テストを想定したリスニングと読解の問題演習を行う。 大学入学共通テストの模擬演習を行う。			
評価	知識・技能	40 %	授業参加度・学習意欲 定期考査・提出物・出席状況	
	思考・判断・表現	40 %		
	主体的に学習に取り組む態度	20 %		

	学習内容	ねらい
1 学期	- リスニング演習 - 英文読解演習 - 大学入学共通テストの模擬演習	- さまざまな形式(日常会話、議論、講義など)のリスニングを通して必要な情報や概要・要点を聞き取る力を養う。 - さまざまな媒体(広告、ブログ、新聞記事、物語文など)や資料(表、グラフなど)の読解演習を通して多様な文章表現に触れ、情報を迅速に処理し必要な情報や概要・要点を正確に読み取る速読力を高める。 - 幅広い分野の語彙を習得する。
2 学期		
3 学期		

備考	特になし
----	------

学年	6	科目名	基盤探究Ⅲ (科学探究・社会貢献)			使用 教材	教科書 主教材	特になし
理系・文系 共通	必修・必修選択・自由選択			使用 教材	副教材	「課題研究メソッド」(啓林館) 研究ノート		
	コマ数	2	単位数			2		

目標	「基盤探究Ⅱ」での1年間の探究活動で身に付けた手法と姿勢を生かして、個々の課題について、個人または小集団による探究活動を行う。主体的に課題を修正あるいは発展させ、学問的手法を用いたり、社会との共創、社会貢献の視点から問題解決することができる力の育成を目指す。			
育てたい力	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	学びを活性化する力
	仮説の立て方や文献調査の方法、ポスターや論文のまとめ方など、探究活動に必要な知識と技能	探究活動に適する手法を正しく選択し、学問的知見や手法も用いて多角的に考察し、その成果を分かりやすく表現する力	主体的に課題を設定し、他者と協働しながら、課題を探究し深めようとする力	互いの探究活動について、様々な他者と積極的に意見を交わし、自らの探究にフィードバックする力
学習方法	・「研究ノート」等に毎回の活動内容や結果などを記録する。 ・定期的に指導教員と進捗状況や成果について確認する。 ・中間発表会および探究成果発表会で発表する。 ・1年間の研究概要をポスターやプレゼンテーション、論文等にまとめる。			
評価	以下の事項をもとに、総合的に判断して評価する。 ・探究活動への取り組み方や態度（仮説・計画・実践・改善等） ・探究活動におけるデータや研究ノート、資料等を総合したポートフォリオ評価 ・探究活動の研究発表に関する他者評価ならびに自己評価 ・毎回の活動報告シート など			

	学習内容	ねらい
1学期	1.グループまたは個人による探究活動を行う。 ・5年「基盤探究Ⅱ」で行った探究活動または新たに計画した研究テーマに関する探究活動を、個人またはグループにより行う。適時、担当教員とのディスカッションを行う。	・各教員の指導のもと、研究計画に従って探究活動を行い、仮説の検証を行う。
2学期	・研究計画書に従い、探究活動を展開する。 ・毎回、探究活動の進捗状況を記録し、振り返りと次回の活動内容を確認する。 ・定期的に指導教員と研究計画を確認し、必要に応じて計画を修正しながら探究活動を進める。	・実験や観察、フィールドワークや調査活動など、仮説の検証に適した手法を正しく選択する。
3学期	2.まとめと振り返り ・9月に中間報告会を開催する。 ・公開研究会または研究成果発表会を開催し、ポスター発表を行う。 ・年度末に研究概要をまとめたレポートまたは論文を提出する。	・指導教員や研究グループのメンバーと議論しながら探究活動を進める。 ・必要に応じて仮説や研究計画を修正する。 ・レポートやポスター発表が学問的手法に基づいて仮説を検証したものであるかを、自他ともに正しく評価する力を習得する。

備考	
----	--

高大接続カリキュラム開発

文理統合探究

PICASOコース

(Program for Integrated Curriculum of Arts and Science Objective)

Syllabus

2024年度

■「文理統合的視点」について：「文理統合的視点」とは、文系と理系それぞれに関する知識やリテラシーの単なる習得ではない。そこには、＜文をも理をも俯瞰しうる視座（＝統合的視点）の獲得＞を目指すことが含意されている。「俯瞰しうる視座」とは、文と理における科学的精神や方法等において、なにが両者に通底し、どこが異なるのかの批判的把握などによって獲得された視点を指す。このことにより高校・大学において、既存科目を受講する際にもより深い学びが可能となったり、自ら研究をおこなう際にも、より創意に富んだテーマ設定や探究につながる事が期待される。

※連絡などはPICASOのクラスルームでします。必ず毎日チェックするようにして下さい。

※大学で講義が無い日は毎水曜日にメディア教室で出欠確認と連絡（13:35～）があります。

月	日	曜	回	基盤探究	プログラムの流れ	実践探究
4	8	月	0	オリエンテーション	高2高3年生。始業式後に実施。 ①講義を受けながら、関心のある探究テーマの分野について、自主的に調査活動をはじめめる。 ②関心のあるテーマについての先行研究調査を進める。 ③探究計画書の作成を進める。	①個人の探究活動を進める。 ②附属の指導教員に引き続き指導を仰ぐ ③附属の指導教員と相談しつつ大学アドバイザー教員のアドバイスを受ける ④探究成果発表会 7/19?（予定）
	10	水	1	講義① 探究への導入		
	17	水	2	庄司淳先生 E108		
	24	水	3	庄司淳先生 E108		
5	8	水	4	山本一樹先生 A201		
	15	水	5	山本一樹先生 A201		
	22	水	6	探究活動		
	29	水	7	探究活動		
6	5	水	8	高岡尚子先生		
	12	水	9	高岡尚子先生		
	19	水	10	探究活動		
7	10	水	12	探究活動・高2探究計画書提出		
	17	水	13	高校3年生探究成果発表		
9	4	水	14	大塚浩先生	備考：9/18 中等学園祭準備 備考：10/5 高大連携入試？ ④学校指導教員のサポートの下、大学アドバイザー教員のアドバイスを 得て、探究活動を進める ⑤講義と並行して、探究活動を進める。 ⑥全2回のアドバイスを大学アドバイザー教員より受ける。	⑤口頭発表・提出論文等の準備を進める
	11	水	15	大塚浩先生		
	25	水	16	探究活動		
10	2	水	17	探究活動		⑥探究活動のまとめ ・各種発表会における発表の準備
	9	水	18	探究活動		
	16	水	19	探究活動		
	23	水	20	探究活動		
	30	水	21	探究活動		
11	6	水	22	探究活動		
	13	水	23	探究活動		
	20	水	24	探究活動		
1	15	水	25	探究活動	備考：1/22 附属中等入試 ：2/中下旬一条学年末考査 ⑦3月のポスター発表に向けて、指導教員のサポートを仰ぐ。 ⑧学校指導教員と相談しつつ大学アドバイザー教員のアドバイスを受ける。	
	29	水	26	探究活動		
2	5	水	27	探究活動		
	12	水	28	探究活動		
	19	水	29	探究活動		
	26	水	30	探究活動		
3	?			高校2年生探究成果発表		

※2023年度から、講義は原則として大学で実施されます。一条高校もPICASOコースに参加します。

光合成に着目したモノづくり

工学部工学科

庄司 淳 先生

私たちの身の回りは様々な物質であふれています。新しい材料や素材を開発するためには多様な視点から物事を考えることが大切ですが、物質は原子や分子から構成されているので化学的な視点から考えることもとても重要です。この講義では身の回りの物質がどんな機能を持っているかについて考えていきます。

例えば、生物が行なっている光合成は地球上で最も優れた化学反応の1つです。光合成は言葉の通り「光」を使って物質（糖類）が「合成」される反応です。光は光合成をする生物の成長に重要な働きをします。では、どんな色の光が光合成に有効なのでしょう。光合成生物はクロロフィル分子（葉緑素）という色素を持っており、この色素が光合成を開始させています。植物がもつクロロフィル-*a* 分子は赤色光や青色光を吸収するので、これらの光を植物に供給すると成長に効果的であることが知られています。植物の成長に効果的な光を出す材料を開発することで、食糧問題やエネルギー問題の解決が期待されます。このような材料を開発するための研究方法と分子を評価するための分光測定装置について学んでいきます。

【授業概要】

1. 光合成から学ぶモノづくり

光合成の仕組みを学び、その仕組みを利用した材料の研究について説明します。

2. 分光測定装置の紹介

分子の構造や機能を評価するための測定装置の概略を説明します。

参考文献

光化学協会編、井上晴夫監修（2016）『夢の新エネルギー「人工光合成とは何か」』講談社

【育成したい資質・能力のキーワード】

好奇心、洞察力、論理的思考力

光が生み出す不思議な現象を実験しよう

理学部数物学科物理学コース

山本 一樹 先生

私たちの身の回りは光であふれています。文明の発展と共に、照明としては、松明・ローソク・ランプ・白熱電球・蛍光灯・白色 LED（発光ダイオード）と進化してきました。映像を見る手段のモニター・ディスプレイとしては、ブラウン管から始まり液晶や有機 EL と進化しています。また、新たな光であるレーザー光線は通信や測量などいろいろなところで活躍しています。さらに、太陽電池による太陽光発電が可能になり、人工衛星から家庭での発電までへと広がっています。また、これらはこれからも発展し続けることでしょう。もちろん、これら製品そのものの特長を知るだけではなく、社会における役割をも知るためには、光の性質を理解することが重要となります。

例えば、地球温暖化防止のため、白色 LED 照明や太陽光発電が推奨されますが、電気の使用量が少ないことや二酸化炭素を出さずに発電できることが直接の理由ですが、なぜそうなのか知るためには、発光の物理学や光と物質の相互作用の理解が必要です。

本講義では、授業概要に記した順番で、中学・高校での光の性質（特に光の進み方）の話から始まり、ニュートンとホイヘンスの光は波であるか粒子であるかの論争、光は波である証明のヤングによる回折実験、光が横波であることの偏光板実験、電磁波としての光の説明、白熱電灯・ローソク・水銀灯・蛍光灯などの回折格子フィルムでのスペクトル実験、太陽電池・レーザー光線の実験など、実験を通じて光の性質を考えます。

【授業概要】

1. 光とは何か・光の進み方について

光の進み方を説明すると共に、光は波であるか・粒子であるかの論争、光は横波であること、光が電磁波であることの説明を、実験を交えて行う。

2. 発光の仕組み・光と物質の相互作用

白熱電灯などの光のスペクトル実験を行い、光が生み出される物理学について考える。また、太陽電池や発光ダイオードの実験を通し、光と物質の相互作用を考える。

講義後の自主学習

1. 配布された偏光板を使って、身の回りにあるいろいろな光の偏光の様子を理解する。
2. 配布された回折格子フィルムを使って、身の回りにあるいろいろな光のスペクトルを理解する。

【育成したい資質・能力のキーワード】

物理的に現象を考える力、実験を通じて現象を把握する力

テキストの読みほどこき方について考える

文学部言語文化学科ヨーロッパ・アメリカ言語文化学コース

高岡 尚子 先生

私たちは日々さまざまなものを読みますが、書かれたテキストをどのように読み、どのような問題へとつながっていくかについて、常に意識的であるとは限りません（むしろ、あまり意識せずに読んでいないことの方が多いかもかもしれません）。たとえば、同じひとつのテキストを読んでも、人によって違った点に注目することもあるでしょうし、同じ点に注目したとしても、捉え方はさまざまである可能性が高いです。さらに、同じ人が同じテキストを読んでも、時によって異なった印象を受けることもあるでしょう。

このように「書かれたもの」（＝テキスト）が読む人に読む度に異なる問題点を提示するのは、そのテキスト自体が重層的な意味や機能を持っているからなのかもしれません。では、こうした複雑なテキストを読みほどこくための方法はあるのでしょうか？この講義では、おもに文学作品を読み解くための方法論（批評理論）を紹介し、テキストをいくつか読むことに挑戦してみたいと思います。読む方法を論じる世界を垣間見ること、で、「読み」に対する感度が上がるのでしょうか？また、その「読み」の実践を自己の内部で完結させず、外へとつなげる方法はあるのでしょうか？実際に経験してみましょう。

【授業概要】

- 第1回目 テキストを読むための批評の方法をいくつか学びます。また、実際に作品の冒頭を観察しつつ、問題の発見と探究への展開について考えます。
- 第2回目 サン＝テグジュペリ『星の王子さま』とボーヴォワール『離れがたき二人』に付けられた「献辞」を、実際に読んでみます。一部、グループ活動も取り入れる予定です。

○講義後の自主学習

講義内で扱ったテキストについて、自身が見出した問題点とそこから探究テーマを展開する道筋（の可能性）を示してください。

【参考文献】

阿部公彦（2017）『名作をいじる 「らくがき式」で読む最初の1ページ』立東舎
小倉孝誠編（2023）『批評理論を学ぶ人のために』世界思想社

【育成したい資質・能力のキーワード】

観察、問題発見、多面的な考察、つながりの模索

日本の法システムについて考える

生活環境学部文化情報学科生活文化学コース

大塚 浩 先生

皆さんは、法というものについてどのようなイメージをもっているだろう。自分には縁遠い、興味がない、という人も多いだろうし、またネットやテレビで政治問題、社会問題から芸能人のスキャンダルまで意外に法律問題とかかわっていることに気づいて、関心をもっている人もいるかもしれない。ただ、その場合も法律上こうなっているという専門家の解説を聞いても断片的であり腑に落ちない、ということも多いかもしれない。

実は、法というものの性格は上に述べたような私たちが法に抱く一般的感覚と深く結びついているものである。法は普段の日常生活の中では私たちにみえにくい、じつはこの社会の隅々までを規律するものである。そのことは、何か問題が起こって、法の適用を受けたり（例えば、犯罪や税金の追徴）した時や、紛争当事者になって法を利用しなければその解決が難しくなった時（たとえば、相続問題やお金の貸し借り）にはじめて気づくような性格を持っているということである。だからこそ、生活のための知識としての法律について市民が一定の知識を持っていることがもちろん重要であるのだが、そのような視点とはまた異なった法についての見方も重要である。

つまり、そもそも法というこの社会を規律する規範の集合体を私たちの社会において実現する仕組みはどのようなものであり、そこに、私たちいわば法のユーザーにとってどのような問題が伏在しているのかを知るための分析的視点の必要性である。言い換えると法規範そのものについての解釈・適用という裁判官や弁護士の視点のみならず、それら専門家を含む法システムの作動のプロセス全体を視野に入れ、それが真に私たち市民にとって望ましいものとなっているか批判的に吟味しなければならないのである。この授業ではそのような視点から法システムの実際の作動のあり方を刑事分野・民事分野にまたがって幅広く学習していきたい。

参考文献

宮澤節生・武蔵勝宏・上石圭一・菅野昌史・畑浩人・大塚浩・平山真理著（2023）『ブリッジブック法システム入門』信山社

【育成したい資質・能力のキーワード】

法システム、法律専門職、刑事手続、民事手続